外国語学研究科

目　　次

中国語学専攻修士課程科目編成表 …… 5
中国語学専攻修士課程シラバス …… 7
英語学専攻博士課程前期課程科目編成表 …… 17
英語学専攻博士課程前期課程シラバス …… 19
英語学専攻博士課程後期課程科目編成表 …… 35
英語学専攻博士課程後期課程シラバス …… 37
日本言語文化学専攻博士課程前期課程科目編成表 …… 43
日本言語文化学専攻博士課程前期課程シラバス …… 45
日本言語文化学専攻博士課程後期課程科目編成表 …… 57
日本言語文化学専攻博士課程後期課程シラバス …… 59
共通科目シラバス
（中国語学専攻修士課程・英語学専攻博士課程前期課程・日本言語文化学専攻博士課程前期課程）…… 63

平成21年度中国語学専攻　修士課程　科目編成表

○専任、△非常勤

授業科目	単位	専・非	担当者名	備考	ページ
（専攻科目）					
中国語学特殊研究Ⅰ	4	○	丁　鋒	①修士論文の執筆には演習および当該特殊研究を履修しなければならない。 専攻科目の演習の単位数については、2年連年履修で4単位とする（単年度履修は2単位。）	7
中国語学演習Ⅰ	2・4	○	丁　鋒		7・8
中国語学特殊研究Ⅱ	4	○	高橋弥守彦		8
中国語学演習Ⅱ	2・4	○	高橋弥守彦		9
中国語学特殊研究Ⅲ	4	○	中嶋幹起		10
中国語学演習Ⅲ	2・4	○	中嶋幹起		10・11
中国語学特殊研究Ⅳ	4	○	中村浩一		11
中国語教育学特殊研究Ⅰ	4				
中国語教育学演習Ⅰ	2・4				
中国語教育学特殊研究Ⅱ	4	○	瀬戸口律子		12
中国語教育学演習Ⅱ	2・4	○	瀬戸口律子		12・13
中国言語文化研究	4	○	大島吉郎		13
（実習科目）					
中国語コミュニケーション実習Ⅰ	2			①4単位までは現地語学研修で修得した単位を振替えることができる。	
中国語コミュニケーション実習Ⅱ	2	○	肖　賢彬		14
中国語コミュニケーション実習Ⅲ	2	○	鄭　新培		14
中国語コミュニケーション実習Ⅳ	2	△	高　増杰		15
中国語コミュニケーション実習Ⅴ	2	△	陶　絢		15
中国語コミュニケーション実習Ⅵ	2	△	陶　絢		16
（共通科目）					
言語学特殊講義Ⅰ	4	○	平林幹郎		63
言語学特殊講義Ⅱ	4	○	福盛貴弘		63
外国語教授法特殊講義	4	○	田口悦男		64
第二言語習得理論	4			（開講せず）	
社会言語学特殊講義	4	△	朝日祥之		64
対照言語学Ⅰ（日英）	4			（開講せず）	
対照言語学Ⅱ（日中）	4	○	高橋弥守彦		65
対照言語学Ⅲ（日韓）	4	△	森山　新		65
比較文化論特殊講義	4			（開講せず）	
映像メディア文化論	4	○	西川栄紀		66
情報文化論	4	△	今　防人		66
言語情報処理論	4	○	米山聖子		67
マルチメディア教育論	4	△	石毛文茂		67

修了必要条件：必修単位数　　32単位＋修士論文

単位数内訳：　1）専攻科目　16単位

2）実習科目　　8単位

3）共通科目　　8単位

授業科目	中国語学特殊研究１	4単位	担当者名	丁　鋒
授業の概要	本科目は中国語学の修士課程の院生が大学で学ばなかった、大学院生として必要な基礎知識を補うことと、一層、修士課程段階で課題研究に必要な専門知識を提供することを目的とする。中国語学の研究分野と研究領域が多岐だが、基礎として、横の漢語論と縦の語史論が中心となり、他に研究論としての言語学理論も重要である。故に現代漢語、古代漢語、中国語史、言語学など4方面の知識はこの科目の根幹となり、中国語学研究の入門ともいえる。毎年、新入生の語学レベルが異なるので、授業はそれに合わせ、調節しながら実行している。			
成績評価の基準と方法	レポートや宿題の成績評価と出席率で総合評価する。			
履修条件	1、予習は必ずすること。 2、辞書を教室に持ち込むこと。 3、よく考え、質問をよくすること。 4、疑問点を感じ、問題意識をつねにもつこと。			
教科書	1、中国語版：『現代漢語』（北京大学中文系現代漢語教研室編　商務印書館　2004年） 日本語版：『現代中国語総説』（同上編　松岡栄志等訳　三省堂　2004年） 2、『古代漢語』（復旦大学出版社） 3、『漢語史綱要』（史存直　中華書局　2008） 4、『語言学通論』（王徳春　北京大学出版社　2006）			
参考文献・資料等				
授業計画 (授業の内容等)	1.『現代中国語総説』：序論 2.『現代中国語総説』：音声１ 3.『現代中国語総説』：音声２ 4.『現代中国語総説』：音声３ 5.『現代中国語総説』：文字１ 6.『現代中国語総説』：文字２ 7.『現代中国語総説』：語彙１ 8.『現代中国語総説』：語彙２ 9.『現代中国語総説』：文法１ 10.『現代中国語総説』：文法２ 11.『現代中国語総説』：文法３ 12.『古代漢語』：序論 13.『古代漢語』：文字１ 14.『古代漢語』：文字２ 15.『古代漢語』：語彙１		16.『古代漢語』：語彙２ 17.『古代漢語』：音韻１ 18.『古代漢語』：音韻２ 19.『漢語史綱要』：音韻史１ 20.『漢語史綱要』：音韻史２ 21.『漢語史綱要』：語法史１ 22.『漢語史綱要』：語法史２ 23.『漢語史綱要』：語彙史１ 24.『漢語史綱要』：語彙史２ 25.『語言学通論』：言語と言語学１ 26.『語言学通論』：言語と言語学２ 27.『語言学通論』：理論言語学１ 28.『語言学通論』：理論言語学２ 29.『語言学通論』：応用言語学１ 30.『語言学通論』：応用言語学２	

授業科目	中国語学演習Ⅰ（1年用）	2単位	担当者名	丁　鋒
授業の概要	この演習は、「中国語学特殊研究Ⅰ」の講義内容を踏まえ、さらに修論に関わる専門分野の知識を身につけるための読書指導と、修論を作成するため、各種の問題や疑問を解決し、細かい指導を行うことを目的とする。受講者は1年生となり、それぞれの学習状況（課題、進展、分野、基礎など）に応じて、プランを立て実現させる。授業の内容は、論著学習、資料研究、進展報告、個人指導など多岐にわたり、学習目標に根気よく向かう。指導大勢に応じて、授業計画を微調節する場合がある。			
成績評価の基準と方法	1学習の中間成果になる投稿論文の出来具合。 2学習や研究の意欲と取り組む姿勢。			
履修条件	1修論を書くための一年生しか履修可能。 2強く研究意識をもつこと。 3学習や研究に専念すること。			
教科書	『中国語言文字資料学』（高小方）南京大学出版社　1998年3月 『中国古代語言学史』（何九盈）広東教育出版社　1995年9月 『中国現代語言学史』（何九盈）広東教育出版社　1998年3月 『漢語史稿』（王力）中華書局　1980年6月（重排本） 『中国言語学史』（大島正二）汲古書院　1997年3月 『現代漢語』（黄伯栄等）高等教育出版社　1991年1月 『語言論』（徐通鏘）東北師範大学出版社　1997年7月 『近代漢語語法史研究綜述』（蒋紹愚等）商務印書館　2005年12月など			
参考文献・資料等	重要学術論文			
授業計画 (授業の内容等)	1.『中国語言文字資料学』(1) 2.『中国語言文字資料学』(2) 3.『中国語言文字資料学』(3) 論文指導 4.『中国語言文字資料学』(4) 5. 重要学術論文講読（1） 6.『中国古代語言学史』(1) 論文指導 7.『中国古代語言学史』(2) 8.『中国古代語言学史』(3) 9.『中国古代語言学史』(4) 論文指導 10. 重要学術論文講読（2） 11.『中国現代語言学史』(1) 12.『中国現代語言学史』(2) 論文指導 13.『中国現代語言学史』(3) 14.『中国現代語言学史』(4) 15. 重要学術論文講読（3）論文指導		16.『漢語史稿』(1) 17.『漢語史稿』(2) 18.『漢語史稿』(3) 論文指導 19.『漢語史稿』(4) 20. 重要学術論文講読（4） 21.『語言論』(1) 論文指導 22.『語言論』(2) 23.『語言論』(3) 24.『語言論』(4) 論文指導 25. 重要学術論文講読（5） 26.『近代漢語語法史研究綜述』(1) 27.『近代漢語語法史研究綜述』(2) 論文指導 28.『近代漢語語法史研究綜述』(3) 29.『近代漢語語法史研究綜述』(4) 30. 重要学術論文講読（6）論文指導	

授業科目	中国語学演習Ⅰ（修論指導）	2単位	担当者名	丁　鋒
授業の概要	この演習は、「中国語学特殊研究Ⅰ」と一年生の「中国語学演習Ⅰ」を履修した二年生を対象とするものであり、修論の年度内完成に目指し、一層綿密な研究や指導を行うことを中心内容とる。受講者は多数の専門著作と学術論文を精読することを励む同時に、資料の収集法、語学の研究法、論文の作成法など方法論を習うことで、研究者としての素質を養う。修論の作成にあたり、該当課題の今までの先行研究を全面的に把握し、最新の研究に関心を持ち、自分なりの研究成果を出すことを強く意識しながら、学界に認められる質の良い論文を仕上げなければならない。講義は研究分野により、内容は毎年変更があるが、音韻学（近代漢語音韻）課題の場合は一例として以下のように設定している。			
成績評価の基準と方法	1 修論の出来具合。 2 学習や研究の成果 3 研究に取り組む姿勢。			
履修条件	1 修論を書く二年生しか履修できない。 2 強く課題意識と学術意識をもつこと。 3 成果を一所懸命出すこと。			
教科書	『中国古代韻書』（趙誠）　中華書局　1991 年 『中国歴代音韻学文選』（汪寿明）　華東師範大学 2003 年 『切韻音系研究』（邵栄芬）　中国社会科学出版社　1980 年 『漢語音韻学』（董同和）　中華書局　1983 年 『中原音韻表稿』（寧継福）　吉林文史出版社　1985 年 『明清官話音系』（葉寶奎）　厦門大学出版社　2001 年 『明清等韻学通論』（耿振生）　語文出版社　1992 年など			
参考文献・資料等	他に重要な単篇論文			
授業計画（授業の内容等）	1.『中国古代韻書』(1) 2.『中国古代韻書』(2) 論文指導 3.『中国古代韻書』(3) 4. 音韻学重要論文講読 (1) 論文指導 5.『中国歴代音韻学文選』(1) 6.『中国歴代音韻学文選』(2) 論文指導 7.『中国歴代音韻学文選』(3) 8. 音韻学重要論文講読 (2) 論文指導 9.『切韻音系研究』(1) 10.『切韻音系研究』(2) 論文指導 11.『切韻音系研究』(3) 12.『切韻音系研究』(4) 論文指導 13. 音韻学重要論文講読 (2) 14.『漢語音韻学』(1) 論文指導 15.『漢語音韻学』(2)		16.『漢語音韻学』(3) 論文指導 17.『漢語音韻学』(4) 18. 音韻学重要論文講読 (3) 論文指導 19.『中原音韻表稿』(1) 20.『中原音韻表稿』(2) 論文指導 21.『中原音韻表稿』(3) 22.『中原音韻表稿』(4) 論文指導 23. 音韻学重要論文講読 (4) 24.『明清官話音系』(1) 論文指導 25.『明清官話音系』(2) 26.『明清官話音系』(3) 論文指導 27. 音韻学重要論文講読 (5) 28.『明清等韻学通論』(1) 論文指導 29.『明清等韻学通論』(2) 30.『明清等韻学通論』(3) 論文指導	

授業科目	中国語学特殊研究Ⅱ	4単位	担当者名	高橋　弥守彦
授業の概要	教科書により、一般的な中国語の知識を全体的に学習するが、特に連語論と談話言語学の立場から現代中国語文法と中日対照言語学について講義する。			
成績評価の基準と方法	出席とレポート・論文によって評価する。			
履修条件	講義テーマを決めて講義を進めるので、当該の先行研究や言語事実をよく調べ質問や討論ができるようにしてくること。			
教科書	『実用詳解中国語文法』（高橋弥守彦著　郁文堂）			
参考文献・資料等	日本や中国で出版される学会誌をよく読むこと。『中国語文法概論』（李臨定著・宮田一郎訳　光生舘）			
授業計画（授業の内容等）	1. 移動にかかわる動詞・介詞・空間語 2. 移動にかかわる動詞・介詞・空間語 3. 移動にかかわる動詞・介詞・空間語 4. アスペクト助詞・時間詞・語気助詞 5. アスペクト助詞・時間詞・語気助詞 6. アスペクト助詞・時間詞・語気助詞 7. 能願動詞 8. 能願動詞 9. 能願動詞 10. 形容詞 11. 形容詞 12. 形容詞 13. 中国語の語順 14. 中国語の語順 15 中国語の語順		16. 移動にかかわる日本語と中国語の対照研究 17. 移動にかかわる日本語と中国語の対照研究 18. 移動にかかわる日本語と中国語の対照研究 19. 日中両言語におけるアスペクト助詞 20. 日中両言語におけるアスペクト時間詞 21. 日中両言語におけるアスペクト語気助詞 22. 日中両言語における可能表現 23. 日中両言語における可能表現 24. 日中両言語における可能表現 25. 形容詞に関する日中両言語の対照研究 26. 形容詞に関する日中両言語の対照研究 27. 形容詞に関する日中両言語の対照研究 28. 語順に関する日中両言語の対照研究 29. 語順に関する日中両言語の対照研究 30. 語順に関する日中両言語の対照研究	

授業科目	中国語学演習Ⅱ	2単位	担当者名	高橋　弥守彦
授業の概要	《人民日報》《北京晩報》《北京日報》などの中から、ダイナミックに発展する中国の散文や短編小説を読み、中国人の考え方を分析するとともに翻訳の力をつける。			
成績評価の基準と方法	出席とレポート・論文によって評価する。			
履修条件	翻訳技術を身につけるように努力すること。			
教科書	《人民日報》《北京晩報》《北京日報》などの中から散文や短編小説を選び、コピーをして配布する。			
参考文献・資料等	『日本語・中国語翻訳の要領』『今冨正巳著　光生舘』			
授業計画(授業の内容等)	1. 散文の翻訳 2. 散文の翻訳 3. 散文の翻訳 4. 散文の翻訳 5. 散文の翻訳 6. 散文の翻訳 7. 散文の翻訳 8. 散文の翻訳 9. 散文の翻訳 10. 散文の翻訳 11. 散文の翻訳 12. 散文の翻訳 13. 散文の翻訳 14. 散文の翻訳 15. 散文の翻訳	16. 短編小説の翻訳 17. 短編小説の翻訳 18. 短編小説の翻訳 19. 短編小説の翻訳 20. 短編小説の翻訳 21. 短編小説の翻訳 22. 短編小説の翻訳 23. 短編小説の翻訳 24. 短編小説の翻訳 25. 短編小説の翻訳 26. 短編小説の翻訳 27. 短編小説の翻訳 28. 短編小説の翻訳 29. 短編小説の翻訳 30. 短編小説の翻訳		

授業科目	中国語学演習Ⅱ（修論指導）	2単位	担当者名	高橋　弥守彦
授業の概要	各自のテーマ別による修士論文の完成（A4 50ページ以上）。 統一テーマのもとに個別テーマによる1年に1本から3本の研究発表と論文の提出を求める。			
成績評価の基準と方法	研究発表と論文の内容により評価する。			
履修条件	資料収集と先行研究の分析と研究に熱心なこと。			
教科書	授業中に指示する。			
参考文献・資料等	格付き空間詞と（ひと）の動作を表す動詞との関係―日中対照研究を視野に入れて―			
授業計画(授業の内容等)	1. 修士論文のテーマと概要の検討（1） 2. 修士論文のテーマと概要の検討（2） 3. 個別テーマと概要の検討（1） 4. 個別テーマと概要の検討（2） 5. 個別テーマと概要の検討（3） 6. 個別テーマと概要の検討（4） 7. 目次別による研究発表と指導（1） 8. 目次別による研究発表と指導（2） 9. 目次別による研究発表と指導（3） 10. 目次別による研究発表と指導（4） 11. 目次別による研究発表と指導（5） 12. 目次別による研究発表と指導（6） 13. 目次別による研究発表と指導（7） 14. 個別テーマによる論文発表と指導（1） 15. 個別テーマによる論文発表と指導（2）	16. 修士論文テーマと概要の再検討（1） 17. 修士論文テーマと概要の再検討（2） 18. 個別テーマと概要の検討（5） 19. 個別テーマと概要の研討（2） 20. 目次別による研究発表と指導（8） 21. 目次別による研究発表と指導（9） 22. 目次別による研究発表と指導（10） 23. 目次別による研究発表と指導（11） 24. 目次別による研究発表と指導（12） 25. 個別テーマによる論文発表と指導（3） 26. 個別テーマによる論文発表と指導（4） 27. 修士論文の発表と指導（1） 28. 修士論文の発表と指導（2） 29. 修士論文の発表と指導（3） 30. 修士論文の発表と指導（4）		

授業科目	中国語学特殊研究Ⅲ	4単位	担当者名	中嶋　幹起
授業の概要	中国語を中心として東アジアの諸言語に関心を広げるように抗議を行う。東アジアの諸言語とは、日本語・朝鮮語・満州語・モンゴル語などを指す。これらの言語がどんな構造をもっているのかについて概略を知っていることは、より深く中国語を理解するために必要なことである。言語学的な思考方法、文献の精読の方法についても合わせて指導する。			
成績評価の基準と方法	講義のなかでの発言と研究の進展に応じて評価する。			
履修条件	中国語をはじめ、多種の外国語に関心を持ってもらいたい。			
教科書	プリントを用意する。			
参考文献・資料等	言語学・中国言語学に関する著作			
授業計画 (授業の内容等)	1. 導入・紹介 2. 概説 3. 概説 4. 概説 5. 概説 6. 概説 7. 概説 8. 概説 9. 概説 10. 概説 11. 学生のテーマに合わせて個別指導 12. 学生のテーマに合わせて個別指導 13. 学生のテーマに合わせて個別指導 14. 学生のテーマに合わせて個別指導 15. 学生のテーマに合わせて個別指導	16. 学生のテーマに合わせて個別指導 17. 学生のテーマに合わせて個別指導 18. 学生のテーマに合わせて個別指導 19. 学生のテーマに合わせて個別指導 20. 学生のテーマに合わせて個別指導 21. 学生のテーマに合わせて個別指導 22. 学生のテーマに合わせて個別指導 23. 学生のテーマに合わせて個別指導 24. 学生のテーマに合わせて個別指導 25. 学生のテーマに合わせて個別指導 26. 学生のテーマに合わせて個別指導 27. 学生のテーマに合わせて個別指導 28. 学生のテーマに合わせて個別指導 29. 学生のテーマに合わせて個別指導 30. 学生のテーマに合わせて個別指導		

授業科目	中国語学演習Ⅲ（1年用）	2単位	担当者名	中嶋　幹起
授業の概要	中国語学を中心にして基本的概念にはじまり、深い理解を得られるように指導する。学生諸君は、さまざまな関心からの受講の動機をもっている。本演習で指導するのは、学生諸君のテーマがどのようなものであるにせよ、必須の、言語学的基本的概念を理解しておくことは、大切なことである。			
成績評価の基準と方法	授業でみる研究の進展の状況をみて評価する。			
履修条件	いろいろな外国語にふれることが望ましい。			
教科書	コピーを用意する。			
参考文献・資料等	言語学・中国語に関する専門書。			
授業計画 (授業の内容等)	1. 導入・紹介 2. 基本的な概念解説 3. 基本的な概念解説 4. 基本的な概念解説 5. 基本的な概念解説 6. 基本的な概念解説 7. 基本的な概念解説 8. 基本的な概念解説 9. 基本的な概念解説 10. 基本的な概念解説 11. 基本的な概念解説 12. 基本的な概念解説 13. 基本的な概念解説 14. 基本的な概念解説 15. 基本的な概念解説	16. 学生のテーマに合わせて個別指導 17. 学生のテーマに合わせて個別指導 18. 学生のテーマに合わせて個別指導 19. 学生のテーマに合わせて個別指導 20. 学生のテーマに合わせて個別指導 21. 学生のテーマに合わせて個別指導 22. 学生のテーマに合わせて個別指導 23. 学生のテーマに合わせて個別指導 24. 学生のテーマに合わせて個別指導 25. 総合的な解説と指導 26. 総合的な解説と指導 27. 総合的な解説と指導 28. 総合的な解説と指導 29. 総合的な解説と指導 30. 総合的な解説と指導		

授業科目	中国語学演習Ⅲ（修論指導）	2単位	担当者名	中嶋　幹起
授業の概要	受講生のテーマに合わせて、修士論文作成に向けて指導する。修士論文のテーマの範囲は、言語構造、記述言語学、方言研究、言語接触の研究である。対象言語は中国語を中心にしてどんな言語でもよい。			
成績評価の基準と方法	研究の進展とどのような論文が書けたかによって評価する。			
履修条件	修士論文の作成を前提とする。			
教科書	コピーを用意する。			
参考文献・資料等	テーマに合わせて選ぶ。			
授業計画（授業の内容等）	1. 導入・紹介 2. 論文作成の具体的指導 3. 論文作成の具体的指導 4. 論文作成の具体的指導 5. 論文作成の具体的指導 6. 論文作成の具体的指導 7. 論文作成の具体的指導 8. 論文作成の具体的指導 9. 論文作成の具体的指導 10. 論文作成の具体的指導 11. 論文作成の具体的指導 12. 論文作成の具体的指導 13. 論文作成の具体的指導 14. 論文作成の具体的指導 15. 論文の修正と完成に向ける	16. 論文の修正と完成に向ける 17. 論文の修正と完成に向ける 18. 論文の修正と完成に向ける 19. 論文の修正と完成に向ける 20. 論文の修正と完成に向ける 21. 論文の修正と完成に向ける 22. 論文の修正と完成に向ける 23. 論文の修正と完成に向ける 24. 論文の修正と完成に向ける 25. 論文の修正と完成に向ける 26. 論文の修正と完成に向ける 27. 論文の修正と完成に向ける 28. 論文の修正と完成に向ける 29. 論文の修正と完成に向ける 30. 論文完成		

授業科目	中国語学特殊研究Ⅳ	4単位	担当者名	中村　浩一
授業の概要	中国では宋代頃から話し言葉を基にした文学言語で書かれた小説が大量に現れる。この文学言語は民国初期の文学言語である新白話に対して旧白話と呼ばれるが、現代中国語の形成に大きな影響を与えた。この授業では宋～明代の作品を編んだ短編小説集『古今小説』を読みながら、そこに現れる語や語法を現代中国語と比較し、旧白話がどのように現代中国語に継承されたか、その状況の一端を探る。旧白話を扱うといっても授業はあくまでも現代中国語を研究するという立場から行う。本年度は明代の作品と見られている第36巻を読む。			
成績評価の基準と方法	平常点：30%（出席状況、予習状況より評価）、レポート：40%（期限厳守と内容により評価）、授業での発表：30%（発表内容により評価）			
履修条件	授業で扱うところを工具書を用いて熟読し、現代中国語と比較して、語の意味の異同、語法の異同をあらかじめおさえておくこと。			
教科書	許政揚校注『古今小説』人民文学出版社 1979年　必要箇所をプリント配布する。			
参考文献・資料等	香坂順一　『白話語彙の研究』　光生館　昭和58年 香坂順一　『水滸語彙の研究』　光生館　昭和62年 香坂順一　『古今小説語彙索引』　大東文化大学東洋研究所　昭和59年			
授業計画（授業の内容等）	1. 自己紹介、オリエンテーション 2. 中国語の多様性（旧白話を研究する意義） 3. 輪読発表1 4. 輪読発表2 5. 輪読発表3 6. 輪読発表4 7. 輪読発表5 8. 輪読発表6 9. 輪読発表7 10. 輪読発表8 11. 輪読発表9 12. 輪読発表10 13. 輪読発表11 14. 輪読発表12 15. まとめ	16. 輪読発表13 17. 輪読発表14 18. 輪読発表15 19. 輪読発表16 20. 輪読発表17 21. 輪読発表18 22. 輪読発表19 23. 輪読発表20 24. 輪読発表21 25. 輪読発表22 26. 輪読発表23 27. 輪読発表24 28. 輪読発表25 29. 輪読発表26 30. まとめ		

授業科目	中国語教育学特殊研究Ⅱ	4単位	担当者名	瀬戸口　律子
授業の概要	中国語が「唐話」と呼ばれていた江戸時代から明治、大正、昭和そして現在に至るまで、それぞれの時代に主要な位置を占めたテキストを紹介する。現在の中国語教育に大きな影響を与えたこれらのテキストについて、その内容を詳細に分析する。今年度は明治時代の中国語テキストを教材とする。			
成績評価の基準と方法	授業への姿勢により評価する。			
履修条件	中国語教育学及び中国語学研究に真剣に取り組むこと。			
教科書	官話指南（呉啓太・鄭永邦共編）			
参考文献・資料等	『現代漢語方言』　伯慧　薫忠司校訂　新学詩識文教出版社　1991年 『近代日本の中国語教育』六角恒廣　淡治書房　1961年			
授業計画 (授業の内容等)	1. ガイダンス 2. 官話について① 3. 官話について② 4. 近代の日本における官話教育① 5. 近代の日本における官話教育② 6.『官話指南』輪読発表① 7.『官話指南』輪読発表② 8.『官話指南』輪読発表③ 9.『官話指南』輪読発表④ 10.『官話指南』輪読発表⑤ 11.『官話指南』輪読発表⑥ 12.『官話指南』輪読発表⑦ 13. 翻訳作業の再チェックと語彙語法の異同整理 14. 翻訳作業の再チェックと語彙語法の異同整理 15. 翻訳作業の再チェックと語彙語法の異同整理	16. 春学期の翻訳作業確認と整理 17. 輪読発表⑧ 18. 輪読発表⑨ 19. 輪読発表⑩ 20. 輪読発表⑪ 21. 輪読発表⑫ 22. 輪読発表⑬ 23. 輪読発表⑭ 24. 輪読発表⑮ 25. 輪読発表⑯ 26. 翻訳作業の再チェックと語彙語法の整理① 27. 翻訳作業の再チェックと語彙語法の整理① 28.『官話指南』とその他の官話テキストの比較① 29.『官話指南』とその他の官話テキストの比較② 30. まとめ		

授業科目	中国語教育学演習Ⅱ（1年用）	2単位	担当者名	瀬戸口　律子
授業の概要	中国語教育を実施している高校が500余校に達している今日、高校の中国語教師に対する需要も高まりつつある。一方、1997年大学入試センターの「中国語」導入とともに、高校における中国語教育の内容や達成レベル等、いろいろな問題が生じている。このような現状を踏まえ、高校の中国語教育のあり方及び教材研究を行う。			
成績評価の基準と方法	授業への姿勢により評価する。			
履修条件	「中国語教育学」に関連するテーマで修論の作成を目指していること。			
教科書	『生活与会話』新装版（水世嫦・中山時子、東方書店2007年9月）			
参考文献・資料等	『中国語入門教授法』（長谷川良一、東方書店、1995年） 『中国語教育史の研究』（六角恒廣、東方書店、1988年）			
授業計画 (授業の内容等)	1. ガイダンス 2. 発表 ① 3. 発表 ② 4. 発表 ③ 5. 発表 ④ 6. 発表 ⑤ 7. ①～⑤ 回の総括（討論形式） 8. 発表 ⑥ 9. 発表 ⑦ 10. 発表 ⑧ 11. 発表 ⑨ 12. 発表 ⑩ 13. ⑥～⑩の総括 14. 発表 ⑪ 15. 発表 ⑫	16. 発表 ⑬ 17. 発表 ⑭ 18. 発表 ⑮ 19. ⑪～⑮ の総括 20. 高校の教育実習（ビデオ）① 21. 高校の教育実習（ビデオ）② 22. 高校の教育実習（ビデオ）③ 23. 発表 ⑯ 24. 発表 ⑰ 25. 発表 ⑱ 26. 発表 ⑲ 27. 発表 ⑳ 28.『生活与会話』と高校の中国語テキストの比較① 29.『生活与会話』と高校の中国語テキストの比較① 30. まとめ		

授業科目	中国語教育学演習Ⅱ（修論指導）	2単位	担当者名	瀬戸口　律子
授業の概要	中国語教育学（教授法、教育史等も含む）についての種々の問題について取り上げる。 修士論文のそれぞれのテーマに沿って論文作成に必要な文献を紹介し、資料収集の方法について説明する。また、必要に応じて各人の研究テーマに関する論文の具体的な内容について検討を加え指導する。			
成績評価の基準と方法	授業への姿勢により評価する。			
履修条件	「中国語教育学演習Ⅰ」を履修していること。			
教科書	プリント配付。			
参考文献・資料等	国内外で発行されている「中国語教育学」に関する論文研究雑誌。			
授業計画 (授業の内容等)	1. ガイダンス 2. 高校、中国語教育の現状と課題① 3. 高校、中国語教育の現状と課題② 4. 高校、中国語教育の現状と課題③ 5. 高校、中国語教育の現状と課題④ 6. 高校、中国語教育の現状と課題⑤ 7. まとめ 8. 大学、中国語教育の現状と課題① 9. 大学、中国語教育の現状と課題② 10. 大学、中国語教育の現状と課題③ 11. 大学、中国語教育の現状と課題④ 12. 大学、中国語教育の現状と課題⑤ 13. まとめ 14. 専門学校、中国語教育の現状と課題① 15. 専門学校、中国語教育の現状と課題②	16. 専門学校、中国語教育の現状と課題③ 17. 専門学校、中国語教育の現状と課題④ 18. 専門学校、中国語教育の現状と課題⑤ 19. まとめ 20. 中国の対外漢語教育について① 21. 中国の対外漢語教育について② 22. 中国の対外漢語教育について③ 23. 台湾の「国語」教育（外国人に対する）① 24. 台湾の「国語」教育（外国人に対する）② 25. 日本の中国語教育と中国・台湾の中国語教育① 26. 日本の中国語教育と中国・台湾の中国語教育② 27. 教材研究① 28. 教材研究② 29. 教材研究③ 30. 総まとめ		

授業科目	中国言語文化研究	4単位	担当者名	大島　吉郎
授業の概要	中国における言語、文化、言語文化の断面を魯迅著《阿Q正伝》の内容及び言語から読み取って行く。近代中国を代表する文学者、文化人の言語観、また中国社会に対する観察眼を理解する事から、中国の言語文化への省察を深める。内容理解については既存の各種翻訳を用い、訳注も随時参照する。これによって、日本では《阿Q正伝》がどう読まれているかを知り、その原因の一端を探る。			
成績評価の基準と方法	出席状況と内容理解を判断して評価を行い、レポート、試験等は課さない。			
履修条件	特に設けない。			
教科書	魯迅著《阿Q正伝》（原文）			
参考文献・資料等	《中国語言文字学史料学》2005年南京大学出版社、『中国語・中国語学参考文献目録（06年度版）』2006年近代漢語研究会、『魯迅―「人」「鬼」の葛藤』1993年岩波書店他。			
授業計画 (授業の内容等)	1. ガイダンス 2. 第一章（1） 3. 第一章（2） 4. 第一章（3） 5. 第二章（1） 6. 第二章（2） 7. 第二章（3） 8. 第二章（4） 9. 第二章（5） 10. 第三章（1） 11. 第三章（2） 12. 第三章（3） 13. 第三章（4） 14. 第三章（5） 15. まとめ	16. 第四章（1） 17. 第四章（2） 18. 第四章（3） 19. 第四章（4） 20. 第四章（5） 21. 第四章（6） 22. 第五章（1） 23. 第五章（2） 24. 第五章（3） 25. 第五章（4） 26. 第五章（5） 27. 第六章（1） 28. 第六章（2） 29. 第六章（3） 30. まとめ		

授業科目	中国語コミュニケーション実習Ⅱ	2単位	担当者名	肖　賢彬
授業の概要	テーマ別による会話の準備と参加。それによってコミュニケーションの基礎作りをする。			
成績評価の基準と方法	出席、テーマの準備状況、コミュニケーションへの参加状況などの総合評価			
履修条件	意欲のある人			
教科書	《高級口語－話題交際》章紀孝主編（北京語言大学出版社）			
参考文献・資料等	開講時に指示			
授業計画(授業の内容等)	1. コミュニケーション概況 2. 家庭と社会 3. 恋愛・結婚観 4. 子供の教育 5. ゼネレーションギャップ 6. 仕事とレジャー 7. 環境保護（上） 8. 環境保護（下） 9. 競技としてのスポーツ 10. 仕事とスポーツ 11. 趣味 12. 大学入試 13. 法律と一般人 14. 公害問題 15. 就職問題	16. 休暇の過ごし方 17. 中国人のみる日本 18. 日本人のみる中国 19. 女性の地位 20. 漢字と中国語 21. 幸福とは何か？ 22. 安楽死 23. 家族 24. 飲食文化 25. 孤独死 26. 公共の秩序 27. 交通事情 28. テレビ番組と映画 29. インターネット 30. 学歴と資格		

授業科目	中国語コミュニケーション実習Ⅲ	2単位	担当者名	鄭　新培
授業の概要	一年目は基礎的翻訳のトレーニングをし、主としては、日本語から中国語に訳す。翻訳の基本技法を修得すると同時に翻訳の使命を正しく認識することも見につける。日中関連の社会・文化、政治、経済・貿易、交流などの各分野の教材を用意して、直訳法と意訳法の両方をふまえ、より適確に自然な中国語に訳すトレーニングをする。			
成績評価の基準と方法	毎回の翻訳の課題をこなすこと、出席状況と授業態度など総合的に評価する。			
履修条件	翻訳に興味があること、真剣にやる気があること。日中関係の新聞や本を多く読むこと。			
教科書	プリントの教材を配る。			
参考文献・資料等	1. 高烈夫《日漢翻訳理論与技巧》商務印書館 2. 遠藤紹徳《中⇔日翻訳表現文法》バベル・プレス 3. 藤本恒、岡本篤子《ビジネス中国語マニュアル》東方書店 4. 韓進旺《経貿日語口語与口訳》対外貿易出版			
授業計画(授業の内容等)	1. ガイダンス 2. 翻訳の基礎理論と使命 1 3. 翻訳の基礎理論と使命 2 4. 基本的な翻訳方法 1 5. 基本的な翻訳方法 2 6. 基本的な翻訳方法 3 7. 基本的な翻訳方法 4 8. 基本文型の翻訳トレーニング 9. 基本文型――副詞 10. 基本文型――接続詞 11. 基本文型――慣用語 12. 基本文型――成語 13. 基本文型――言いまわし① 14. 基本文型――言いまわし② 15. まとめ	16. 各分野の実務的文章の翻訳 17. 商談でのあいさつ 18. 商談後の謝辞 19. 価格などの交渉文 20. 依頼・クレーム 21. 仲介・交渉文 22. 交流契約文 23. 日中政治・経済① 24. 日中政治・経済② 25. 日中関係新聞記事① 26. 日中関係新聞記事② 27. 日中関係新聞評論① 28. 日中関係新聞評論② 29. 日中関係新聞評論③ 30. まとめ		

授業科目	中国語コミュニケーション演習Ⅳ	2単位	担当者名	高　増杰
授業の概要	本科目は中国語・日本語の相互翻訳力の養成と向上を目的とする。日本と中国の著名作者による著書と論文を材料にして、日本語の文章を中国語に、中国語の文章を日本語に、実際に輪番の翻訳練習をすすめてコミュニケーションの実習を行う。なお、日中相互翻訳の技術要点、文法的処理、用語選択等の講義と練習を通じて受講者の日中両国語翻訳における理解力と表現力を向上することを目標とする。			
成績評価の基準と方法	出席、発表と期末試験によって成績を評価する。			
履修条件	中国語読解の基本能力を有すること。			
教科書	オリジナルの資料（著名作者の著書・論文）を練習の材料として配布する。			
参考文献・資料等	オリジナルの説明資料（翻訳要領・思考様式の比較・文法的処理等）を配布する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. ガイダンス 2.『囲城』の執筆背景と日本語訳 3. 翻訳の心得・練習（以下順不問） 4. 順送り翻訳の原則・練習 5. 副詞のバリエーションと翻訳・練習 6. 翻訳における区切りの原則・練習 7. 主語の修飾の処理・練習 8. 講義：中国語構文の基本構造 9. 翻訳における語順の変化・練習 10. 不特定多数表現の翻訳・練習 11. 翻訳における日中動作表現の比較・練習 12. 翻訳における逆説の表現・練習 13. 翻訳における数詞と量詞の処理・練習 14. 翻訳における用修位置の処理・練習 15. まとめ	16. 中国語表現の特徴 17. 学術論文の中国語訳の要領 18. 翻訳における述語の繰り上げ・練習 19. テンスの表現・練習 20. 翻訳における. 同格語の処理・練習 21. 比較と逆説・練習 22. 日本語の形式名詞の翻訳・練習 23. 翻訳における切断法の応用・練習 24. 受身表現の翻訳・練習 25. 主語の補足としての加訳・練習 26. 倒置翻訳・練習 27. 代名詞の日中比較・練習 28. 動作表現の修飾の処理・練習 29. 翻訳における用語重複の処理・練習 30. まとめ		

授業科目	中国語コミュニケーション実習Ⅴ	2単位	担当者名	陶　絢
授業の概要	日⇔中逐次通訳の基礎練習を積み上げていく中で、“読む”“聞く”“話す”能力の向上に努め、通訳に必要とされる基本文型、語彙を定着させる。併せて、各分野の基礎知識も把握させる。			
成績評価の基準と方法	授業態度及び出席状況により評価する。			
履修条件	予習は不要であるが、毎回の通訳演習した内容を復習する必要がある。それにより、基本的な通訳力を高め、表現力の向上をはかるという目的が達成できる。			
教科書	プリント、CD 等。			
参考文献・資料等	「シャドウイングと速読で学　中国語通訳会話」他			
授業計画 (授業の内容等)	1. 自己紹介、単語のクイックレスポンス 2. 日本語のリプロダクション 3. リプロダクション文の中訳 4. 中国語のリプロダクション 5. ニュースのリプロダクション 6. 日本語を中訳（電話、観光） 7. 日訳、中訳（アポイント、日程） 8. 日訳、中訳（空港出迎え） 9. CD による訳の練習（出迎え） 10. LL 練習 11. CD による訳の練習（日程、ホテル説明） 12. 逐次通訳（観光名所）. 13. 逐次通訳の練習（日本料理） 14. 逐次通訳（会社訪問） 15. ロールプレー演習	16.　逐次通訳（工場見学） 17. 逐次通訳（商談） 18. 北京案内の逐次通訳（CD） 19. 東京案内の逐次通訳（CD） 20. 企業内通訳の逐次通訳（CD） 21. 宴会挨拶の逐次通訳（CD） 22. 日本事情の逐次通訳（CD） 23. 気象の逐次通訳（CD） 24. 友好都市交流の逐次通訳（CD） 25. 漫画、アニメの逐次通訳（CD） 26. 北京案内、東京案内の同時通訳演習 27. 企業内通訳、宴会挨拶の同時通訳演習 28. 日本事情、気象の同時通訳演習 29. 友好都市交流の同時通訳演習 30. 漫画、アニメの同時通訳演習		

授業科目	中国語コミュニケーション実習Ⅵ	2単位	担当者名	陶　絢
授業の概要	日⇔中逐次通訳の応用練習及び簡単な同時通訳の演習を行い、通訳技術の総仕上げをはかる。			
成績評価の基準と方法	授業態度及び出席状況により評価する。			
履修条件	予習は不要であるが、毎回の通訳演習した内容を復習する必要がある。実践的な練習で応用的な会話力、通訳力を向上させる。			
教科書	プリント、CD 等。			
参考文献・資料等	「日中・中日通訳トレーニングブック」他			
授業計画 (授業の内容等)	1. 自己紹介、単語のクイックレスポンス 2. 日本語のリプロダクション 3. リプロダクション文の中訳 4. 中国語のリプロダクション 5. リプロダクション文の日訳 6. ニュースのリプロダクションとシャドウイング 7. 中訳の練習（司会者） 8. 中訳、日訳（宴会） 9. CD による日訳（宴会スピーチ） 10. LL 練習 11. CD による日訳（会社訪問、司会者） 12. 日訳、中訳（大学訪問） 13. 日訳、中訳（オフィス訪問） 14. ロールプレー演習 15. ロールプレー演習	16. 日本の概況の逐次通訳（CD） 17. 中国事情の逐次通訳（CD） 18. 東京紹介の逐次通訳（CD） 19. 中国の IT 市場の逐次通訳（CD） 20. ファッションの逐次通訳（CD） 21. 自動車工場の逐次通訳（CD） 22. 教育の逐次通訳（CD） 23. 対中投資の逐次通訳（CD） 24. 環境問題の逐次通訳（CD） 25. 日本の概況、中国事情の同時通訳演習 26. 東京紹介、中国 IT 市場の同時通訳演習 27. ファッション、教育の同時通訳演習 28. 自動車工場の同時通訳演習 29. 対中投資の同時通訳演習 30. 環境問題の同時通訳演習		

平成21年度英語学専攻　博士課程前期課程　科目編成表

○専任、△非常勤

授業科目	単位	専・非	担当者名	備考	ページ
（専攻科目）					
英語学特殊研究Ⅰ	4	○	山崎俊次		19
英語学演習Ⅰ	2・4	○	山崎俊次		19・20
英語学特殊研究Ⅱ	4			（開講せず）	
英語学演習Ⅱ	2・4			（開講せず）	
英語学特殊研究Ⅲ	4	○	熊澤佐夫	①修士論文の執筆には演習および当該特殊研究を履修しなければならない。	20
英語学演習Ⅲ	2・4	○	鈴木敬了		21
英語学特殊研究Ⅳ	4	○	渡辺良彦		22
英語教育学特殊研究Ⅰ	4	○	西川栄紀 米山聖子	②専攻科目の演習の単位数については、2年連年履修で4単位とする（単年度履修は2単位。）	22
英語教育学演習Ⅰ	2・4	○	西川栄紀		23
英語教育学特殊研究Ⅱ	4	○	奥田祥子 ゲーブリエル・A・リー		24
英語教育学演習Ⅱ	2・4	○	奥田祥子		24・25
英語教育学特殊研究Ⅲ	4	△	米山朝二		25
英語教育学演習Ⅲ	2・4	○	望月昭彦		26
英米言語文化特殊研究Ⅰ	4	○	阿出川祐子 北林光		27
英米言語文化演習Ⅰ	2・4	○	阿出川祐子		27・28
英米言語文化演習Ⅰ	2・4	○	北林光		28・29
英米言語文化特殊研究Ⅱ	4			（開講せず）	
通訳・翻訳コミュニケーション特殊研究	4	△	實吉典子	通常授業と夏季集中講義併用	29
（実習科目）					
異文化コミュニケーション実習Ⅰ	2	△	小林裕子	①4単位までは現地語学研修で修得した単位を振替えることができる。	30
異文化コミュニケーション実習Ⅱ	2	△	小林裕子		30
異文化コミュニケーション実習Ⅲ	2	○	佐藤千津		31
異文化コミュニケーション実習Ⅳ	2	○	G. ウォレス		31
異文化コミュニケーション実習Ⅴ	2	○	R. シグレー		32
異文化コミュニケーション実習Ⅵ	2	○	熊澤佐夫		32
異文化コミュニケーション実習Ⅶ	2	○	R. シグレー		33
異文化コミュニケーション実習Ⅷ	2	△	マーク・ネイサン・ザイオン		33
（共通科目）					
言語学特殊講義Ⅰ	4	○	平林幹郎		63
言語学特殊講義Ⅱ	4	○	福盛貴弘		63
外国語教授法特殊講義	4	○	田口悦男		64
第二言語習得理論	4			（開講せず）	
社会言語学特殊講義	4	△	朝日祥之		64
対照言語学Ⅰ（日英）	4			（開講せず）	
対照言語学Ⅱ（日中）	4	○	高橋弥守彦		65
対照言語学Ⅲ（日韓）	4	△	森山新		65
比較文化論特殊講義	4			（開講せず）	
映像メディア文化論	4	○	西川栄紀		66
情報文化論	4	△	今防人		66
言語情報処理論	4	○	米山聖子		67
マルチメディア教育論	4	△	石毛文茂		67

〔A〕修了必要条件：必修単位数　32単位＋修士論文
単位数内訳：　1）専攻科目　16単位
2）実習科目　8単位
3）共通科目　8単位

〔B〕上記修了要件とは別に以下の3要件をすべて満たすことにより修士号の授与を可能とする。

(1) 所定授業科目の単位取得
専攻科目及び共通科目から20単位以上、実習科目から12単位以上、合計32単位以上取得すること。なお、専攻科目の通訳・翻訳コミュニケーション特殊研究は必修とする。

(2) 英語技能技術の修得（次の英語資格試験①～③のうち、いずれか一つ以上を取得すること。①実用英語技能検定試験1級合格、② TOEIC 915点以上、③ TOEFL 600点以上、又は同CBT 250点以上）

(3) 課題研究論文（指導教員から必要な研究指導を受けた課題研究論文一点を作成すること。なお、使用言語は英語、語数3,000語以上とする。）

授業科目	英語学特殊研究Ⅰ	4単位	担当者名	山崎　俊次
授業の概要	コーパス言語学の見地から、文法・語法、辞書学を中心に英語学の研究領域を探求する。コンピュータ使用以前から文法論、辞書編纂、英語教育等に大きく貢献して来たコーパス利用の歴史を概観し、コンピュータ利用が盛んになった現代の英語学研究全般におけるコーパス利用について深く考察し、新しい英語学研究へのアプローチを追究する。			
成績評価の基準と方法	平常の授業参加、課題の発表、個人の研究発表等を総合的に判定する。			
履修条件	多少のコンピュータの知識（言語ソフト、表計算ソフト等）			
教科書	授業中にプリント配布			
参考文献・資料等	Quirk, R. *et. al* (eds.) 1985 *A Comprehensive Grammar of The English Language*. London: Longman. Biber, D. *et. al* (eds.) 1999 *Longman Grammar of Spoken and Written English*. London: Pearson Education. Saito, T., J. Nakamura and S. Yamazaki (eds.) 2002 *English Corpus Linguistics in Japan*. Amsterdam/New York: Rodopi.			
授業計画（授業の内容等）	1. 授業の説明 2. コーパス利用の歴史　① 3. コーパス利用の歴史　② 4. 辞書とコーパス　① 5. 辞書とコーパス　② 6. 英語教育とコーパス　① 7. 英語教育とコーパス　② 8. 文法とコーパス　① 9. 文法とコーパス　② 10. 文法とコーパス　③ 11. 文法とコーパス　④ 12. 文法とコーパス　⑤ 13. コンピュータコーパスの歴史　① 14. コンピュータコーパスの歴史　② 15. コンピュータコーパスの歴史　③		16. コーパス編纂 17. コーパスソフト　① 18. コーパスソフト　② 19. コーパスソフト　③ 20. 検索実践　① 21. 検索実践　② 22. 検索実践　③ 23. 検索実践　④ 24. 検索実践　⑤ 25. 検索実践　⑥ 26. 研究発表　① 27. 研究発表　② 28. 研究発表　③ 29. 研究発表　④ 30. まとめ	

授業科目	英語学演習Ⅰ（1年用）	2単位	担当者名	山崎　俊次
授業の概要	コンピュータの進歩に伴い急速に発展してきた英語学研究領域、コーパス言語学の研究手法を会得することを目標とする。まずコーパス言語学のいくつかの代表的な書物・論文を読んで、この言語研究の方法を理解する。さらに電子化されたテキスト（Brown、LOB、Frown、FLOB Corpus、BNC 等）を検索ソフト（Wordsmith、TXTANA、KWIC、BNCWeb 等）を実際に使って検索し、自分のテーマに沿って論文にまとめて行くことを目標にする。			
成績評価の基準と方法	平常の授業参加、課題の発表、個人の研究発表等を総合的に判定する。			
履修条件	多少のコンピュータの知識（言語ソフト、表計算ソフト等）、基礎的な検索ソフトの理解			
教科書	授業中にプリント配布			
参考文献・資料等	Kennedy, G. 1998 *An Introduction to Corpus Linguistics*. London/New York: Longman. Aston, G. and L. Burnard 1998 *The BNC Handbook*. Edinburgh: Edinburgh University Press. Saito, T., J. Nakamura and S. Yamazaki (eds.) 2002 *English Corpus Linguistics in Japan*. Amsterdam/New York: Rodopi.			
授業計画（授業の内容等）	1. 授業の説明 2. 論文読解　① 3. 論文読解　② 4. 著書読解　① 5. 著書読解　② 6. コーパス編纂　① 7. コーパス編纂　② 8. 辞書とコーパス 9. 文法とコーパス 10. 英語教育とコーパス 11. 言語教育研究とコーパス　① 12. 言語教育研究とコーパス　② 13. コンピュータコーパスの歴史　① 14. コンピュータコーパスの歴史　② 15. コンピュータコーパスの歴史　③		16. コンピュータ基礎指導 17. 電子テキスト　① 18. 電子テキスト　② 19. コーパスソフト　① 20. コーパスソフト　② 21. コーパスソフト　③ 22. 検索実践　① 23. 検索実践　② 24. 検索実践　③ 25. 検索実践　④ 26. 研究発表　① 27. 研究発表　② 28. 研究発表　③ 29. 研究発表　④ 30. まとめ	

授業科目	英語学演習Ⅰ（修論指導）	2単位	担当者名	山崎　俊次
授業の概要	コンピュータの進歩に伴い急速に発展してきた英語学研究領域、コーパス言語学の研究手法に習熟し、過去に出版された研究論文・書物を読みながら、個人の研究テーマに沿って修士論文を執筆していくための演習科目である。まず自分の研究テーマを決めたら、そのテーマにはどんな電子テキストが利用できるのか、あるいは自分の研究テーマにあった自作コーパスを編纂するのかを検討して行く。さらに様々な目的で作成された検索ソフトの中で最適なものは何かを実践を通して会得することを目標とする。実際にそれらコーパスを使い、テキストを利用して多くの検索データを出して、最終的に修士論文に効果的にまとめていく。			
成績評価の基準と方法	平常の授業参加、課題の発表、個人の研究発表等を総合的に判定する。			
履修条件	多少のコンピュータの知識（言語ソフト、表計算ソフト等）、基礎的な検索ソフトの理解			
教科書	授業中にプリント配布			
参考文献・資料等	Kennedy, G. 1998 *An Introduction to Corpus Linguistics*. London/New York: Longman. Aston, G. and L. Burnard 1998 *The BNC Handbook*. Edinburgh: Edinburgh University Press. Saito, T., J. Nakamura and S. Yamazaki (eds.) 2002 *English Corpus Linguistics in Japan*. Amsterdam/New York: Rodopi. 齊藤俊雄、他編『英語コーパス言語学―基礎と実践』研究者 2005			
授業計画（授業の内容等）	1. 授業の説明 2. 論文読解　① 3. 論文読解　② 4. 著書読解　① 5. 著書読解　② 6. 英語学とコーパス　① 7. 英語学とコーパス　② 8. コンピュータコーパスの歴史　① 9. コンピュータコーパスの歴史　② 10. コーパス編纂　① 11. コーパス編纂　② 12. ソフトの利用　① 13. ソフトの利用　② 14. 修士論文執筆準備　① 15. 修士論文執筆準備　②		16 修士論文　執筆指導　① 17. 修士論文　執筆指導　② 18. 修士論文　執筆指導　③ 19. 修士論文　執筆指導　④ 20. 修士論文　執筆指導　⑤ 21. 修士論文　執筆指導　⑥ 22. 修士論文　執筆指導　⑦ 23. 中間発表 24. 修士論文　執筆指導　⑧ 25. 修士論文　執筆指導　⑨ 26. 修士論文　執筆指導　⑩ 27. 修士論文　執筆指導　⑪ 28. 修士論文　執筆指導　⑫ 29. 修士論文　執筆指導　⑬ 30. まとめ	

授業科目	英語学特殊研究Ⅲ	4単位	担当者名	熊澤　佐夫
授業の概要	[1. 授業目標・内容] この講座の眼目は、屈折言語である古英語とラテン語の paradigm（語形変化）に慣れ、2つの言語の初歩を学ぶことである。手始めに新約聖書の有名な挿話である「放蕩息子の帰還」を古英語とラテン語で併せ読み、新約聖書を辞書を頼りに、独力で読めるようになることを最終目的とする。			
成績評価の基準と方法	[2. 成績評価] 平常点。毎時間の予習の良否を重視する。			
履修条件	[3. 履修上の注意] 屈折語尾に慣れるまで、忍耐し、毎日予習すること。			
教科書	[4. テキスト] 英語読本　（研究杜）、*Sweet's Anglo-Saxon Primer*（Senjyo Publishing co. LTD.）			
参考文献・資料等	[5. 参考書・資料等] 「放蕩息子の帰還」に関しては、Vulgate（ウルガタ聖書）St. Jerome が 4 世紀末に訳したラテン語聖書）と古英語のコピーを用意します。			
授業計画（授業の内容等）	1. Introduction 2. Explanation of the paradigm（1） 3. Explanation of the paradigm（2） 4. The Prodigal Son（1） 5. The Prodigal Son（2） 6. The Prodigal Son（3） 7. The Prodigal Son（4） 8. The Prodigal Son（5） 9. Review（1） 10. Blessed Are the Poor in Spirit（1） 11. Blessed Are the Poor in Spirit（2） 12. Lay up for Yourselves Treasures 13. Lay up for Yourselves Treasures 14. Lay up for Yourselves Treasures 15. Lay up for Yourselves Treasures		16. The Loaves and Fishes（1） 17. The Loaves and Fishes（2） 18. The Loaves and Fishes（3） 19. Review（2） 20. The Good Samaritan（1） 21. The Good Samaritan（2） 22. The Good Samaritan（3） 23. Render unto Caesar（1） 24. Render unto Caesar（2） 25. Betrayal and Audience with Pilate（1） 26. Betrayal and Audience with Pilate（2） 27. Betrayal and Audience with Pilate（3） 28. Betrayal and Audience with Pilate（4） 29. Betrayal and Audience with Pilate（5） 30. Review（3）	

授業科目	英語学演習Ⅲ（1年用）	2単位	担当者名	鈴木　敬了
授業の概要	修士論文作成に必要な先行研究の情報収集と先行研究をクリティカルに読む論理的思考力を養成する。修士一年目の後半にパイロットスタディを行い修士二年目につなげることが初年度の目標である。実例収集と分析法としてコーパス言語学の基礎を学ぶ。			
成績評価の基準と方法	先行研究に関するレポート、パイロットスタディの実施レポート、発表等で総合的に評価する。			
履修条件	歴史英語学に関心があり意欲的に課題を見つけようとする自主性を持ち、英語の論文を書く基礎的学力を備えていること。			
教科書	プリントを配布するが、MLA 論文の手引き等のスタイルシートを各自購入すること。			
参考文献・資料等	授業中に指示する。			
授業計画（授業の内容等）	1. 歴史英語学の諸分野の概観 2. 歴史英語学の時代区分と外面史 3. 古英語期の外面史 4. 古英語の内面史 5. 中英語期の外面史 6. 中英語の内面史 7. 初期近代英語期の外面史 8. 初期近代英語の内面史 9. 古英語の先行研究の読解 10. 先行研究に関するディスカッション 11. 古英語の先行研究に関する評価と問題点 12. 中英語の先行研究の読解 13. 先行研究に関するディスカッション 14. 中英語の先行研究に関する評価と問題点 15. 初期近代英語の先行研究の読解	16. 先行研究に関するディスカッション 17. 初期近代英語の評価と問題点 18. 現代英語の進行中の変化 19. 現代英語の進行中の変化と実例収集 20. コーパスの検索 21. コーパス言語学の基礎 22. コーパス言語学の分析法 23. コーパス言語学と統計 24. コーパス研究の実例 25. コーパス研究の実例と評価 26. テーマの設定 27. テーマの設定とコーパス決定 28. テーマと統計的処理 29. パイロットスタディ 30. パイロットスタディの分析結果のまとめ		

授業科目	英語学演習Ⅲ（修論指導）	2単位	担当者名	鈴木　敬了
授業の概要	修士論文の完成を目的とする。 前期：修士課程1年次のパイロットスタディの検証から始まり修士論文のドラフトの完成を目標とする。 後期：前期に作成したドラフトを基にさらに検討を加えて修理論文の全体像を描き、資料の分析、結論の作成など各パートの作成を行い最終的に修士論文の完成を図る。 論文作成の英語力養成も兼ねて英文の先行研究を数多く読むことは論を俟たないが、アカデミックライティングを内容とする授業を履修することが望ましい。			
成績評価の基準と方法	前期のドラフト提出および修士論文の提出ならびに口頭発表を基に総合的に評価する。			
履修条件	歴史英語学に関心があり意欲的に課題を見つけようとする自主性を持ち、英語の論文を書く基礎的学力を備えていること。			
教科書	プリントを配布するが、MLA 論文の手引き等のスタイルシートを各自購入すること。			
参考文献・資料等	授業中に指示する。			
授業計画（授業の内容等）	1. パイロットスタディに関する課題の確認 2. 研究の課題に関するディスカッション 3. 修士論文に発展させる資料の検討 4. 修士論文に発展させる統計処理の検討 5. 最新の研究の動向調査 6. 言語処理ソフトの動向調査 7. ドラフトの構成を練る 8. ドラフト：先行研究のまとめ 9. ドラフト：先行研究の問題点 10. ドラフト：研究の目的 11. ドラフト：研究の手法 12. ドラフト：資料収集と分類 13. ドラフト：資料の分析 14. ドラフト：結論の作成 15. ドラフト：修正と提出	16. 修士論文：ドラフトの先行研究の検討 17. 修士論文：ドラフトの研究目的の検討 18. 修士論文：ドラフトの分析方法の検討 19. 修士論文：ドラフトの分析の修正 20. 修士論文：ドラフトの結論の修正 21. 修士論文：先行研究のまとめ 22. 修士論文：先行研究の評価と研究の意義 23. 修士論文：資料の分析の記述 24. 修士論文：考察の作成 25. 修士論文：結論の作成 26. 修士論文：表題、目次等の作成 27. 修士論文：要約作成 28. 修士論文：注の作成 29. 修士論文：参考文献リストの作成 30. 修士論文：校正と提出		

授業科目	英語学特殊研究Ⅳ	4単位	担当者名	渡辺　良彦
授業の概要	N. チョムスキーの言語理論（生成文法）を英語シンタックス（統語論）を中心にして概観することを目標とする。ヒトはみな共通に言語の根本原理（これを普遍文法（UG）という）を生得的にもって生まれてくる、とする生成文法の基本的立場について、それを支持する根拠としてどのような主張がこれまでの研究でなされているのか、その一部を英語シンタックスを中心に調べてみたい。			
成績評価の基準と方法	前期・後期のレポート、および出席を含めた総合評価とする。			
履修条件	言語学、特に理論言語学についての一般的知識、および英文法の基礎知識のある学生が望ましい。また、いろいろな言語現象の「不思議」に関心がある学生を希望する。			
教科書	Radford, Andrew. 1988. Transformational Grammar–A First Course–. Cambridge University Press.／チョムスキーの重要な論文をコピーで配布する予定。			
参考文献・資料等	中村、金子、菊池『生成文法の新展開』研究社. 福井直樹『自然科学としての言語学–生成文法とは何か』大修館. 原口、中村（編）『チョムスキー理論辞典』研究社.			
授業計画 (授業の内容等)	1. イントロダクション 2. 生成文法の研究目標（1） 3. 生成文法の研究目標（2） 4. 生成文法の研究目標（3） 5. 文の構造（1） 6. 文の構造（2） 7. 文の構造（3） 8. 句構造（1） 9. 句構造（2） 10. 句構造（3） 11. 名詞句（1） 12. 名詞句（2） 13. 名詞句（3） 14. その他の句（1） 15. その他の句（2）	16. 節（1） 17. 節（2） 18. 節（3） 19. レキシコン（1） 20. レキシコン（2） 21. レキシコン（3） 22. 変形規則（1） 23. 変形規則（2） 24. 変形規則（3） 25. WH 移動（1） 26. WH 移動（2） 27. WH 移動（3） 28. アルファ移動（1） 29. アルファ移動（2） 30. まとめ		

授業科目	英語教育学特殊研究Ⅰ	4単位	担当者名	西川栄紀・米山聖子
授業の概要	英語教育学を構成する目的論、教授論、学習者論、学力論、教材論、授業論、評価論、教師論等の領域を有機的に関連づけている諸下位構成要素を俯瞰し、これらをもたらした背景や意義はなにか、これらから成り立つ各領域は英語教育活動にどのような洞察を提供し、またどのような課題を担っているかについて論及する。			
成績評価の基準と方法	課題レポートの成果、授業中の研究討議やワークショップへの参加状況、出席状況により総合的に評価する。			
履修条件	英和、和英、英英の三種類の英語辞書と英語教育学辞典を必携とする。			
教科書	青木昭六編著『英語科教育法の構築と展開』現代教育社 2003.			
参考文献・資料等	Brown H. D.（2001）. *Teaching by Principles: An Interactive Approach to Language Pedagogy*. New York: Addison Wesley Longman.			
授業計画 (授業の内容等)	1. 目的論 A（学習指導要領） 2. 目的論 B（学習指導要領） 3. 教材論 A（教科書） 4. 教材論 A（教科書） 5. 教材論 A（教科書） 6. 学習者論 A（認知活動） 7. 学習者論 A（認知活動） 8. 指導論 A（言語教授理論） 9. 指導論 A（言語教授理論） 10. 指導論 A（言語教授理論） 11. 授業論 A（小学校英語） 12. 授業論 A（小学校英語） 13. 評価論 A（テスト方法・評価基準） 14. 評価論 A（テスト方法・評価基準） 15. 教師論 A（教員養成）	16. 目的論 B（英語教育史） 17. 目的論 B（英語教育史） 18. 教材論 B（4技能） 19. 教材論 B（4技能） 20. 教材論 B（4技能） 21. 学習者論 B（動機づけ） 22. 学習者論 B（動機づけ） 23. 指導論 B（言語習得論） 24. 指導論 B（言語習得論） 25. 指導論 B（言語習得論） 26. 授業論 B（ティーム・ティーチング） 27. 授業論 B（ティーム・ティーチング） 28. 評価論 B（資格英語） 29. 評価論 B（資格英語） 30. 教師論 B（教育実習）		

授業科目	英語教育学演習Ⅰ（1年用）	2単位	担当者名	西川　栄紀
授業の概要	言語教授・学習の効果的・効率的な方法を追求する。 たとえば、コミュニカティブ文法や教育文法という位置づけで捉えられる第二言語文法は、関連諸科学の知見の援用を得て、そのあり方を見直すことになるが、母語・目標言語間と当該目標言語内とでは文法ルールの認知理解に難易差があり、その要因は何かということを探り、これを踏まえて、文法項目の提示の仕方や説明の方法、指導過程のあり方、習得の方略、誤りに対する矯正の方法、評価のあり方とフィードバックの手法などの諸点を学際的に考究する。			
成績評価の基準と方法	課題レポートの成果、授業中の研究討議やワークショップへの参加状況、出席状況により総合的に評価する。			
履修条件	英和、和英、英英の三種類の英語辞書と英語教育学辞典を必携とする。			
教科書	青木昭六編著『新しい英語科教育法』現代教育社　2002			
参考文献	Bygate, M., Tonkin A., & Williams A. (eds.). (1994). *Grammar and the Language Teacher*. New York: McGraw-Hill.			
授業計画 (授業の内容等)	1. Grammar for Students, Teachers and Learners 2. same as above 3. Pedagogical Grammar: Principles & problems 4. same as above 5. Design Criteria for Pedagogic Grammar 6. same as above 7. A Lexical Approach 8. same as above 9. The Grammatical Awareness of Teachers 10. same as above 11. Grammar, Syllabuses and Teachers 12. same as above 13. English Grammar and the View of Teachers 14. same as above 15. Declarative and Procedural Knowledge	16. Declarative and Procedural Knowledge 17. same as above 18. Developmental Factors in L2 Pedagogy 19. same as above 20. Articles of Faith 21. same as above 22. L2 Acquisition Strategies 23. same as above 24. Explaining Grammar to its Learners 25. same as above 26. Grammar and Teaching 27. same as above 28. Grammar in the L2 Classroom 29. same as above 30. Teacher Roles in Task-based Learning		

授業科目	英語教育学演習Ⅰ（修論指導）	2単位	担当者名	西川　栄紀
授業の概要	4月中に研究テーマを決定し、年度末の完成を目指した年間スケジュールを設定する。7月中の中間研究発表を目標に、収集した先行研究文献や参考文献を読みつつ、、論点の整理、要旨の作成、章立て等の構成を図る。授業はこれら向けて調査・研究したことの発表とその討議を中心に行う。中間研究発表後の授業は、各章の詳述に向けて調査・研究したことの発表と指導教員によるコメントを中心に行う。			
成績評価の基準と方法	課題レポートの成果、授業中の研究討議やワークショップへの参加状況、出席状況により総合的に評価する。			
履修条件	英和、和英、英英の三種類の英語辞書と英語教育学辞典を必携とする。			
教科書	Bygate, M., Tonkin A., & Williams A. (eds.). (1994). *Grammar and the Language Teacher*. New York: McGraw-Hill.			
参考文献	青木昭六編著『新しい英語科教育法』現代教育社　2002			
授業計画 (授業の内容等)	1. 研究テーマの設定 2. 研究テーマの設定 3. 先行研究文献・参考文献の精読 4. 先行研究文献・参考文献の精読 5. 先行研究文献・参考文献の精読 6. 章立て等の構成と概要の作成 7. 第1章について 8. 第2章について 9. 第3章について 10. 第4章について 11. 第5章について 12. 終章について 13. 中間研究発表用報告書の作成 14. 中間研究発表用報告書の作成 15. 中間研究発表用報告書の仕上げ	16. 第1章の詳述について 17. 第1章の詳述について 18. 第2章の詳述について 19. 第2章の詳述について 20. 第3章の詳述について 21. 第3章の詳述について 22. 第4章の詳述について 23. 第4章の詳述について 24. 終章の詳述について 25. 終章の詳述について 26. 全章の総括について 27. 全章の総括について 28. 日本語による梗概の作成 29. 日本語による梗概の作成 30. 修士論文の完成		

授業科目	英語教育学特殊研究Ⅱ	4単位	担当者名	奥田祥子・G. Lee
授業の概要	英語教育と深く関わっている第二言語習得理論の様々な仮説および用語を時間的な流れに基づいて解説する。それによって第二言語を効果的に学習・習得するためにはどの様にしたらよいかを”成功した学習者”と”成功しなかった学習者”のケースを参考にして考える。日本では教室で行われるフォーマルな英語教育が第二言語習得にあたるので、自然に習得する場合とは異なる外国語としての英語教育を成功に導く様々な要因を考え、それが実際に英語を教える上でどの程度、参考になるかも見る。 なお前期は奥田が担当し、日本語で講義をする。後期は同じ内容をリー氏が英語で講義する。			
成績評価の基準と方法	授業の参加度とレポート			
履修条件	第二言語習得について学びたい院生			
教科書	Lightbown & Spada, (2006). How languages are learned. Oxford Univ. Press.			
参考文献・資料等	参考文献は非常に多いので、必要に応じて知らせるが、コピーを渡して読ませ、クラスで発表させることもある。			
授業計画 (授業の内容等)	1. 第二言語研究の歴史的概観…構造主義、普遍文法、モニターモデルや最近の習得理論について 2. 同上 3. 第二言語習得における学習者個々の相違－成功する学習者とは。知能、適正、学習スタイル、性格、動機付け、学習信条など 4. 同上 5. 同上、臨界期仮説 6. 学習者言語、対照研究、エラー分析、中間言語 7. 同上 8. 同上 9. 言語習得の発達過程、第1が第2言語に及ぼす影響―否定、疑問、所有格、関係代名詞などの表現 10. 同上 11. 語彙、語用論、音韻の発達 12. 教室での学習と教授、インタラクションについて（教師と学生、学生と学生など） 13. 第二言語習得に関する既成概念について、コメントを書く。 14. 同上 15. 今までのまとめ			16. Learning a First Language (L1): Patterns of Development (Early childhood bilingualism & developmental sequences) 17. Theoretical approaches to L1 learning: Behavourism, Innatism, the Interactionist position, The Simple View of Reading, and Rauding Theory 18. Theoretical approaches to L2 learning: Behavourism, Innatism, the Interactionist position, Rauding 19. Factors affecting L2 Learning: Intelligence, Aptitude, Personality, Motivation & Attitudes, 20. Factors affecting L2 Learning: Learner preferences & beliefs & Age of Acquisition 21. Learner Language 1: Interlanguage & Error Analysis 22. Learner Language 2: (continued) 23. Learner Language 3: Developmental Sequences (Morphemes and negation) 24. Learner Language 4: More developmental sequences (questions, relative clauses, and past tense) 25. Observing Language Classrooms: Natural and Instructional settings 26. L2 learning in the classroom: 5 proposals 27. L2 learning in the classroom: (continued) 28. Popular ideas about language learning: facts and opinions 29. Popular ideas about language learning: 30. Review

授業科目	英語教育学演習Ⅱ（1年用）	2単位	担当者名	奥田　祥子
授業の概要	大学院での研究テーマを決め、それにそった研究方法、資料の収集、必要であればデータ収集・分析の手段を考える。1年間の予定を立てることによって、修士論文作成の準備を行う。小論文を少なくても2編書き。学内の雑誌などに発表する。これによって修士論文への足掛かりができ、2年時の演習Ⅱとつながる。			
成績評価の基準と方法	授業での参加度と小論文の結果			
履修条件	第二言語習得に興味のある院生			
教科書	研究テーマによって異なるので、院生と相談のうえ決める。第二言語習得理論を知るためには英語教育学特殊研究Ⅱの教科書などが参考となる。			
参考文献・資料等	テーマによって異なるので必要に応じて渡す。			
授業計画 (授業の内容等)	1. 研究テーマについて考える。非常に重要なので、時間をかけて決めるようにしたい。 2. 研究テーマの設定および決定 3. テーマにそった先行研究を調べる。 4. 先行研究を調べる。 5. 文献をさがす。小論文1の構成について考える。 6. 小論文1についての文献を読む。問題点を見つける。 7. リサーチ・クエッションを考える。 8. 小論文1について議論 9. 小論文1を書き始める。 10. 小論文1を書く。 11. 小論文1を書く。チェックをする。 12. 小論文1の出来上がり。チェック 13. 小論文1のチェックと問題点をさがす。 14. 小論文1の提出 15. 小論文1の校正。まとめ			16. 小論文1の校正。小論文2について考える。 17. 小論文2のリサーチ・クエッションを決める。 18. 小論文2の構成について考える。 19. 小論文2について考える。 20. 小論文2の文献研究 21. 小論文2を書き始める。 22. 小論文2を書く。チェック 23. 小論文2のチェック 24. 小論文2の問題点をチェック、解決する。 25. 諸論文2を完成する。 26. 小論文2の提出・チェック 27. 修士論文について考える。 28 修士論文のデータ収集について考える。 29. 修士論文の構成について考える。小論文2の校正。 30. まとめ　小論文2の校正

授業科目	英語教育学演習Ⅱ（修論指導）	2単位	担当者名	奥田　祥子
授業の概要	修士論文執筆にあたって、大学生のリーディング・クラスで学習スタイルや学習方略の調査を行い、データを集め、統計処理を行う。実際に5〜10分ぐらいの指導を行う。先行研究を調べ、論文を書く準備を行う。7月の中間発表まで、大体の論文の枠組みを作り、後期は足りないところを足していく。			
成績評価の基準と方法	授業の参加度と修士論文に対する姿勢よってきめる。			
履修条件	英語教育専攻で1年生の演習を終えた者			
教科書	特に決めないが、ガードナーなど多重知能関係の本や文献などを使用する。			
参考文献・資料等	必要に応じて渡し、読む			
授業計画（授業の内容等）	1. 学生の多重知能の調査（アンケート）および pre-test 2. 知能のタイプによって学生をグループ分けする。リーディングの学習方略の調査 3. クラスでリーディングの指導、知能の方による指導の違いをする。 4. クラスでリーディングを指導　先行研究の文献を集める。 5. リーディングの指導　先行研究の文献を集める。 6. リーディングの指導　先行研究の文献をを集める。 7. post-test を行う。先行研究の文献を集める。 8. 先行研究の文献を読む。　論文の執筆開始 9. 先行研究の論文を読みまとめる。 10. 先行研究の論文を読みまとめる。中間発表のための準備 11. 先行研究の論文をまとめ、リサーチ・クェションを決める。中間発表のための準備 12. リサーチ・クェションによってデータを処理する。中間発表のための準備 13. データを統計にかける。中間発表のため、大体の論文の骨格を作る。 14. イントロダクションの完成　論文の大体の目安を書く。 15. リサーチ・クェエション　中間発表でのコメントを参考に本格的に論文執筆を始める。			16. 参考書目を完成する。論文執筆 17. ディスカションを考える。論文執筆 18. ディスカションの部分を書く　論文執筆 19. ディスカションの部分を書く　論文執筆 20. 結論を書く　論文執筆 21. 結論を書く　論文執筆 22. 残りの部分を書く　論文執筆 23. 残りの部分を書く　論文執筆 24. 残りの部分を書く　論文執筆 25. できれば delayed post test を行う。論文執筆 26. 論文のチェック、英語の最終チェック 27. 修士論文完成 28. 見直し、誤り訂正 29. 見直し、誤り訂正 30. 論文提出

授業科目	英語教育学特殊研究Ⅲ	4単位	担当者名	米山　朝二
授業の概要	外国語としての英語の教授・習得過程を検討することで包括的な理解を図り、特に、最新の指導過程の詳細に関する専門的な知識を深める。対象言語である英語の構造の基本的な検討から始め、言語習得の背景的な理論、指導法の変遷、学習者・指導者論、教室運営、言語構造の指導、4技能の指導、指導計画とシラバス設計、評価、学習者自律性に到る内容について考究する。			
成績評価の基準と方法	出席、授業参加、分担課題の口頭発表、エッセイを総合的に勘案して総合的に評定する。			
履修条件	英語科教育法を学部で受講していること。			
教科書	Jeremy Harmer: The Practice of English Language Teaching 4th edition, Pearson Longman 2007			
参考文献・資料等	英語教育指導法事典　研究社			
授業計画（授業の内容等）	1. オリエンテーション 2. The changing world of English 3. Describing the English language 4. Background issues in language learning 5. Popular methodology（1） 6. Popular methodology（2） 7. Popular methodology（3） 8. Describing learners 9. Describing teachers 10. Describing learning contexts 11. Mistakes and feedback 12. Managing for success 13. Grouping students 14. Educational technology and other learning resources（1） 15. Educational technology and other learning resources（2）			16. Teaching language construction 17. Teaching grammar 18. Teaching vocabulary 19. Teaching pronunciation 20. Teaching language skills 21. Reading 22. Listening 23. Writing 24. Speaking（1） 25. Speaking（2） 26. Planning lessons 27. Testing and evaluation 28. Learner autonomy 29. What teachers do next 30. まとめ

授業科目	英語教育学演習Ⅲ（1年用）	2単位	担当者名	望月　昭彦
授業の概要	英語教育学の論文及び著書を読む際、統計の知識が必要とされる。又、英語教育学の研究結果を論文として作成する際には、統計処理をすることが求められている。従って、この授業では、英語教育学で研究上必要とされる統計の知識を学び、基本的な統計処理の方法を会得する。前期は統計学を日本語で講義する。後期は、英語の評価論の本を講読し、英語の学力測定と評価についての問題を考察する。			
成績評価の基準と方法	中間・期末テスト60%、課題図書レポート10%、リアクション10%、プロジェクト10%、出席10%			
履修条件	1. 英語教育に強い関心を持つと共に、総合的な知識を有すること。なお、教職経験、教育実習経験を有する、又はそれを目指して勉強中であること。2. 関数電卓を毎回の授業に持参すること。			
教科書	前期は、毎時間講義に必要なハンドアウトを配布する。更に、清川英男（1990）『英語教育研究入門』大修館書店する。後期は、Hughes, A.（2003）. *Testing for language teachers*. Cambridge University Press. を使用する。			
参考文献・資料等	大村平（1980）『統計のはなし』日科技連、大村平（1980）『統計解析のはなし』日科技連、石村貞夫（2000）『SPSSによる統計処理の手順』東京図書、酒井麻衣子（2003）『SPSS完全活用法』東京図書、静、竹内、吉沢共編著（2002）『外国語教育リサーチとテスティングの基礎概念』関西大学出版部、出村、西嶋、長沢、佐藤編（2004）『SPSSによる多変量解析入門』杏林書院			
授業計画（授業の内容等）	1. 前期授業のイントロダクション 2. Ⅰ. 仮説とデータ分析の方法 3. Ⅱ.（1）参加者とデータの種類 4.　（2）参加者とデータの種類 5. 中間のまとめ（テストを含む） 6. Ⅲ. データの収集と要約 7. Ⅳ. データ分析上の留意点 8. Ⅴ. 目的に従った統計解析の技法 9. Ⅵ. 2グループ間の連続変数の比較 10. Ⅶ. 3グループ以上の間の連続変数の比較 11. Ⅷ. グループ間の頻度の比較 12. Ⅸ. 予測：　相関と回帰 13. Ⅹ. 合成：　因子分析と主成分分析 14.　予測：　重回帰 15. Ⅺ. 分類：　クラスター分析、Q&A.		16. 後期授業のイントロダクション 17. Hughes　（2003）　1&2章 18. Hughes　（2003）　3章 19. Hughes　（2003）　4章 20. Hughes　（2003）　5章 21. 中間のまとめ（テストを含む） 22. Hughes　（2003）　6章 23. Hughes　（2003）　7章 24. Hughes　（2003）　8章 25. Hughes　（2003）　9章 26. Hughes　（2003）　10章 27. Hughes　（2003）　11&12章 28. グループプロジェクト1「Statistics」 29. グループプロジェクト2「Statistics」 30. まとめ（Q&A）	

授業科目	英語教育学演習Ⅲ（修論指導）	2単位	担当者名	望月　昭彦
授業の概要	修士論文を仕上げることを目的として、受講生の興味あるテーマについて毎週、調べてきたことを発表させて、受講生同士から批評させる。次に、指導教師がコメントをつけていく。各受講生に自ら選択した研究主題を追及させる過程で、随時、参考文献、著書を紹介する。			
成績評価の基準と方法	毎週、発表するレポート、及び、レポーターが発表した後の議論にどの程度、寄与したかによって評価する。			
履修条件	英語教育学演習Ⅲ、英語教育学特論、演習のいずれかを受講した者。			
教科書	随時資料を配布する。			
参考文献・資料等	*ELT Journal, Canadian Modern Language Review, IRAL, Language Learning, Modern Language Journal, Studies in Second Language Acquisition, System, TESOL Quarterly* 〔以上、いずれも本学図書館所蔵〕等。			
授業計画（授業の内容等）	1. 前期授業のイントロダクション 2. 修士論文の構想 3. 修士論文の構想 4. 先行研究の検討 5. 先行研究の検討 構想発表会の準備 6. 先行研究の検討 7. 先行研究の検討 8. 先行研究の検討 9. 先行研究の検討 10. 先行研究の検討 中間発表会の準備 11. 予備実験の実施 12. 予備実験の反省 13. 本実験の立案 14. 本実験の実施 15. 本実験の実施		16. 実験の分析 17. 実験の分析 18. 実験の分析 19. 実験の分析 20. 結果と考察 21. 結果と考察 22. 結果と考察 23. 結論 24. 結論 25. 結論 26. 英文執筆 27. 英文執筆 28. 英文執筆 29. 英文執筆 30. まとめ	

授業科目	英米言語文化特殊研究Ⅰ	4単位	担当者名	阿出川祐子・北林　光
授業の概要	英米言語文化研究を行う上で必要な方法論を中心に、説明及びガイダンスを行う。特に後期はネイティヴ・スピーカーによる発音や英語のリズムの講義等も行う。			
成績評価の基準と方法	平常点と授業態度を主として評価対象とする。			
履修条件	前期と後期で担当教員が異なるので十分に注意のこと。			
教科書	前期・後期共にテキストはなし。必要に応じてプリントを配ることもある。			
参考文献・資料等	学生各自の研究内容に関連したものを随時紹介する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. 英米言語文化研究とは？ 2. 異文化論とその歴史（1） 3. 異文化論とその歴史（2） 4. 英米言語文化と言語（1） 5. 英米言語文化と言語（2） 6. 英米言語文化と言語（3） 7. アメリカの文学と文化（1） 8. アメリカの文学と文化（2） 9. アメリカの文学に表れる習慣 10. アメリカの文学に表れる思想 11. アメリカの文学に表れる人物像 12. イギリスの文学と文化（1） 13. イギリスの文学と文化（2） 14. イギリスの文学に表れる習慣 15. イギリスの文学に表れる思想	16. 発音テスト 17. 英語のリズム 18. 英語の音楽 19. 英語形態論の基本 20. ボキャブラリービルディング 21. コンピューター操作 22. グーグルドキュメント 23. グーグルスプレッド&フォーム 24. 英作文のフォーマット 25. 文法（品詞） 26. 文法（定冠詞、不定冠詞） 27. 文法（時制） 28. 文法（関係代名詞） 29. 文法（前置詞） 30. 研究方法、研究テーマの設定		

授業科目	英米言語文化演習Ⅰ（1年用）	2単位	担当者名	阿出川　祐子
授業の概要	本講義では英語圏の言語表現を社会的習慣、制度、文化等との関連において研究することを主とする。論文を筆執する際に考慮すべきこと、特に論理の進め方、あるいは文献の取り扱い等に関しては個別に指導する。			
成績評価の基準と方法	出席状況とレポート、試験の総合評価			
履修条件	英米言語文化研究を履修するもの			
教科書	Terry Eagleton, *The Idea of Culture* *Henry James Review,* Johns Hopkins U. P. 2001–2005.			
参考文献・資料等	個々の学生の細分化された分野に応じて選択する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. *The Portrait of a Lady*（1） 2. *The Portrait of a Lady*（2） 3. *The Portrait of a Lady*（3） 4. *The Bostonians*（1） 5. *The Bostonians*（2） 6. *The Bostonians*（3） 7. *The American*（1） 8. *The American*（2） 9. *The American*（3） 10.“The Turn of the Screw”（1） 11.“The Turn of the Screw”（2） 12.“The Turn of the Screw”（3） 13. 文学作品の映画化したものについて（1） 14. 文学作品の映画化したものについて（2） 15. まとめ（質問）	16. *The Sense of the Past*（1） 17. *The Sense of the Past*（2） 18. *The Sense of the Past*（3） 19. *The Wings of the Dove*（1） 20. *The Wings of the Dove*（2） 21. *The Wings of the Dove*（3） 22. 文学作品の背景としての文化（1） 23. 文学作品の背景としての文化（2） 24. 文学作品に表される人物の心理（1） 25. 文学作品に表される人物の心理（2） 26. 文学作品と文化に関するイギリス史 27. 文学作品と文化に関するアメリカ史 28. 文学作品と文化と国民性の関係 29. まとめ（質問） 30. テスト		

授業科目	英米言語文化演習Ⅰ（修論指導）	2単位	担当者名	阿出川　祐子
授業の概要	一年次で蓄積した研究を基に前期の修論中間発表と後期の修論提出に向け、論文執筆を開始する。前期までに、序論、先行研究、議論部分を終え、後期は残り部分を含めた論文の完成をめざす。			
成績評価の基準と方法	論文の各パートの正確度と論文全体の一貫性と論理性に重点をおく。			
履修条件	前年度英米言語文化演習Ⅰを履習したもの。			
教科書	*History of English tea*（Blackwell Publishing, 1990）他。			
参考文献・資料等	学生各自の研究内容に応じて随時紹介			
授業計画（授業の内容等）	1. これまでの資料とノートの確認・全体の論文構造の考察（1） 2. これまでの資料とノートの確認・全体の論文構造の考察（2） 3. イントロダクション執筆 4. 先行研究の要約及び本文との関連の確認（1） 5. 先行研究の要約及び本文との関連の確認（2） 6. 先行研究の要約及び本文との関連の確認（3） 7. 先行研究の要約及び本文との関連の確認（4） 8. 中間発表に向け資料確認（1） 9. 中間発表に向け資料確認（2） 10. 結論の見通しの確認 11. 方法論についての確認 12. ディスカッション部分の内容の確認及び英文確認（1） 13. ディスカッション部分の内容の確認及び英文確認（2） 14. 論文構造の最終的確認（1） 15. 論文構造の最終的確認（2）		16. イントロダクション、先行研究、方法論、ディスカッション部分の一貫性確認（1） 17. イントロダクション、先行研究、方法論、ディスカッション部分の一貫性確認（2） 18. 11で行った方法論に追加があるか否かの確認（1） 19. 11で行った方法論に追加があるか否かの確認（2） 20. 10に基づき結論を出し、16、17、18との正合性、統合性を確認 21. 10に基づき結論を出し、16、17、18との正合性、統合性を確認 22. 20、21に基づき英文作成 23. ネイティブチェック（英文について） 24. ネイティブチェック（英文について） 25. 参考文献表の作成 26. 参考文献表の英文チェック 27. 完成に向けて各部の英文執筆及びネイティブチェック、修正、目次、その他未完部分をチェック（1） 28. 完成に向けて各部の英文執筆及びネイティブチェック、修正、目次、その他未完部分をチェック（2） 29. 完成に向けて各部の英文執筆及びネイティブチェック、修正、目次、その他未完部分をチェック（3） 30. 論文全体のチェック、修整、完成	

授業科目	英米言語文化学演習Ⅰ（1年用）	2単位	担当者名	北林　光
授業の概要	2つの出版可能な論文を作成する。（半期に1ずつ） 論文作成を通し、学生が学術的な研究と論文作成の方法を学ぶことを目的とする。			
成績評価の基準と方法	作成する2つの論文を評価対象する。			
履修条件	英米言語文化を専攻とする大学院1年生であること。			
教科書	なし。			
参考文献・資料等	それぞれのテーマに沿ったもの。			
授業計画（授業の内容等）	1. 学生の研究希望の確認 2. 論文テーマを決定する 3. 論文出版のための戦略 4. スケジュールの決定 5. 論文のアウトラインの作成 6. 必要な書籍や記事の選定 7. 書籍や記事の要約 8. 書籍や記事の要約 9. 論文のためのデータの収集 10. 論文のためのデータの収集 11. 論文のためのデータの処理 12. 論文のためのデータの分析 13. 論文作成 14. 論文作成 15. 論文作成		16. 学生の研究希望の確認 17. 論文テーマを決定する 18. 論文出版のための戦略 19. スケジュールの決定 20. 論文のアウトラインの作成 21. 必要な書籍や記事の選定 22. 書籍や記事の要約 23. 書籍や記事の要約 24. 論文のためのデータの収集 25. 論文のためのデータの収集 26. 論文のためのデータの処理 27. 論文のためのデータの分析 28. 論文作成 29. 論文作成 30. 論文作成	

授業科目	英米言語文化学演習Ⅰ（修論指導）	2単位	担当者名	北林　光
授業の概要	学生が修士論文の作成を修了することを目的とする。			
成績評価の基準と方法	修士論文完成へ向けての努力を評価する			
履修条件	英米言語文化を専攻とする大学院前期課程2年生であること。			
教科書	なし。			
参考文献・資料等	学生それぞれの研究に関連したもの。			
授業計画（授業の内容等）	1. 学生の研究希望の確認 2. 論文テーマを決定する 3. 論文出版のための戦略 4. スケジュールの決定 5. 論文のアウトラインの作成 6. 必要な書籍や記事の選定 7. 書籍や記事の要約 8. 書籍や記事の要約 9. 書籍や記事の要約 10. 書籍や記事の要約 11. 書籍や記事の要約 12. 中間発表準備 13. 中間発表準備 14. 中間発表準備 15. 中間発表準備	16. 修士論文のためのデータの収集 17. 修士論文のためのデータの収集 18. 修士論文のためのデータの収集 19. 修士論文のためのデータの収集 20. 修士論文のためのデータの処理 21. 修士論文のためのデータの処理 22. 修士論文のためのデータの処理 23. 修士論文のためのデータの処理 24. 修士論文のためのデータの分析 25. 修士論文のためのデータの分析 26. 修士論文のためのデータの分析 27. 修士論文作成 28. 修士論文作成 29. 修士論文作成 30. 修士論文作成		

授業科目	通訳・翻訳コミュニケーション特殊研究	4単位	担当者名	實吉　典子
授業の概要	通訳理論やプロセス・モデル、通訳研究の歴史、通訳の種類、さらにはコミュニケーションにおける通訳者の役割などに関する講義、および、通訳者養成の基礎的訓練手法を紹介しながら、逐次通訳および同時通訳の実践的な訓練を行う。毎回、英字新聞を訳出しながら、通訳者に必要な経済・政治・社会的知識や、通訳に役立つ文頭からの理解の手法を習得する。 後期分は7月末に集中講義を行う。うち1回は授業内講演者を招いてILOの通訳事情を学ぶ。			
成績評価の基準と方法	演習形式の授業なので、出席回数、授業への参加の度合い、課題への取り組みなどを考慮して総合的に評価する。			
履修条件	通訳という作業そのものに関心のある学生・院生、または、英語・日本語の運用能力の向上をはかりたい学生・院生が対象			
教科書	なし			
参考文献・資料等	担当者がプリント教材やテープ教材を用意する。			
授業計画（授業の内容等）	1. オリエンテーション 2. 英字新聞訳出、通訳理論の講義 3. 英字新聞訳出、プロセス・モデル講義 4. 英字新聞訳出、通訳研究の歴史の講義 5. 英字新聞訳出、通訳の種類の講義 6. 英字新聞訳出、逐次通訳のメモの取り方の指導 7. 英字新聞訳出、逐次通訳のメモの取り方の指導 8. 英字新聞訳出、テープ教材による逐次通訳の訓練 9. 英字新聞訳出、テープ教材による逐次通訳の訓練 10. 英字新聞訳出、テープ教材による逐次通訳の訓練 11. 英字新聞訳出、テープ教材による逐次通訳の訓練 12. 英字新聞訳出、テープ教材による逐次通訳の訓練 13. 英字新聞訳出、テープ教材による逐次通訳の訓練 14. 英字新聞訳出、テープ教材による逐次通訳の訓練 15. 英字新聞訳出、テープ教材による逐次通訳の訓練	16. 英字新聞訳出、コミュニケーションとは？（講義） 17. 英字新聞訳出、コミュニケーションとは？（討論） 18. 英字新聞訳出、コミュニケーションにおける通訳者の役割に関する講義 19. 英字新聞訳出、単語の同時通訳訓練 20. 英字新聞訳出、句の同時通訳訓練 21. 英字新聞訳出、文の同時通訳訓練 22. 英字新聞訳出、テープ教材による同時通訳訓練 23. 英字新聞訳出、テープ教材による同時通訳訓練 24. 英字新聞訳出、テープ教材による同時通訳訓練 25. 英字新聞訳出、テープ教材による同時通訳訓練 26. 英字新聞訳出、テープ教材による同時通訳訓練 27. 英字新聞訳出、テープ教材による同時通訳訓練 28. 英字新聞訳出、テープ教材による同時通訳訓練 29. 授業内講演（ILO通訳事情） 30. まとめ		

授業科目	異文化コミュニケーション実習Ⅰ	2単位	担当者名	小林　裕子
授業の概要	昨今、企業内業務としての翻訳そしてフリーランス翻訳者に求められるのは、仕様書、取扱説明書などの翻訳が大半を占めます。それは「工業英語」という分野に分類上、属します。英語学習者の多くいとっては、まだなじみが薄いのが現状です。明解に正確に簡潔に翻訳する演習を通し企業の翻訳者需要に応えうる人材を養成します。テクニカル翻訳に加え、ニュース翻訳や、スピーチ翻訳の演習も行ないます。			
成績評価の基準と方法	演習時間内での課題への取り組みの過程と結果を評価します。出席点30%、演習評価40%、課題提出評価30%			
履修条件	根気強く、簡単にはあきらめない方に受講をお願いしたいと思います。			
教科書	後日指定			
参考文献・資料等	後日指定			
授業計画 (授業の内容等)	1. 工業英語の意義解説 2. 工業英語演習の基礎 3. 工業英語演習の基礎 4. 工業英語演習の応用 5. 工業英語演習の応用 6. 工業英語の実際 7. 工業英語の実際 8. スピーチ翻訳演習 9. スピーチ翻訳演習 10. スピーチ翻訳演習 11. スピーチ翻訳演習 12. ニュース翻訳演習 13. ニュース翻訳演習 14. ニュース翻訳演習 15. 総合翻訳演習	16. テクニカルイングリッシュ総合演習 17. テクニカルイングリッシュ総合演習 18. テクニカルイングリッシュ総合演習 19. テクニカルイングリッシュ総合演習 20. スピーチ翻訳の実習 21. スピーチ翻訳の実習 22. スピーチ翻訳の実習 23. スピーチ翻訳の実習 24. ニュース英語の実習 25. ニュース英語の実習 26. ニュース英語の実習 27. ニュース英語の実習 28. 翻訳総合実習 29. 翻訳総合実習 30. 翻訳総合実習		

授業科目	異文化コミュニケーション実習Ⅱ	2単位	担当者名	小林　裕子
授業の概要	近年、企業内通訳の役割はその重要度を増しています。必要に応じて外部通訳者を雇用するのではなく、日常業務にかかわっている人の中で英語が堪能な人が、その役割を担うことが多くなっています。そのような金先からの要請に即、応えられるよう日→英、英→日通訳の技術をシャドーイング、頭ごなし通訳、要点通訳などの演習を通して学びます。国土交通省通訳案内士試験合格も目指します。			
成績評価の基準と方法	演習時間内での課題への取り組みの過程と結果を評価します。出席点30%、演習評価40%、課題提出評価30%			
履修条件	言葉の選択に、情熱を傾けられる方の受講を希望します。忍耐力も必要です。			
教科書	後日指定			
参考文献・資料等	後日指定			
授業計画 (授業の内容等)	1. 通訳の技術1 2. 通訳の技術2 3. 通訳の技術3 4. 通訳の技術4 5. 通訳技術の総合理解1 6. 通訳技術の総合理解2 7. 通訳技術の総合理解3 8. 通訳の総合演習1 9. 通訳総合演習2 10. 通訳の総合演習3 11. ニュース通訳1 12. ニュース通訳2 13. ニュース通訳3 14. スピーチ通訳1 15. スピーチ通訳2	16. スピーチ通訳3 17. スピーチ通訳4 18. 総合実習1 19. 総合実習2 20. 総合実習3 21. 総合実習4 22. 総合実習5 23. 通訳案内士試験対策1 24. 通訳案内士試験対策2 25. 通訳案内士試験対策3 26. 通訳案内士試験対策4 27. 通訳案内士試験対策5 28. 通訳の実際1 29. 通訳の実際2 30. 総合演習		

授業科目	異文化コミュニケーション実習Ⅲ	2単位	担当者名	佐藤　千津
授業の概要	「異文化コミュニケーション」を理論と実践の両面から捉え、異文化コミュニケーションに関する理解を深めるとともに、コミュニケーション実践演習を通して英語力の伸長を図ることを本授業の目標とする。授業計画に示したように各回の授業ではテーマを設定し、そのテーマに関連する分野の専門的な文献・資料、視聴覚教材などを用いてスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングといった英語の各スキルを向上させるための実習を毎回の授業で行う。			
成績評価の基準と方法	授業への出席・参加状況（50%）、小テスト（25%）、課題（25%）などから総合的に判断して評価する。			
履修条件	異文化コミュニケーションや異文化理解に学問的関心があり、英語によるコミュニケーション・スキルの向上のための実践演習に主体的・能動的に取り組む意欲が十分にあること。			
教科書	毎回の授業でオリジナルのプリントを配付するのでバインダーを用意すること。			
参考文献・資料等	Michael Byram（2008）*From Foreign Language Education to Education for Intercultural Citizenship: Essays and Reflections,* Multilingual Matters.			
授業計画（授業の内容等）	1. 前期授業のガイダンス（授業概要・計画の説明） 2. コミュニケーションとは何か 3. コミュニケーションのメカニズム 4. コミュニケーション・モデル 5. コミュニケーション・スタイル 6. コミュニケーション・スキル（1） 7. コミュニケーション・スキル（2） 8. コミュニケーション・スキル（3） 9. コミュニケーション・スキル（4） 10. コミュニケーション・スキル（5） 11. 文化の概念 12. 異文化とは 13. 異文化の認識 14. 異文化に対する態度 15. 前期の総括	16. 後期授業のガイダンス（前期の課題の返却と解説、後期授業概要・計画の説明） 17. 異文化理解とコミュニケーション 18. 異文化理解のためのトレーニング 19. 異文化適応のプロセス 20. 異文化適応のモデル 21. 異文化コミュニケーションのためのトレーニング（1） 22. 異文化コミュニケーションのためのトレーニング（2） 23. 異文化コミュニケーション研究のために 24. コミュニケーションと時事問題―民族 25. コミュニケーションと時事問題―政治 26. コミュニケーションと時事問題―経済 27. コミュニケーションと時事問題―教育 28. コミュニケーションと時事問題―環境 29. 後期の総括と課題の提示 30. 総括（課題の返却・解説）		

授業科目	異文化コミュニケーション実習Ⅳ	2単位	担当者名	George Wallace
授業の概要	The aim of this class is to enable students to feel comfortable in doing consecutive interpreting. To facilitate this, the class will be conducted mainly in English. The teacher will provide a variety of authentic materials, all recorded in the UK, to give students the chance to hear a cross section of people with different accents and belonging to various age groups, talking about all manner of topics.			
成績評価の基準と方法	Students will be evaluated according to the following criteria: their attendance record, their ability to carry out classroom activities effectively, and the results of short tests that will be set throughout the academic year.			
履修条件	Anyone can take the class who has studied English for six years at secondary school, and who is prepared to put in the necessary effort and attend regularly.			
教科書	There is no textbook in this class. The teacher will provide materials as and when appropriate.			
参考文献・資料等	A good electronic dictionary（with English-Japanese, Japanese-English and English-English functions）is recommended for this class.			
授業計画（授業の内容等）	1. An introduction to the course 2. Interview 1: Iris 3. Interview 2: Harry 4. Interview 3: Gary 5. Interview 4: Javier 6. Interview 5: Gudrun 7. Test on the work done so far 8. Interview 6: Jamie 9. Interview 7: Beryl 10. Interview 8: Mark 11. Interview 9: Pam 12. Interview 10: Abigael 13. Test on the work done so far 14. Review of the semester 15. Explanation of the vacation homework	16. Student presentations（part one） 17. Student presentations（part two） 18. Review of presentations 19. Interview 11: Andrew 20. Interview 12: Ewa 21. Interview 13: Chris 22. Interview 14: Caroline 23. Interview 15: Gordon 24. Test on the work done this semester 25. Visit of guest speaker 26. Looking at festivals（part one） 27. Looking at festivals（part two） 28. Test on festivals 29. Review of the year's work 30. Suggestions for further study		

授業科目	異文化コミュニケーションⅤ	2単位	担当者名	R. シグレー
授業の概要	This course is designed to introduce students to the forms and structures used in written Academic English, though guided reading of research reports and theses.			
成績評価の基準と方法	Assessment will be based on participation, and completion of assigned readings.			
履修条件	This course is intended for 1st-year English M. A. students.			
教科書	Students will need an English dictionary. Most other materials will be provided in class.			
参考文献・資料等	Each students will be assigned to read and report on one previous MA thesis.			
授業計画 (授業の内容等)	1. What is a thesis? 2. Types of claim or question. 3. Types of evidence 1: observation 4. The place of theory in research 5. Types of evidence 2: experiments 6. Types of evidence 3: questionnaires 7. Interpreting evidence 1: statistics 8. Interpreting evidence 2: explanations 9. Critical reading exercise 1: statistics 10. Reading abstracts 11. Identifying the main topic 12. Links and transitions in academic English 13. Paragraph structure 14. Topic flow between paragraphs 15. Section and topic structure	16. Case study 1: *Kazumasa* 17. Discussion of case study 1 18. Case study 2: *Noguchi* 19. Discussion of case study 2 20. Case study 3: *Umezu* 21. Discussion of case study 3 22. Student presentation of case study 4 23. Discussion of case study 4 24. Student presentation of case study 5 25. Discussion of case study 5 26. Student presentation of case study 6 27. Discussion of case study 6 28. Student presentation of case study 7 29. Discussion of case study 7 30. Review of course		

授業科目	異文化コミュニケーション実習Ⅵ	2単位	担当者名	熊澤　佐夫
授業の概要	[1. 授業目標・内容] 院生の英語力を伸ばし、各種の英語検定試験に合格するだけの英語力を養成することが、この講座の眼目で、その目的のために設けられた実習科目である。英検1級の試験問題に出題された語句を、その語源に遡り考究し、同じ語源から派生した関連語句を学び、語彙の習得に万全を期すつもりである。			
成績評価の基準と方法	[2. 成績評価] 最後の時間に行うテストで決定する。			
履修条件	[3. 履修上の注意] 学生との give-and-take を楽しみたいので、必ず予習してくること。少なくとも質問したい個所を探し出して教室にくること。			
教科書	[4. テキスト] 英検1級 DAILY 30 日間集中ゼミ（旺文社）の語彙編。			
参考文献・資料等	特になし			
授業計画 (授業の内容等)	1. obey, poise, esteem 2. retention, entice, commit 3. consent, summon, precipitous 4. prescriptive, prolific, niche 5. variant, curb, dearth 6. Review（1） 7. implicate, incite, provoke 8. indulge, artifact, retaliate 9. insurgent, enigma, surge 10. ordeal, indignant, revert 11. inherent, incessant, face 12. Review（2） 13. insipid, meticulous, prudent 14. lucid, latent, acrimonious 15. malevolent, pretension, comply	16. premeditation, prerogative, nauseous 17. preclusion, formulate, exuberant 18. Review（3） 19. extemporize, contemplate, consummate 20. ardent, auspicious, autonomous 21. relinquish, relegate, rescind 22. repriment, assuage, assail 23. abate, actualize, explicit 24. Review（4） 25. loquacious, obtrusive, prevalent 26. malignant, unabashed, unscathed 27. uncouth, unruly, scribble, 28. appeasable, fluke, plight 29. make a splash, make way, puss up 30. Review（5）		

授業科目	異文化コミュニケーション実習Ⅶ	2単位	担当者名	R. シグレー
授業の概要	This course is a series of tutorials and workshops designed to supports students writing up research projects in English.			
成績評価の基準と方法	Assessment will be based on timely completion of project drafts.			
履修条件	This course should be taken by all 2nd-year English M.A. students.			
教科書	Students will need an English dictionary. Most other materials will be provided in class.			
参考文献・資料等	Course notes			
授業計画 (授業の内容等)	1. Thesis project management 2. Refining your research question 3. The introduction chapter: structure and contents 4. Writing a project proposal 5. Literature reviews: structure and contents 6. Referencing and citing sources 7. How to use source materials 8. Defining terms 9. Document formatting: M. A. style guide 10. Methodology chapter: structure and contents 11. Method description 12. Academic vocabulary 13. The midyear report: handouts 14. The midyear report; spoken presentation 15. Practice for midyear presentations	16. Data description 17. Using tables and graphs 18. Describing statistical significance 19. Interpreting findings 20. Expressing degrees of certainty 21. Discussion chapter: purpose and contents 22. Signalling logocal structure 23. Conclusions: purpose and contents 24. Editing workshop 1 25. Editing workshop 2 26. Editing workshop 3 27. Editing workshop 4 28. Abstracts: summarizing your thesis 29. Optional extras: notes, acknowledgements, and appendices 30. Final formatting check		

授業科目	Cross-Cultural Communication Ⅷ	2単位	担当者名	Mark N. ZION
授業の概要	The theme is on understanding more about life in the developing world as well as understanding fundamental world-views of Western religious and political life. In the first semester we will use the *BBC Hands On* series to consider development projects in India, Sri Lanka, South Africa, China, Bolivia, and Switzerland. Students will learn about these countries as well as understand the efforts to protect the environment and reduce pollution. In the second semester, we will pay particular attention to the clash of world-views in both history and in current Western religious and political life, and ways that these fundamental value systems influence all politics. Students will have an internet assignment every other week.			
成績評価の基準と方法	Attendance/Participation 20% Homework（self-assessed） 40% Homework（teacher-assessed） 40%			
履修条件	No Requirements			
教科書	All Materials Will be provided by professor			
参考文献・資料等	No reference is required			
授業計画 (授業の内容等)	1. BBC: *A Switch In Time/India* 2. BBC: *A Switch In Time/India*/Internet Research 3. BBC: *A Switch In Time/India* Discussion 4. BBC: *A Switch In Time/Sri Lanka* Internet Research 5. BBC: *A Switch In Time/Sri Lanka* Discussion 6. BBC: *From Plague To Plenty/South Africa* Internet Research 7. BBC: *South Africa, Internet Research* 8. BBC: *From Plague To Plenty/China* Internet Research 9. BBC: *From Plague To Plenty/China* Discussion 10. BBC: *Shedloads/Bolivia* Internet Research 11. BBC: *Shedloads/Bolivia* Discusion 12. BBC: *Animal Magic/Switzerland* Internet Research 13. BBC: *Animal Magic/Switzerland* Discussion 14. Super Size Me: The USA 15. Wrap-up Discussion/survey	16. Course Introduction 17. What Is A World-View? 18. What Is A World-View? 19. *Against Culture/Religious* 20. *Against Culture/Secular* 21. Of Culture/Religious 22. Of Culture/Secular 23. Above Culture/Religious 24. Above Culture/Secular 25. Culture In Paradox/Religious 26. Culture In Paradox/Secular 27. Transformer of Culture/Religious 28. Transformer of Culture/Secular 29. Wrap-up discussion 30. Survey		

平成21年度英語学専攻　博士課程後期課程　科目編成表

○専任、△非常勤

授業科目	単位	専・非	担当者名	備考	ページ
英語学特別演習Ⅰ	8	○	鈴木敬了		37
英語学特別演習Ⅱ	8			（開講せず）	
英語学特別演習Ⅲ	8	○	山崎俊次		37
英語学特論Ⅰ	4	△	池上惠子		38
英語学特論Ⅱ	4			（開講せず）	
英語学特論Ⅲ	4	○	山崎俊次		38
応用英語学特別演習Ⅰ	8	○	望月昭彦		39
応用英語学特別演習Ⅱ	8	○	西川栄紀		39
応用英語学特別演習Ⅲ	8	○	前期：阿出川祐子 後期：望月　昭彦		40
応用英語学特論Ⅰ	4	△	米山朝二		40
応用英語学特論Ⅱ	4	○	西川栄紀		41
応用英語学特論Ⅲ	4	○	阿出川祐子	※前期集中授業	41
応用英語学特論Ⅳ	4	○	奥田祥子		42

履修方法

1. 特別演習および特論は1～3年次にわたり配当する。
2. 特別演習は2年以上にわたり履修し8単位を取得しなければならない。
3. 特別演習8単位および特論8単位、計16単位以上を取得しなければならない。
4. 指導教員が必要と認めた場合に限り、他の専攻または他の研究科の授業科目について取得した単位は、所定の単位数に充当することができる。

修了要件：16単位＋博士論文

内　　訳；特別演習　8単位

特　　論　8単位

授業科目	英語学特別演習Ⅰ		担当者名	鈴木　敬了
授業の概要	博士論文の完成を目的とする。 前期：修士論文検証から始まり博士論文のドラフトの完成を目標とする。 後期：前期に作成したドラフトを基にさらに検討を加えて博士論文の全体像を描き、資料の分析、結論の作成など各パートの作成を行い最終的に博士論文の完成を図る。 自説の構築と検証に至る過程で国内外の学会発表とともに学術誌への論文投稿を行い、指導教員のみならず、国内外の研究者のコメントを取り入れて、高レベルの博士論文の完成を図る。			
成績評価の基準と方法	前期のドラフトおよび博士論文の他に学会活動も含めて総合的に評価する。			
履修条件	歴史英語学に深い関心があり意欲的に課題を見つけようとする自主性があり、英語で論文を書く学力を備えていること。また国内外の学会に積極的に参加するなど博士論文の執筆に強い意欲を持っていること。			
教科書	プリントを配布するが、MLA 論文の手引き等のスタイルシートを各自購入すること。			
参考文献・資料等	授業中に指示する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. 修士論文の課題の確認 2. 課題に関するディスカッション 3. 博士論文に発展させる資料の検討 4. 博士論文に発展させる統計処理の検討 5. 歴史英語学の最新の研究調査 6. 言語処理ソフト等の最新の動向調査 7. 博士論文の構成を練る 8. ドラフト：先行研究のまとめ 9. ドラフト：先行研究の問題点 10. ドラフト：研究の目的 11. ドラフト：研究の手法 12. ドラフト：資料収集と分類 13. ドラフト：資料の分析 14. ドラフト：結論の作成 15. ドラフト：修正と提出	16. 博士論文：ドラフトの先行研究の検討 17. 博士論文：ドラフトの研究目的の検討 18. 博士論文：ドラフトの分析方法の検討 19. 博士論文：ドラフトの分析の修正 20. 博士論文：ドラフトの結論の修正 21. 博士論文：先行研究のまとめ 22. 博士論文：先行研究の評価と研究の意義 23. 博士論文：資料の分析の記述 24. 博士論文：考察の作成 25. 博士論文：結論の作成 26. 博士論文：表題、目次等の作成 27. 博士論文：要約作成 28. 博士論文：注の作成 29. 博士論文：参考文献リストの作成 30. 博士論文：校正と提出		

授業科目	英語学特別演習Ⅲ		担当者名	山崎　俊次
授業の概要	英語学特論Ⅲで習熟した言語体系、研究方法を基に、各自の研究テーマに則って実際に研究を進めていく科目である。各自研究テーマを決め、その分野に関する研究書、参考文献の有効で実質的な探求方法を追究し、さらに学会発表や関係誌への投稿の程度まで論文執筆をしていく。コンピュータを利用して、コーパス編纂・検索、分析ソフトの効果的な利用が必須であり、コンピュータの言語・表計算ソフトの基礎的な理解と活用を考究していく。			
成績評価の基準と方法	平常の授業参加、課題の発表、個人の研究発表等を総合的に判定する。			
履修条件	言語学の基礎知識、コンピュータの知識（言語ソフト、表計算ソフト等）			
教科書	授業中にプリント配布			
参考文献・資料等	Quirk, R. *et. al* (eds.) 1985 *A Comprehensive Grammar of The English Language*. London: Longman. Biber, D. *et. al* (eds.) 1999 *Longman Grammar of Spoken and Written English*. London: Pearson Education. Leech, G., P. Rayson and A. Wilson 2001 *Word Frequencies in Written and Spoken English*. London: Pearson Education. Saito, T., J. Nakamura and S. Yamazaki (eds.) 2002 *English Corpus Linguistics in Japan*. Amsterdam/New York: Rodopi.			
授業計画 (授業の内容等)	1. 授業の説明 2. 論文読解　① 3. 論文読解　② 4. 論文読解　③ 5. 著書読解　① 6. 著書読解　② 7. 著書読解　③ 8. コーパス言語学　① 9. コーパス言語学　② 10. コーパス編纂 11. 検索ソフト　① 12. 検索ソフト　② 13. 研究テーマ発表　① 14. 研究テーマ発表　② 15. 研究テーマ発表　③	16. コーパス言語学実践　① 17. コーパス言語学実践　② 18. コーパス言語学実践　③ 19. コーパス言語学実践　④ 20. コーパス言語学実践　⑤ 21. コーパス言語学実践　⑥ 22. コーパス言語学実践　⑦ 23. コーパス言語学実践　⑧ 24. コーパス言語学実践　⑨ 25. コーパス言語学実践　⑩ 26. 研究発表　① 27. 研究発表　② 28. 研究発表　③ 29. 研究発表　④ 30. まとめ		

授業科目	英語学特論Ⅰ	4単位	担当者名	池上　惠子
授業の概要	授業の概要　英語学に関連した研究に必須な歴史英語学の知識をより確実なものとするために、英語史の決定版とも言える下記のテクストを用いて、中英語に関する全項目について学ぶ。既習の知識を最大限に生かし、何がどのように問題となるのかを自覚しつつ学んでいきたい。自ら教授する場合があると仮定して、それにも対応できるレベルに近づけたい。受け身の姿勢ではなく、関連論文を自ら紹介するといった意気込みで臨んで欲しい。			
成績評価の基準と方法	授業への参加、すなわちレポーターの質および回数、提出レポートを総合評価する。			
履修条件	歴史英語学に関する知識があること。ただし、現代英語の知識が確実で、本授業の主旨を理解する場合の履修は歓迎する。			
教科書	Norman Blake ed. The Cambridge History of the English Language, Vol.Ⅱ: 1066-1476. Cambridge UP. 1992.			
参考文献・資料等	上記書物に記載の参照文献および同書出版以後のものについて、適宜紹介する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. ガイダンスおよび中英語研究について 2. 中英語の問題点：綴字、標準化、識字の向上 3. 音韻論：総論 4. 古英語の音韻体系 5. 中英語の母音体系・中英語基の子音の変化 6. 長音化と強勢の変化 7. 形態論：総論 8. 主要文法範疇と形態 9. 方言論：中英語の方言研究について 10. 中英語の地理方言 11. 方言の理論化：中英語の場合 12. 統語法：総論 13. 名詞句・動詞句 14. 疑問・否定 15. 文型	16. 一致 17. 語順と文の生成 18. 語彙と意味論：総論 19. 外来語の影響 20. 語形成（1） 21. 語形成（2） 22. 語の意味について 23. 語義の変化（1） 24. 語義の変化（2） 25. 中英語文学と言語：総論 26. 初期中英語期の文学と言語 27. 後期文学と言語 28. 言語資料：文学作品・その他の文献 29. 年間の総括（1）：各自のレポート報告 30. 年間の総括（2）		

授業科目	英語学特論Ⅲ	4単位	担当者名	山崎　俊次
授業の概要	F. Saussure 以来の言語学の基本的な理解の上に、主に文法論の歴史的経緯と諸理論との学際的な関連性を考察、研究していく。さらに関連する言語学におけるコーパス言語学の体系と研究法、その発展と意義、諸分野との関連性を学際的に追究していく。			
成績評価の基準と方法	平常の授業参加、課題の発表、個人の研究発表等を総合的に判定する。			
履修条件	言語学の基礎知識、コンピュータの知識（言語ソフト、表計算ソフト等）			
教科書	授業中にプリント配布			
参考文献・資料等	Saussure, F.『一般言語学講義』（小林英夫訳）岩波書店 1972. Quirk, R. *et. al* (eds.) 1985 *A Comprehensive Grammar of The English Language*. London: Longman. Finegan, E. 1999 *Language: Its Structure and Use*. 3rd Ed. Orland: Harcourt Brace College Publishers. Aijmer, K. and B. Altenberg 1991 English Corpus Linguistics. London/New York: Longman.			
授業計画 (授業の内容等)	1. 授業の説明 2. 論文読解（一般言語学）① 3. 論文読解（一般言語学）② 4. 論文読解（一般言語学）③ 5. 著書読解（一般言語学講義中心）① 6. 著書読解（一般言語学講義中心）② 7. 著書読解（一般言語学講義中心）③ 8. 著書読解（一般言語学講義中心）④ 9. 著書読解（一般言語学講義中心）⑤ 10. 文法論と関連分野　① 11. 文法論と関連分野　② 12. 文法論と関連分野　③ 13. 文法論と関連分野　④ 14. 文法論と関連分野　⑤ 15. 文法論と関連分野　⑥	16. コーパス言語学と関連言語研究　① 17. コーパス言語学と関連言語研究　① 18. コーパス言語学と関連言語研究　① 19. コーパス言語学と関連言語研究　① 20. コーパス言語学と関連言語研究　① 21. コーパス言語学実践　① 22. コーパス言語学実践　② 23. コーパス言語学実践　③ 24. コーパス言語学実践　④ 25. コーパス言語学実践　⑤ 26. 研究発表　① 27. 研究発表　② 28. 研究発表　③ 29. 研究発表　④ 30. まとめ		

授業科目	応用英語学特別演習Ⅰ		担当者名	望月　昭彦
授業の概要	言語熟達度の測定と評価のあり方及び、英語テストの妥当化を検討することを目的として、言語熟達度テスト及び、英語テストの妥当性を究明し、言語熟達度を測定するテストの設計、開発、評価方法、妥当性検証の方法を考察する。目的：1. 言語熟達度及び、英語テストの妥当化についての論文を読む。英語熟達度の測定及び評価の問題、英語テストの妥当化を取り上げて考察する。授業は毎回、学生が順番で各論文について梗概を発表し、その後、内容について議論をする。学年末に英語熟達度のテストをグループで設計、開発し、評価方法を検討する。			
成績評価の基準と方法	前期の場合はリアクションペーパー　20%、プレゼンテーション　50%、学会、研究会の参加及びレポート　20%、出席　10%、後期の場合はプレゼンテーション　40%、熟達度テストについてのレポート　15%、グループ・プロジェクト　15%、学会、研究会の参加及びレポート　20%、出席　10%			
履修条件	英語教育の教授経験を有する、或いは前期課程で英語教育学に関する講義・演習を履修し、基本的な情報に精通していること。			
教科書	本授業に関する海外の論文 18 編、及び、受講生が選択する 6 編の論文を使用する。			
参考文献・資料等	*The Handbook of Second Language Acquisition* (Blackwell), *Handbook of Research on Second Language Teaching and Learning* (Erlbaum), 配布する資料。なお、*ELT Journal, Canadian Modern Language Review, Language Learning, Studies in Second Language Acquisition, System, TESOL Quarterly*、*Language Testing* (以上大部分本学図書館所蔵) 等を十分活用することが望ましい。			
授業計画 (授業の内容等)	1. Carroll, J. B. Fundamental considerations in testing. In Allen, H. B. & Campbell, R. n. (1965) 2. Briere, EJ. (1971). Are we really measuring proficiency? In Allen, H. B. & Campbell, R. n. (1965) 3. Fahady, H. Measures of language proficiency. *TESOL Quarterly. 16.* 1. March 1982. 4. Stern, H. H. (1983) *Fundamental concepts.* Oxford University Press. 337-359. 5. Bachman, L. F. (2000). Modern language testing. *Language Testing. 17.* 1-42. 6. Douglas, D. C. (1995). Developments in language testing. In Grabe, W. et al. (eds.) 7. North, B. (2000) *The development of a common framework scale.* Peter Lang Publishing. 41-87. 8. North, B. (2000) *The development of a common framework scale.* Peter Lang Publishing. 87--129 9. Chappelle, C. A. (1999). Validity in language assessment. *Annual review. 19.* 254-272. 10. Lynch, B. (2003). Language assessment & programmeevalution. EdinburghUP148～165. 11. Messick, S. (1994). The interplay. *Educational Researcher, 23.* 1. 13-23. 12. Bachman, L. F. & Palmer, S. (1982). The construct validation. *TESOL Q. 16.* 4. 13. Anderson, N., et al. (1991). An exploratory study. *Language Testing 8.* 1. 41-66. 14. Bachman, L. F. & Eignor, D. R. (1997). Recent advances. In Clapham, C. & Corson, D. C. (1997) 15. まとめ (Q&A)	16. Banerjee, J. & Luowa, S. (1997). Qualitative approaches. In Clapham, C. & Corson, D. C. (1997) 17. Alderson, J. C. (1995). *Language test construction and evaluation.* 170-196. 18. McKay, P. (2000). On ESL standads. *Language Testing. 17.* (2) 185-214. 19. Sakyu, A. A. (2000) Validation of holistic scoring. 129-152. 20. グループプロジェクト (熟達度テスト) についての議論Ⅰ 21. 学生による選択の論文 #19 22. グループプロジェクト (熟達度テスト) についての議論Ⅱ 23. 学生による選択の論文 #20 24. 学生による選択の論文 #21 25. グループプロジェクト (熟達度テスト) についての議論Ⅲ 26. 学生による選択の論文 #22 27. 学生による選択の論文 #23 28. 学生による選択の論文 #24 29. 学生による選択の論文 #25 30. グループ・プロジェクトの発表		

授業科目	応用英語学特別演習Ⅱ		担当者名	西川　栄紀
授業の概要	言語 4 技能の効果的効率的習得を意図する教育文法について、認知理解の促進、言語感覚養成の強化、コミュニケーション能力の向上を目指した開拓的研究を行う。そのために、教育文法の理論的・実践的研究の進展の様相を俯瞰し、諸々の示唆の検出を図るとともに、心理言語学、社会言語学、神経言語学、言語文化学、コーパス言語学などの関係諸分野に対し学際的にアプローチし、諸々の援用可能な知見を検出する。このような学際的研究の帰結の具体化として、コミュニカティブな教育文法教材の作成を試行する。			
成績評価の基準と方法	課題レポートの成果、授業中の研究討議やワークショップへの参加状況、出席状況により総合的に評価する。			
履修条件	英和、和英、英英の三種類の英語辞書と英語教育学辞典を必携とする。			
教科書	Nunan, D. (2005). *Practical English Language Teaching: Grammar.* New York: McGraw-Hill.			
参考文献・資料等	Bygate, M., Tonkin A., & Williams A. (eds.). (1994). *Grammar and the Language Teacher.* New York: McGraw-Hill.			
授業計画 (授業の内容等)	1. Interfacing first and foreign language 2. same as above 3. Acquisition of the article system 4. same as above 5. Acquisition of prepositions 6. same as above 7. Prototypes and scales 8. same as above 9. Design criteria for pedagogic grammar 10. same as above 11. Consciousness-and-awareness raising 12. same as above 13. Teaching grammar as grammaticisation 14. same as above 15. Declarative and procedural knowledge	16. Constitutive and communicative grammar rules 17. same as above 18. Lexis as a starting point 19. same as above 20. Cognitive approaches to pedagogic grammar 21. same as above 22. Teachability, learnability and usability 23. same as above 24. Acquisition of the number sysem 25. same as above 26. Acquisition of infinitives and gerunds 27. same as above 28. A communicative pedagogical grammar 29. same as above 30. same as above		

授業科目	応用英語学特別演習Ⅲ		担当者名	阿出川　祐子
授業の概要	英語圏の言語文化について文学作品による考察を主とする。英米文化を成立させている歴史的背景、社会制度、習慣、行動様式を研究し、真の異文化理解の成立に寄与する方法の確立をめざす。 授業は毎回前もって決められた論文を学生が用意してきて発表することとする。			
成績評価の基準と方法	前期は発表 80%　学会、研究会の参加 10%　出席 10% 後期は発表 60%　レポート 20%　出席 10%　テスト 10%とする			
履修条件	後期は阿出川が海外に赴くため、担当者は望月教授に変更となる。			
教科書	本講に関する英語による論文 15 編と学生が選択する 8 編及び文学作品 10 編			
参考文献・資料等	1. *The Henry James Review*（Johns Hopkins University Press） 2. *Henry James*（New York Edition）			
授業計画 (授業の内容等)	1. *The American Scene*（1） 2. *The American Scene*（2） 3. “Emerson” 4. “Henry James, (Post) Modernist?” 5. “Portraying the Lady” 6. “A Passionate Pilgrim” 7. “James, the Orientalist” 8. “Dear and Venerable Circle” 9. ““Pandora” and Self-made Girl” 10. “Literary Ancestor” 11. “The Etonian in *The Portrait of a Lady*” 12 “Louisa May Alcott and James” 13. “Royal Models” 14. “The Dreyfus Case” 15. “Discovery of the Future”	16. テスト 17. “Modern Alcestis” 18. “James and Miss Braddon” 19. “Mrs. Oliphant Broken Wings” 20. “The Etonian in *The Portrait of a Lady*” 21. “H. G. Wells and *The Sense of the Past*” 22. “Fairy Tales in James’ Stories” 23. 学生による選択の論文（1） 24. 学生による選択の論文（2） 25. 学生による選択の論文（3） 26. アメリカ文学（小説）と社会的背景 27. アメリカ文学（随筆）と社会的背景 28. アメリカ文学（書簡）と社会的背景 29. まとめ、(Q&A) 30. テスト		

授業科目	応用英語学特論Ⅰ	4 単位	担当者名	米山　朝二
授業の概要	外国語としての英語の習得過程及び教授に関する諸理論を多方面から検討することで各理論の特徴、問題点を指摘し、第 2 言語習得研究の中核的領域を総合的に展望し、今後の課題を討究する。			
成績評価の基準と方法	積極的な発言によって授業へ積極的に参加し、意欲的に研究に取り組む姿勢を重視する。また、主要論文の要約とともに、与えられた主題に関するエッセーの提出を求め、評価の主要な基準とする。			
履修条件	英語教育の教授経験を有すること、あるいは前期課程で英語教育に関する講義・演習を履修し、基本的な情報に精通していること。			
教科書	Vivian Cook: Second Language Learning and Language Teaching 4th edition, Hodder Education, 2008			
参考文献・資料等	英語教育指導法事典　研究社			
授業計画 (授業の内容等)	1. オリエンテーション 2. Background to second language acquisition research and language teaching (1) 3. Background to second language acquisition research and language teaching (2) 4. Learning and teaching different types of grammar (1) 5. Learning and teaching different types of grammar (2) 6. Learning and teaching different types of grammar (3) 7. Learning and teaching vocabulary (1) 8. Learning and teaching vocabulary (2) 9. Acquiring and teaching pronunciation (1) 10. Acquiring and teaching pronunciation (2) 11. Acquiring and teaching a new writing system 12. Strategies for communication and learning (1) 13. Strategies for communication and learning (2) 14. Listening and reading processes 15. まとめ	16. Individual differences in L2 users and L2 learners (1) 17. Individual differences in L2 users and L2 learners (2) 18. Classroom interaction and conversational analysis (1) 19. Classroom interaction and conversational analysis (2) 20. The L2 user and the native speaker 21. The goals of language teaching 22. General models of L2 learning (1) 23. General models of L2 learning (2) 24. Second language learning and language teaching styles (1) 25. Second language learning and language teaching styles (2) 26. Second language learning and language teaching styles (2) 27. 論文要約サンプル 28. 論文要約発表（1） 29. 論文要約発表（2） 30. まとめ		

授業科目	応用英語学特論Ⅱ	4単位	担当者名	西川　栄紀
授業の概要	言語科学の所産としての言語事実は言語の学習内容を提示するが、指導方法や学習方法の手引きとはならず、学習内容と教授・学習方法をいかに融合させるかの課題が必然生じる。この課題には、心理言語学、社会言語学、言語文化学、言語学習理論、言語使用理論、言語習得論などの関連諸分野・領域からの知見に目を配り、学際的・総合的に取り組む必要がある。			
成績評価の基準と方法	課題レポートの成果、授業中の研究討議やワークショップへの参加状況、出席状況により総合的に評価する。			
履修条件	英和、和英、英英の三種類の英語辞書と英語教育学辞典を必携とする。			
教科書	青木昭六編著　『英語科教育法の構築と展開』　現代教育社　2003			
参考文献・資料等	Brown H. D. (2001). Teaching by Principles: An Interactive Approach to Language Pedagogy. New York: Addison Wesl.			
授業計画 (授業の内容等)	1. English Education in Japan 2. same as above 3. same as above 4. The World of English 5. Describing Language 6. same as above 7. same as above 8. Describing Leaners 9. same as above 10. Teaching Methodology 11. same as above 12. same as above 13. same as above 14. Grouping Students 15. Problem Behavior	16. Teaching Receptive Skills 17. same as above 18. Teaching Productive Skills 19. same as above 20. Pedagogic Grammar 21. same as above 22. same as above 23. same as above 24. same as above 25. Planning Lessons 26. same as above 27. same as above 28. Testing Students 29. Leaner Autonomy 30. Teacher Development		

授業科目	応用英語学特論Ⅲ	4単位	担当者名	阿出川　祐子
授業の概要	英語圏の言語文化を文学作品、批評書、および映像記録等の教材をもとに、その種々相を探求し、英米文化を成立させている歴史的背景、社会制度、慣習、行動様式等を考察、研究する。十九世紀末から二十世紀初頭にかけての、英米における文化的社会思潮を主たる研究対象とし、さらに日本の言語文化のそれらと比較対照することによって、真の異文化理解の成立に寄与する方法の確立を目指す。			
成績評価の基準と方法	講義がどのようにレポートに反映され、かつオリジナリティが出ているかを主眼とする。 提出物を期限までに提出することも評価の基準に含む。			
履修条件	担当者が後期から海外に赴くため、前期集中の講義となる。			
教科書	*Selected Literary Criticism*（Cambridge University Press） *Henry James*（New York Edition）			
参考文献・資料等	論文の進展に応じて使用する範囲を決める。 *A Bibliography of the Writings of Henry James*			
授業計画 (授業の内容等)	1. *Autobiography*（H.James） 2.“A Small Boy and Others”（1） 3.“A Small Boy and Others”（2） 4.“Notes of a Son and Brothers”（1） 5.“Notes of a Son and Brothers”（2） 6.“The Middle Years”（1） 7.“The Middle Years”（2） 8.“The Art of Fiction”（1） 9.“The Art of Fiction”（2） 10.“Gabriel D'Annunzio”（1） 11.“Gabriel D'Annunzio”（2） 12.“George Sand”（1） 13.“George Sand”（2） 14. まとめ、質疑応答 15. テスト	16. *Criticism of The Portrait of a Lady*（1） 17. Criticism of *The Portrait of a Lady*（2） 18. 文学作品と映像の関係について 19.“The Journal of the Brothers de Goncourt” 20.“Criticism,1891” 21.“London Notes”（1） 22.“London Notes”（2） 23. 文学作品とその批判について（1） 24. 文学作品とその批判について（2） 25. 文学作品と文化的社会思潮（1） 26. 文学作品と文化的社会思潮（2） 27. 文学作品に表される人間心理（1） 28. 文学作品に表される異文化対立（1） 29. 文学作品に表される異文化対立（2） 30. まとめとテスト		

授業科目	応用英語学特論Ⅳ	4 単位	担当者名	奥田　祥子
授業の概要	この授業では第二言語習得研究についての文献を読む。特に博士論文執筆に必要な背景となる知識や先行研究に関係する文献を読む。また第二言語習得と深い関係にある英語能力の向上に何が効果的であるかについての研究も扱う。			
成績評価の基準と方法	授業におけるレポートや文献の報告や小論文の作成・発表によってきめる。小論文によって評価する。			
履修条件	第二言語習得に興味のある院生。			
教科書	1 週間ごとにテーマに沿った第二言語習得研究で必読の文献を読む。特に教科書はない。			
参考文献・資料等	必要に応じて与える。			
授業計画 (授業の内容等)	1. 第二言語習得の概観、今までの研究について　成功する学習者とは 2. インプット、インタラクション、アウトプットについて 3. 注意と認知 4. 普遍文法と第二言語習得研究―リディア・ホワイトなど、コネクショニズム 5. 学習者ストラテジー 6. 学習者の自律 7. 動機付け 8. 年齢要因と臨界期仮説――野生児の言語習得など。 9. 語彙習得 10. 文法能力 11. 談話分析 12. 語用論的能力の習得 13. 社会言語学と第二言語習得 14. コミュニケーション・ストラテジーの研究 15. まとめ	16. リスニング 17. スピーキング 18. リーデイング 19. ライテイング 20. タスクに基づく指導法 21. CALL について 22. 児童英語教育 23. 音声習得について―第一言語習得との違い 24. テスティング 25. 教師教育 26. 第二言語習得研究の英語教育への影響 27. 興味のある文献を読む。 28. 個人の言語習得の相違―成功する学習者と失敗する学習者 29. 言語喪失―何が起こるか。何が最初に喪失するか。 30. まとめ		

平成21年度日本言語文化学専攻　博士課程前期課程　科目編成表

○専任、△非常勤

授業科目	単位	専・非	担当者名	備考	ページ
（専攻科目）					
日本言語文化学特殊研究Ⅰ	4	○	藏中しのぶ	①修士論文の執筆には演習および当該特殊研究を履修しなければならない。 ②専攻科目の演習の単位数については、2年連年履修で4単位とする（単年度履修は2単位）	45
日本言語文化学演習Ⅰ	2・4	○	藏中しのぶ		45・46
日本言語文化学特殊研究Ⅱ	4	○	寺村政男		46
日本言語文化学演習Ⅱ	2・4	○	寺村政男		47
日本言語文化学特殊研究Ⅲ	4				
日本言語文化学特殊研究Ⅳ	4	○	山田準		48
応用日本語学特殊研究Ⅰ	4	○	田中寛		48
応用日本語学演習Ⅰ	2・4	○	田中寛		49
応用日本語学特殊研究Ⅱ	4	○	柏木成章		50
応用日本語学演習Ⅱ	2・4	○	柏木成章		50・51
応用日本語学特殊研究Ⅲ	4	○	長谷川恒雄		51
応用日本語学演習Ⅲ	2・4	○	長谷川恒雄		52
応用日本語学特殊研究Ⅳ	4	△	今村和宏	土曜集中講義	53
（実習科目）					
日本言語文化学実習Ⅰ	2	○	福盛貴弘		53
日本言語文化学実習Ⅱ	2	△	木村義之		54
日本言語文化学実習Ⅲ	2	△	相田満		54
日本語研究基礎実習Ⅰ	2	△	木村義之		55
日本語研究基礎実習Ⅱ	2	△	濱田寛		55
日本語研究基礎実習Ⅲ	2	△	相田満		56
（共通科目）					
言語学特殊講義Ⅰ	4	○	平林幹郎		63
言語学特殊講義Ⅱ	4	○	福盛貴弘		63
外国語教授法特殊講義	4	○	田口悦男		64
第二言語習得理論	4			（開講せず）	
社会言語学特殊講義	4	△	朝日祥之		64
対照言語学Ⅰ（日英）	4			（開講せず）	
対照言語学Ⅱ（日中）	4	○	高橋弥守彦		65
対照言語学Ⅲ（日韓）	4	△	森山新		65
比較文化論特殊講義	4			（開講せず）	
映像メディア文化論	4	○	西川栄紀		66
情報文化論	4	△	今防人		66
言語情報処理論	4	○	米山聖子		67
マルチメディア教育論	4	△	石毛文茂		67

修了必要条件：必修単位数　32単位＋修士論文

単位数内訳：　1）専攻科目　16単位

2）実習科目　8単位

3）共通科目　8単位

授業科目	日本言語文化学特殊研究Ⅰ	4単位	担当者名	藏中　しのぶ
授業の概要	江戸時代中期の成立とされる、茶の湯の百科事典『茶譜』を対象とした注釈研究を輪読形式でおこなう。国会図書館所蔵本を底本として、内閣文庫本・静嘉堂文庫本・西尾市立図書館岩瀬文庫本を校合し、校訂本文を作成するとともに、訓み下し文・語釈・現代語訳を付して、考察をくわえる。この注釈作業を通して、日本古典文学の基本的な研究方法に習熟すること、さらに共同研究として『茶譜注釈』を刊行することを目的とする。			
成績評価の基準と方法	発表・レポート・出席状況・受講態度を総合的に評価する。			
履修条件	日本文学、日本語の古典文法、漢文訓読法の基礎的な知識を有すること。 講義時間外にも作業が及ぶことがあるので、必ず参加すること。			
教科書	日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(c)(2)・課題番号 16520114・研究成果報告書・藏中しのぶ編『茶の湯と座の文芸の本質の研究―『茶譜を軸とする知的体系の継承と人的ネットワーク』（大東文化大学語学教育研究所、平成 19 年 2 月） 『茶譜』巻十四（国会図書館本・静嘉堂文庫本・内閣文庫本・西尾市立図書館岩瀬文庫本）の紙焼き写真。			
参考文献・資料等	中村昌生『数奇屋古典集成 3　わび茶の作風』（小学館昭和 63 年） その他、茶道関連文献。			
授業計画 (授業の内容等)	1. オリエンテーション 2. 受講者による問題関心のプレゼンテーション、ディスカッション 3. 研究対象へのアプローチ①（先行研究の掌握） 4. 研究対象へのアプローチ②（問題点の抽出とこれを解決するための方法論の検討） 5. 研究対象へのアプローチ③（問題点に即した研究課題の設定と仮説・立論の構成） 6. 受講者による発表と討議① 7. 受講者による発表と討議② 8. 受講者による発表と討議③ 9. 受講者による発表と討議④ 10. 受講者による発表と討議⑤ 11. 受講者による発表と討議⑥ 12. 受講者による発表と討議⑦ 13. 受講者による発表と討議⑧ 14. 受講者による発表と討議⑨ 15. 本講義のまとめ―成果と今後の課題の確認		16. 前期の総括と後期のオリエンテーション 17. 前期を踏まえての受講者による問題関心のプレゼンテーション、ディスカッション 18. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ①（先行研究の掌握） 19. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ②（問題点の抽出と解決のための方法論の検討） 20. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ③（研究課題の再検討と仮説・立論の構成） 21. 受講者による発表と討議① 22. 受講者による発表と討議② 23. 受講者による発表と討議③ 24. 受講者による発表と討議④ 25. 受講者による発表と討議⑤ 26. 受講者による発表と討議⑥ 27. 受講者による発表と討議⑦ 28. 受講者による発表と討議⑧ 29. 受講者による発表と討議⑨ 30. 本講義のまとめ―成果と今後の課題の確認	

授業科目	日本言語文化学演習Ⅰ（1 年用）	2単位	担当者名	藏中　しのぶ
授業の概要	受講生の研究テーマに即して、日本言語文化学・日本文学の立場からの日中比較として、資料間の出典関係に着目し、漢語と和語との関係を論じつつ、日本と中国の言語文化の諸問題、異文化接触の際に生じる思惟の問題を総合的に探究する。			
成績評価の基準と方法	発表・レポート・出席状況・受講態度を総合的に評価する。			
履修条件	日本言語文化学特殊講義Ⅰの履修を義務づける。 日本文学、日本語の古典文法、漢文訓読法の基礎的な知識を有すること。 講義時間外にも研究指導が及ぶことがあるので、研究を優先すること。			
教科書	受講生の研究テーマにかかわる先行論文。			
参考文献・資料等	各自の研究テーマに沿って、具体的に指導する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. オリエンテーション 2. 受講者による問題関心のプレゼンテーション、ディスカッション 3. 研究対象へのアプローチ①（先行研究の掌握） 4. 研究対象へのアプローチ②（問題点の抽出とこれを解決するための方法論の検討） 5. 研究対象へのアプローチ③（問題点に即した研究課題の設定と仮説・立論の構成） 6. 受講者による発表と討議① 7. 受講者による発表と討議② 8. 受講者による発表と討議③ 9. 受講者による発表と討議④ 10. 受講者による発表と討議⑤ 11. 受講者による発表と討議⑥ 12. 受講者による発表と討議⑦ 13. 受講者による発表と討議⑧ 14. 受講者による発表と討議⑨ 15. 本講義のまとめ―成果と今後の課題の確認		16. 前期の総括と後期のオリエンテーション 17. 前期を踏まえての受講者による問題関心のプレゼンテーション、ディスカッション 18. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ①（先行研究の掌握） 19. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ②（問題点の抽出と解決のための方法論の検討） 20. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ③（研究課題の再検討と仮説・立論の構成） 21. 受講者による発表と討議① 22. 受講者による発表と討議② 23. 受講者による発表と討議③ 24. 受講者による発表と討議④ 25. 受講者による発表と討議⑤ 26. 受講者による発表と討議⑥ 27. 受講者による発表と討議⑦ 28. 受講者による発表と討議⑧ 29. 受講者による発表と討議⑨ 30. 本講義のまとめ―成果と今後の課題の確認	

授業科目	日本言語文化学演習Ⅰ（修論指導）	2単位	担当者名	藏中　しのぶ
授業の概要	受講生の研究テーマに即して、日本言語文化学・日本文学の立場からの日中比較として、資料間の出典関係に着目し、漢語と和語との関係を論じつつ、日本と中国の言語文化の諸問題、異文化接触の際に生じる思惟の問題を総合的に探究する。			
成績評価の基準と方法	発表・レポート・出席状況・受講態度を総合的に評価する。			
履修条件	1年次において、日本言語文化演習を履修した者。			
教科書	受講生の研究テーマにかかわる先行論文。			
参考文献・資料等	各自の研究テーマに沿って、具体的に指導する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. オリエンテーション 2. 受講者による問題関心のプレゼンテーション、ディスカッション 3. 研究対象へのアプローチ①（先行研究の掌握） 4. 研究対象へのアプローチ②（問題点の抽出とこれを解決するための方法論の検討） 5. 研究対象へのアプローチ③（問題点に即した研究課題の設定と仮説・立論の構成） 6. 受講者による発表と討議① 7. 受講者による発表と討議② 8. 受講者による発表と討議③ 9. 受講者による発表と討議④ 10. 受講者による発表と討議⑤ 11. 受講者による発表と討議⑥ 12. 受講者による発表と討議⑦ 13. 受講者による発表と討議⑧ 14. 受講者による発表と討議⑨ 15. 本講義のまとめー成果と今後の課題の確認		16. 前期の総括と後期のオリエンテーション 17. 前期を踏まえての受講者による問題関心のプレゼンテーション、ディスカッション 18. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ①（先行研究の掌握） 19. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ②（問題点の抽出と解決のための方法論の検討） 20. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ③（研究課題の再検討と仮説・立論の構成） 21. 受講者による発表と討議① 22. 受講者による発表と討議② 23. 受講者による発表と討議③ 24. 受講者による発表と討議④ 25. 受講者による発表と討議⑤ 26. 受講者による発表と討議⑥ 27. 受講者による発表と討議⑦ 28. 受講者による発表と討議⑧ 29. 受講者による発表と討議⑨ 30. 本講義のまとめー成果と今後の課題の確認	

授業科目	日本言語文化学特殊研究Ⅱ	4単位	担当者名	寺村　政男
授業の概要	本年度は前年度に引き続き「通俗三国志演義」の購読を進める。江戸期唐話学の日本語への影響関係を考えていく。			
成績評価の基準と方法	発表、レポート、出席状況、受講態度などなどを勘案して総合的に評価をくだす。			
履修条件	特になし			
教科書	江戸時代の刊行本をコピーにして配布			
参考文献・資料等	唐話辭書類聚など			
授業計画 (授業の内容等)	1. はじめに 2. 唐話学について解説 1 3. 唐話学について解説 2. 4. 江戸期に刊行された「通俗」物の解説 5. 通俗三国志演義の講読 1 6. 通俗三国志演義の講読 2 7. 通俗三国志演義の講読 3 8. 通俗三国志演義の講読 4 9. 通俗三国志演義の講読 5 10. 通俗三国志演義の講読 6 11. 通俗三国志演義の講読 7 12. 通俗三国志演義の講読 8 13. 通俗三国志演義の講読 9 14. 通俗三国志演義の講読 10 15. 前期のまとめ		16. 後期はじめに 17. 通俗三国志演義の講読 11 18. 通俗三国志演義の講読 12 19. 通俗三国志演義の講読 13 20. 通俗三国志演義の講読 14 21. 通俗三国志演義の講読 15 22. 通俗三国志演義の講読 16 23. 通俗三国志演義の講読 17 24. 通俗三国志演義の講読 18 25. 通俗三国志演義の講読 19 26. 通俗三国志演義の講読 21 27. 通俗三国志演義の講読 22 28. 通俗三国志演義の講読 23 29. 通俗三国志演義の講読 24 30. 後期まとめ	

授業科目	日本言語文化学演習Ⅱ（1年用）	2単位	担当者名	寺村　政男
授業の概要	東アジアの言語接触の問題を取り上げ、上代日本語を周辺言語資料の観点から研究を進め、各自の修士論文作成の基礎固めを行う。扱う言語は日本語、漢語、モンゴル語、韓国語を扱う。			
成績評価の基準と方法	発表、レポート、出席状況、受講態度などなどを勘案して総合的に評価をくだす。			
履修条件	概要にあげた言語のうち日本語を除く、1つの言語を習得していることが望ましい。			
教科書	受講生の研究テーマにふさわしい先行論文と下語資料			
参考文献・資料等	「東アジアにおける言語接触の研究」（著者寺村政男） 「言語の研究」ユーラシア諸言語からの視座（編者寺村ほか）			
授業計画 (授業の内容等)	1. はじめに. 2. 漢語資料について（その1、華夷訳語、日本館訳語） 3. 漢語資料について（その2、華夷訳語日本館訳語） 4. 漢語資料について（その3、華夷訳語日本館訳語） 5. 漢語資料について（その4、華夷訳語日本館訳語） 6. 漢語資料について（その5、華夷訳語日本館訳語） 7. 漢語資料について（その6、華夷訳語日本館訳語） 8. 漢語資料について（その7、華夷訳語日本館訳語） 9. 漢語資料について（その8、華夷訳語日本館訳語） 10. 漢語資料について（その9、華夷訳語日本館訳語） 11. 漢語資料について（その10、華夷訳語日本館訳語） 12. 漢語資料について（その11、華夷訳語日本館訳語） 13. 漢語資料について（その12、華夷訳語日本館訳語） 14. 漢語資料について（その13、華夷訳語日本館訳語） 15. 日本館訳語のまとめ	16. 後期初めに 17. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その1） 18. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その2） 19. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その3） 20. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その4） 21. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その5） 22. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その6） 23. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その7） 24. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その8） 25. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その9） 26. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その10） 27. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その11） 28. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その12） 29. 琉球方言資料（華夷訳語琉球館訳語. その13） 30. 琉球館訳語のまとめ		

授業科目	日本言語文化学演習Ⅱ（修論指導）	2単位	担当者名	寺村　政男
授業の概要	修士論文作成に向けて、より具体的な指導を始めると同時に、基本的な文献の扱い方を共通の資料を研究してゆく。今年度の共通購読資料は朝鮮資料の「倭語類解」を使用する。			
成績評価の基準と方法	発表、レポート、出席状況、受講態度などなどを勘案して総合的に評価をくだす。			
履修条件	日本語の学術文献が十分に読みこなせること。			
教科書	各自の研究テーマに関わる先行論文			
参考文献・資料等	各自の研究テーマに関する論文を配布するが主として「東アジアにおける言語接触の研究」（著者寺村政男）「言語の研究」ユーラシア諸言語からの視座（編者寺村ほか）			
授業計画 (授業の内容等)	1. はじめに 2. 古代日本語研究に資する、韓国語資料の紹介1 3. 古代日本語研究に資する、韓国語資料の紹介2 4. 古代日本語研究に資する、韓国語資料の紹介3 5. 古代日本語研究に資する、韓国語資料の紹介4 6. 倭語類解の紹介 7. 倭語類解の購読1 8. 各自研究テーマについての指導1 9. 倭語類解の購読2 10. 各自研究テーマについての指導2 11. 倭語類解の購読3 12. 各自研究テーマについての指導3 13. 倭語類解の購読4 14. 倭語類解の購読5 15. 各自研究テーマについての指導4	16. 後期はじめに 17. 各自研究テーマについての指導5 18. 倭語類解の購読6 19. 倭語類解の購読7 20. 倭語類解の購読8 21. 倭語類解 22. 各自研究テーマについての指導6 23. 各自研究テーマについての指導7 24. 各自研究テーマについての指導8 25. 各自研究テーマについての指導9 26. 各自研究テーマについての指導10 27. 各自研究テーマについての指導11 28. 各自研究テーマについての指導12 29. 各自研究テーマについての指導13 30. 修士論文ゼミ発表		

授業科目	日本言語文化学特殊研究Ⅳ	4単位	担当者名	山田　準
授業の概要	本学の建学の精神にある東西文化の融合をテーマに、西洋文化の伝来を大航海時代から日本の近代化までを当時の資料や文献を中心に紹介、解説しながら、南蛮文化・キリシタン文化と紅毛文化・蘭学の発展が日本文化・言語・近代化へ及ぼした影響を研究する.			
成績評価の基準と方法	授業回数の３分の２以上の出席と東西交渉史に関する自由論題でのレポートの提出によって評価する。正当な理由無く出席の少ない者はレポートの提出権がない.			
履修条件	日本語の学術書が読解でき、日本語での簡単なレポートが書けること。			
教科書	必要に応じてプリントを配布する．日蘭関係については長崎大学『出島の科学』刊行会編著「出島の科学」九州大学出版会を使用する.			
参考文献・資料等	杉本つとむ著『江戸時代蘭語学の成立とその展開』、片桐一男著『平成蘭学事始め』、石田純郎編著『蘭学の背景』、他授業の都度紹介する.			
授業計画(授業の内容等)	1. 講義内容説明とアンケート調査 2. 倭国・ジパング・日本 3. 大航海時代の日本 4. ポルトガルの来航とザビエル 5. イエズス会宣教師の日本語 6. キリシタン布教と南蛮文化 7. 天正遣欧少年使節 8. 南蛮貿易と文化 9. 南蛮文化の日本語への影響 10. オランダ船来航 11. オランダ東インド会社（V.O.C.） 12. 平戸オランダ商館時代 13. 慶長遣欧使節 14. 島原の乱とオランダ 15. 禁教政策と出島	16. オランダ通詞 17. 商館長の江戸参府 18. 平戸商館から出島へ 19. 出島での生活と文化 20. 長崎蘭学から江戸蘭学へ 21. 出島のヨーロッパ科学者たち 22. 天文学と長崎蘭学者 23. 蘭日辞書の作成 24. 江戸蘭学の発展 25. 医学の発展 26. 博物学から植物学の発展 27. 薬学の発展 28. 対外危機と国防意識の高揚 29. 日本語に残るオランダ語 30. 近代化とお雇い外国人		

授業科目	応用日本語学特殊研究Ⅰ	4単位	担当者名	田中　寛
授業の概要	昨年度に引き続き、副詞の諸問題をあつかう。先行研究の中から主要論文を精読しながら問題点を明らかにする。とくにモダリティにかかわる陳述副詞に重点を置く。後期は文副詞句、副詞節の態様について詳しく見ていく。当然ながら、複文、連文の構造にもおよぶ。受講者はできるだけ用例の収集、分析が義務付けられるので、言語データのあつかいについても指導する。 一年を通じて、現代日本語の文法研究の実情にもできるだけ詳しく触れていきたい。文法研究の文献リストをできるだけ整備することが一年の課題である。とくに各自の研究テーマにそって研究文献の整備を心がけるが、とくに複合辞の文献リスト作成を目標とする。 主要学会への参加、応用日本語学研究会への参加を義務付ける			
成績評価の基準と方法	出席状況、受講態度、提出物、研究会参加など総合的な評価による。出欠については無断欠席を認めない。			
履修条件	現代日本語についての基礎的な文法知識をもっていることが必要。 場合によっては学部の授業を受講することも義務付ける。			
教科書	開講時に指示する。			
参考文献・資料等	その都度、教室で指示する。			
授業計画(授業の内容等)	1. 一年の講義予定について概説、研究の進め方、資料収集について 2. 副詞の概要、文法事象の中での位置付け先行研究について 3. 基本文献について、ノートテイキング程度副詞の概観、再検討 4. 程度副詞の概観、続。頻度の副詞について 5. 様態副詞の概観、オノマトペについて比ゆ表現との交渉 6. 否定副詞の概観、否定のスコープ 7. 陳述副詞の概観、主要論文の精読 8. 上記継続 9. 陳述副詞と複文の構造主要論文の精読 10. 陳述副詞とモダリティ主要論文の精読 11. 副詞と日本語教育初級段階における 12. 福祉と日本語教育中級以降における 13. 社説と副詞の諸問題 14. 談話と副詞の諸問題 15. 前期の反省、総括	16. 陳述副詞から文副詞へ 17. 文副詞の諸問題 18. 前置き表現と注目表示 19. 前置き表現と文の導入成分 20. 時間節の諸問題 21. 時間節の諸問題 22. 目的節の諸問題 23. 目的節の諸問題 24. 理由原因節の諸問題 25. 理由原因節の諸問題 26. 附帯修飾・様態節の諸問題 27. 附帯修飾・様態節の諸問題 28. 条件節の諸問題 29. 条件節の諸問題 30. 後期の総括		

授業科目	応用日本語学演習Ⅰ（1年用）	2単位	担当者名	田中　寛
授業の概要	現代日本語の文法を教育文法、表現文法の視点からみていく。時間が許す限り、機能文法、談話文法、認知文法などのさまざまな側面からも言及する。 本年度は複文の諸問題をあつかう。前期では複文全般について、引用節の諸問題、連体修飾構造、さらに補文節構造をあつかう。後期では副詞節、並列節についてできるだけ多様な表現形式をみていく。 受講生は用例の収集が義務付けられる。また、それぞれの研究テーマにそった発表を担当しなければならない。 応用日本語学研究会での発表と少なくとも1編の論文作成、雑誌投稿を義務付ける。			
成績評価の基準と方法	出席、受講態度、用例収集と分析、研究会出席、提出レポートなどの総合評価とする。			
履修条件	応用日本語学特殊講義Ⅰの履修を義務付ける。 学会参加、他大学院生との学術交流。			
教科書	『現代日本語文法　複文』くろしお出版 そのほか教室で指示する。社説の用例分析資料を配布。			
参考文献・資料等	田中寛『日本語複文表現の研究』白帝社 田中寛『複合辞で学ぶ日本語文法』試用版			
授業計画（授業の内容等）	1. 複文全般について 日本語文法研究のなかの複文 2. 表現文法としての日本語文法について 研究の手法 3. 機能文型について、分類と項目 用例収集について 4. 引用節の諸問題 5. 引用節の諸問題 6. 引用節の諸問題 7. 連体修飾構造の諸問題 8. 連体修飾構造の諸問題 9. 連体修飾構造の諸問題 10. 補文節の諸問題 「の」と「こと」 11. 補文節の諸問題 「の」と「ところ」など 12. 補文節の諸問題 間接疑問文とぶらさがり文 13. いわゆる「名詞化」現象について 14. 修飾と括りの諸問題 15. 前期の総括		16. 用例分析と発表 副詞節の諸問題 17. 用例分析と発表 目的節の諸問題 18. 用例分析と発表 目的節の諸問題 19. 用例分析と発表 理由原因節の諸問題 20. 用例分析と発表 理由原因節の諸問題 21. 用例分析と発表 条件節の諸問題 22. 用例分析と発表 条件節の諸問題 23. 用例分析と発表 時間節の諸問題 24. 用例分析と発表 時間節の諸問題 25. 用例分析と発表 並列節の諸問題 26. 用例分析と発表 並列節の諸問題 27. 用例分析と発表 後置詞の諸問題 28. 用例分析と発表 後置詞の諸問題 29. 用例分析と発表 複文と連文構造の諸問題 30. 後期の総括	

授業科目	応用日本語学演習Ⅰ（修論指導）	2単位	担当者名	田中　寛
授業の概要	主として修士論文の指導の時間に充てるが、受講生のあつかう研究領域に隣接した研究をとりあげ、修士論文の作成に役立てる。 ○並行して、受講生は次のいずれかの作業を義務付ける。 A）複合辞の文型教材の作成をすすめる。 B）話し言葉の研究資料を作成する。 ○1年間に少なくとも1回、応用日本語学研究会で発表、また学術論文1本を作成、学内雑誌（『外国語学研究』、『外国語学会誌』など）に投稿を義務付ける。 ＜指導領域＞ 現代日本語文法、文章・談話分析、対照研究（日中語、日タイ語） 日本語教育における教科書研究、日本語教育における語彙文型、 近代文学における語彙表現			
成績評価の基準と方法	出席状況、受講態度、提出物、研究会、学会参加、など総合評価による。			
履修条件	すでに応用日本語学演習Ⅰを履修済みのこと。 修士論文作成に取り組む学生を対象とするが、1年生も出席を義務付ける。			
教科書	その都度、指示する。			
参考文献・資料等	その都度、指示する。			
授業計画（授業の内容等）	1. 研究計画書の検討 2. 研究題目と内容、分析・調査方法 3. 言語データについて 4. 基本文献の渉猟 5. 論文の書き方について 序論と本論 6. 論文の書き方について 注釈と引用、参考文献 7. 研究発表のしかた レジュメの作成 8. 研究の動向 学会参加 9. 複合辞の文型教材作成について 10. 複合辞の文型教材作成について 11. 話し言葉の研究資料について 12. 話し言葉の研究資料について 13. 対照研究の課題 14. 対照研究の課題 15. 前期の総括		16. 修士論文の作成指導 A）、B）の作業報告 17. 修士論文の作成指導 同上 18. 修士論文の作成指導 同上 19. 修士論文の作成指導 同上 20. 修士論文の作成指導 同上 21. 修士論文の作成指導 同上 22. 修士論文の作成指導 同上 23. 修士論文の作成指導 学会参加 24. 修士論文の作成指導 A）、B）の作業報告 25. 修士論文の作成指導 同上 26. 修士論文の作成指導 同上 27. 修士論文の作成指導 同上 28. 修士論文の作成指導 同上 29. 修士論文の作成指導 「指向」雑誌投稿について 30. 後期の総括	

授業科目	応用日本語学特殊研究Ⅱ	4単位	担当者名	柏木　成章
授業の概要	「演習」とは別個の題目を扱うことを原則とする。必ずしも文法論とは限らない。本年度は「位相論」等とする。 前期：適当な文献を用いて輪読する。必要に応じ、関連する文献を適宜取り上げる。 後期：各自レポートを作成し発表する。余裕があれば前期の講読を継続する。			
成績評価の基準と方法	レポート・発表及び受講態度による			
履修条件	直接の授業題目以外にも、広く現代日本語における諸現象について関心を抱くことが望ましい。			
教科書	ケーススタディ『日本語のバラエティ』上野智子他編　おうふう。			
参考文献・資料等	特になし。必要に応じてプリントを配布する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. ガイダンス 2. 女のことば・男のことば 3. 幼児のことば・育児のことば 4. 専門のことば・仲間のことば 5. ことばのデフォルメ 6. 東の方言・西の方言 7. ことばの切りかえ 8. 上品なことば 9. 忌避することば・慶弔のことば 10. 喜怒哀楽のことば 11. 話しことばと書きことば（文字編） 12. 論文・レポートのことば 13. マンガ・雑誌のことば 14. 化石化したことば 15. まとめ	16. 学生発表（1） 17. 学生発表（2） 18. 学生発表（3） 19. 学生発表（4） 20. 学生発表（5） 21. 学生発表（6） 22. 学生発表（7） 23. 学生発表（8） 24. 学生発表（9） 25. 学生発表（10） 26. 学生発表（11） 27. 学生発表（12） 28. 学生発表（13） 29. 学生発表（14） 30. まとめ		

授業科目	応用日本語学演習Ⅱ（1年用）	2単位	担当者名	柏木　成章
授業の概要	文法論を扱う。本年度は「接続助詞」等とする。 前期：適当な文献を用いて輪読する。必要に応じ、関連する文献を適宜取り上げる。 後期：各自レポートを作成し発表する。余裕があれば前期の講読を継続する。			
成績評価の基準と方法	レポート・発表及び受講態度による。			
履修条件	直接の授業題目以外にも広く助詞・助動詞を中心とする文法現象に関心を抱くことが望ましい。			
教科書	『現代日本語文法6』日本語記述文法研究会編　くろしお出版			
参考文献・資料等	特になし。必要に応じてプリントを配布する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. ガイダンス 2. 条件説（1） 3. 条件説（2） 4. 条件説（3） 5. 時間節（1） 6. 時間節（2） 7. 時間節（3） 8. 時間節（4） 9. 目的節 10. 様態節 11. 等位節・並列節（1） 12. 等位節・並列節（2） 13. 等位節・並列節（3） 14. 等位節・並列節（4） 15. まとめ	16. 学生発表（1） 17. 学生発表（2） 18. 学生発表（3） 19. 学生発表（4） 20. 学生発表（5） 21. 学生発表（6） 22. 学生発表（7） 23. 学生発表（8） 24. 学生発表（9） 25. 学生発表（10） 26. 学生発表（11） 27. 学生発表（12） 28. 学生発表（13） 29. 学生発表（14） 30. まとめ		

授業科目	応用日本語学演習Ⅱ（修論指導）	2単位	担当者名	柏木　成章
授業の概要	各自の修論の指導を中心とするが、前期においては昨年度演習等の題目をさらに深く研究する場合がある。本年度は「アスペクト」・「テンス」を取り上げる。			
成績評価の基準と方法	修士論文及び受講態度による。			
履修条件	修士論文題目はもとより、広く関連する言語現象に関心を抱くことが望ましい。			
教科書	『現代日本語文法3』日本語記述文法研究会編　くろしお出版			
参考文献・資料等	特になし。必要に応じてプリントを配布する。			
授業計画（授業の内容等）	1. アスペクトの概観 2. スル形とシテイル形（1） 3. スル形とシテイル形（2） 4. アスペクトに関わる形式（1） 5. アスペクトに関わる形式（2） 6. アスペクトに関わる副詞的成分（1） 7. アスペクトに関わる副詞的成分（2） 8. アスペクトから見た動詞の分類 9. テンスの概観 10. 主文末における非過去形・過去形（1） 11. 主文末における非過去形・過去形（2） 12. 従属節内での非過去形・過去形（1） 13. 従属節内での非過去形・過去形（2） 14. 従属節内での非過去形・過去形（3） 15. 従属館内での非過去形・過去形（4）	16. 修士論文指導（1） 17. 修士論文指導（2） 18. 修士論文指導（3） 19. 修士論文指導（4） 20. 修士論文指導（5） 21. 修士論文指導（6） 22. 修士論文指導（7） 23. 修士論文指導（8） 24. 修士論文指導（9） 25. 修士論文指導（10） 26. 修士論文指導（11） 27. 修士論文指導（12） 28. 修士論文指導（13） 29. 修士論文指導（14） 30. 修士論文指導（15）		

授業科目	応用日本語学特殊研究Ⅲ	4単位	担当者名	長谷川　恒雄
授業の概要	日本語教育の立場からみた音声言語、特に対人コミュニケーションの問題を多角的にあつかっていく。言語の分析は通常記述された規範的な文法に従った文を対象に分析を進めるが、ここでは日常生活で普通に我々が使っている音声言語を対象に考察を進め、対人コミュニケーションのあり方、構築条件を考察し、日本語教育においてはそれをどのように教材化していくべきかについて、留学生諸君の学習者としての経験から意見を出してもらいながら、実践的な演習形式で授業を進める。			
成績評価の基準と方法	出席、レポート提出物、受講態度などにより総合的に評価する。			
履修条件	1. 応用日本語学演習Ⅲを同時に履修するものとする。 2. 実際的な作業が多くなるため、欠席が多い学生には適さない。			
教科書	自作プリント教材を使用。			
参考文献・資料等	その都度、教室で指摘する。			
授業計画（授業の内容等）	1. 言語とコミュニケーション1 2. 言語とコミュニケーション2 3. 言語とコミュニケーション3 4. 言語とコミュニケーション4 5. 言語とコミュニケーション5 6. ドラマにおけるコミュニケーション1 7. ドラマにおけるコミュニケーション2 8. ドラマにおけるコミュニケーション3 9. ドラマにおけるコミュニケーション4 10. ドラマにおけるコミュニケーション5 11. コミュニケーション分析1 12. コミュニケーション分析2 13. コミュニケーション分析3 14. コミュニケーション分析4 15. コミュニケーション分析5	16. 言語と文化1 17. 言語と文化2 18. 言語と文化3 19. 言語習得と対人相互作用1 20. 言語習得と対人相互作用2 21. 言語習得と対人相互作用3 22. 論説文とシナリオとの比較1 23. 論説文とシナリオとの比較2 24. 論説文とシナリオとの比較3 25. 論説文とシナリオとの比較4 26. 文化・対人相互作用分析1 27. 文化・対人相互作用分析2 28. 文化・対人相互作用分析3 29. 言語と文化背景知識の膠着度1 30. 言語と文化背景知識の膠着度2		

授業科目	応用日本語学演習Ⅲ（1年用）	2単位	担当者名	長谷川　恒雄
授業の概要	受講生のそれぞれの修士論文の題目、研究目的を確認し、初年度のおいてなすべき準備を具体的に実践していく。受講生の関心、論点に照準をあわせ、それぞれの研究成果を発表していく。また、発表後の受講生相互の意見交換を通じて、他の観点から見た場合、研究課題がどのように姿を変えていくかを意識し、幅のある研究に導いていく。 本演習のあつかう分野は日本語教育学の内在性（教授法、教材論）、および外在性（日本文化事情）の諸問題をふくむ。常に通時的視点と共時的視点から考察する複眼的な研究手法を育成する。			
成績評価の基準と方法	出席、レポート提出物、受講態度などにより総合的に評価する。			
履修条件	入学時に指定された研究指導教員の「応用日本語学演習」を履修のこと。 この科目は、「応用日本語学特殊研究Ⅲ」と対になっており、両科目履修が義務づけられている。 演習時間以外にも研究指導がおよぶことがあるので、研究を優先すること。			
教科書	特にない。 各履修者は、自分の「修士課程入学年度の修士論文作成計画書」を作成し、それに従って先行研究を収集し、修士論文作成に向け邁進すること。			
参考文献・資料等	各人の研究テーマの発表のときに、必要に従い紹介する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. 研究指導体制の確認 2.「修士課程入学年度の修士論文作成計画書」作成の指導1 3.「修士課程入学年度の修士論文作成計画書」作成の指導2 4.「修士課程入学年度の修士論文作成計画書」作成の指導3 5. 各人の研究テーマについての発表1 6. 各人の研究テーマについての発表2 7. 各人の研究テーマについての発表3 8. 各人の研究テーマにおける先行研究についての発表1 9. 各人の研究テーマにおける先行研究についての発表2 10. 各人の研究テーマにおける先行研究についての発表3 11. 研究テーマについての拡大討議1 12. 研究テーマについての拡大討議2 13. 研究テーマについての拡大討議3 14. 全体討議1 15. 全体討議2		16. 夏休み中の研究進捗状況の確認 17. 各人の研究成果発表1 18. 各人の研究成果発表2 19. 各人の研究成果発表3 20. 研究成果の中間報告執筆作業指導1 21. 研究成果の中間報告執筆作業指導2 22. 研究成果の中間報告執筆作業指導3 23. 研究成果の中間報告執筆作業指導4 24. 研究成果の深化状況の確認1 25. 研究成果の深化状況の確認2 26. 深化した研究成果についての全体討議1 27. 深化した研究成果についての全体討議2 28. 深化した研究成果についての全体討議3 29.「修士課程入学年度研究成果報告書」作成指導1 30.「修士課程入学年度研究成果報告書」作成指導2	

授業科目	応用日本語学演習Ⅲ（修論指導）	2単位	担当者名	長谷川　恒雄
授業の概要	履修生のそれぞれの修士論文の題目、研究目的を確認し、修士論文作成に備え、受講生の関心、論点に照準をあわせ、それぞれの研究成果を発表していく。また、発表後の受講生相互の意見交換を通じて、他の観点から見た場合、研究課題がどのように姿を変えていくかを意識し、幅のある研究に導いていく。 本演習のあつかう分野は日本語教育学の内在性（教授法、教材論）、および外在性（日本文化事情）の諸問題をふくむ。常に通時的視点と共時的視点から考察する複眼的な研究手法を育成する。			
成績評価の基準と方法	出席、レポート提出物、受講態度などにより総合的に評価する。			
履修条件	担当者を指導教授として修士論文を執筆することが求められている者。			
教科書	特にない。 各履修者は、「修士論文作成計画書」に従い参考文献を収集、修士論文を作成していくこと。			
参考文献・資料等	研究成果発表に合わせて、紹介する。			
授業計画 (授業の内容等)	1.「修士課程入学年度の修士論文作成計画書」「修士課程入学年度研究成果報告書」の確認1 2. 前年の研究成果確認2 3. 各人の研究成果の発表1 4. 各人の研究成果の発表2 5. 研究テーマについての拡大討議1 6. 研究テーマについての拡大討議2 7. 研究発展のための指導 8. 2年次研究計画書作成指導1 9. 2年次研究計画書作成指導2 10. 深化した観点からの模索1 11. 深化した観点からの模索2 12. 深化した観点からの模索3 13. 研究成果の発展的内容の再把握1 14. 研究成果の発展的内容の再把握2 15. 研究成果の発展的内容の再把握3		16. 夏休み中の研究進捗状況の確認 17. 研究成果発表1 18. 研究成果発表2 19. 研究成果発表3 20. 研究成果発表4 21. 研究成果発表5 22. 修士論文執筆状況の確認・指導1 23. 修士論文執筆状況の確認・指導2 24. 修士論文執筆状況の確認・指導3 25. 修士論文執筆状況の確認・指導4 26. 修士論文執筆状況の確認・指導5 27. 修士論文の発展的展開についての討議1 28. 修士論文の発展的展開についての討議2 29. 修士論文の発展的展開についての討議3 30. 修士論文の発展的展開についての討議4	

授業科目	応用日本語学特殊研究Ⅳ	4単位	担当者名	今村　和宏
授業の概要	「評価」を中心課題として日本語教育の実践について考えます。様々な評価方法に関する理論を学ぶだけでなく、「外国人のための日本語能力試験」問題の検討、実際のテスト問題作りなど、テストの実際に踏み込みます。また、望ましい教室活動との関連の中で「評価」を捉えるため、「よい授業とは何か」についても議論します。 なお、「評価」や「テスト」のイメージを確認する「ブレーン・ストーミング」から授業を始めます。受講者の知識、関心、思考パターンを確認の上、授業の内容、提出順序、進度などを微調整します。			
成績評価の基準と方法	出席 10%、授業中の発言・貢献度 50%、課題提出 40%を目安に総合的に判断します。			
履修条件	修士１年次の学生を主な対象としますが、修士２年次の学生を排除するものではありません。日本人学生、留学生ともに歓迎します。予備知識は必要ありませんが、受講生の積極的な参加を期待します。			
教科書	・J. D. ブラウン著『言語テストの基礎知識』大修館 ・今村和宏著「プレースメント・テスト改良のための統計分析」『一橋大学留学生センター紀要』第 4 号 ・その他各種プリント			
参考文献・資料等	・今村和宏著『わざ―光る授業への道案内』アルク ・その他各種プリント			
授業計画 (授業の内容等)	1. オリエンテーション・自己紹介 2.「テスト・試験」のイメージの確認① 3.「テスト・試験」のイメージの確認② 4.「評価」の目的と意義、種類① 5.「評価」の目的と意義、種類② 6.「評価」の目的と意義、種類③ 7. 言語テストの採用・開発・手直し① 8. 言語テストの採用・開発・手直し② 9. テスト項目の開発と改訂① 10. テスト項目の開発と改訂② 11.「よい授業」「よい教師」のイメージの確認 12.「よい授業」「よい教師」の条件の確認 13. テスト得点の解釈（確率分布、正規分布）① 14. テスト得点の解釈（確率分布、正規分布）② 15. テスト得点の解釈（確率分布、正規分布）③	16. 授業の中の体の動き① 17. 授業の中の体の動き② 18. テスト問題作成① 19. テスト問題講評① 20. 項目分析、容易度、識別力 21. テスト問題作成② 22. テスト問題講評② 23. 信頼性、妥当性 24. 日本語能力試験の項目分析① 25. 日本語能力試験の項目分析② 26. 学習効果を上げるための評価・テスト① 27. 学習効果を上げるための評価・テスト② 28. 効果的な学習法を教える方法 29. 復習とまとめ、質疑応答、ディスカッション① 30. 復習とまとめ、質疑応答、ディスカッション②		

授業科目	日本言語文化学実習Ⅰ	2単位	担当者名	福盛　貴弘
授業の概要	学術論文に必要な日本語力（読み書き）を高めるための実践演習を行なう。 本授業では、論文の要約・問題点の指摘・批評・考察を通じて、学術論文に書かれている専門用語および述語の用法を体得してもらう。 よって、受講者の発表が授業の主となる。異分野を含めた学術論文を扱うことで大学院での勉学に必要な日本語力を養うことが本授業の目的となる。			
成績評価の基準と方法	発表担当者が、指定された週（1 人に付き、最低でも 3～4 週を 1 セットとする。履修人数によっては複数のセットもありうる）の発表をこなし、その成果によって評価する。			
履修条件	日本言語文化学専攻の院生に限る。1 回目のオリエンテーションに出席しなかった者の履修は認めない。また、指定された論文に対応できることを条件とする。			
教科書	なし。			
参考文献・資料等	木下是雄『理科系の作文技術』中公新書、木下是雄『レポートの組み立て方』ちくま学芸文庫			
授業計画 (授業の内容等)	1. オリエンテーション 2. 発表 1-1 3. 発表 1-2 4. 発表 1-3 5. 発表 1-4 6. 発表 2-1 7. 発表 2-2 8. 発表 2-3 9. 発表 2-4 10. 発表 3-1 11. 発表 3-2 12. 発表 3-3 13. 発表 3-4 14. 前期のまとめ 1 15. 前期のまとめ 2	16. 発表 4-1 17. 発表 4-2 18. 発表 4-3 19. 発表 4-4 20. 発表 5-1 21. 発表 5-2 22. 発表 5-3 23. 発表 5-4 24. 発表 6-1 25. 発表 6-2 26. 発表 6-3 27. 発表 6-4 28. 後期のまとめ 1 29. 後期のまとめ 2 30. 年間のまとめ		

授業科目	日本言語文化学実習Ⅱ	2単位	担当者名	木村　義之
授業の概要	古典文法は現代に生きるわたしたちが現実の会話で使うことばのきまりではないから、最低限の知識は身につけなくてはいけない。しかし、個別の事項を暗記するのが目的ではなく、外国語の学習と同様に、古典語のしくみを見いだすことが重要である。この授業では現代語との対比を交えながら、古典文法について基礎的なことがらを学び、感覚的な解釈を排して古典語の読解ができるようになることを目的とする。			
成績評価の基準と方法	学期ごとに出席状況、授業中の発言など参加意欲を考慮しながら、総合的に判断する。			
履修条件	特になし。			
教科書	鈴木一雄・外山映次・伊藤博・小池清治編「三省堂 全訳読解古語辞典 第三版」（三省堂） その他、プリントを配布する。			
参考文献・資料等	授業中に適宜紹介するが、『日本語文法大辞典』（明治書院）、『詳説古語辞典』（三省堂）などは各自参照のこと。また、大野晋『古典文法質問箱』（角川文庫）なども読むことを勧める。			
授業計画 （授業の内容等）	1. オリエンテーション：辞書の活用について 2. 文・文節・単語など、ことばの単位を概観する（1） 3. 文・文節・単語など、ことばの単位を概観する（2） 4. 文の成分（1）主語と述語 5. 文の成分（2）修飾語と被修飾語。 6. 副詞・接続詞・感動詞・連体詞について概観する。 7. 動詞の活用（1） 8. 動詞の活用（2） 9. 活用形の役割；未然形・已然形／仮定形を中心に 10. 形容詞・形容動詞の活用 11. 助動詞について（1） 12. 助動詞について（2） 13. 助動詞について（3） 14. 助動詞について（4） 15. 前期のまとめ		16. 条件を表す言い方について 17. いわゆる係り結びについて 18. 人を呼んだり指したりするときの言い方について 19. 待遇表現の分類と考え方について 20. 古典語の中で用いられる、いわゆる敬語動詞および敬語助動詞について 21. 古代語と近代語では待遇表現にどのような性格の違い 22. 明治文語文の輪読（1） 23. 明治文語文の輪読（2） 24. 明治文語文の輪読（3） 25. 江戸期随筆の輪読（1） 26. 江戸期随筆の輪読（2） 27. 江戸期随筆の輪読（3） 28. 江戸期随筆の輪読（4） 29. 江戸期随筆の輪読（5） 30. 後期のまとめ	

授業科目	日本言語文化学実習Ⅲ	2単位	担当者名	相田　満
授業の概要	書物の形態・構造・内容をどのように読み取り、記録・表現し、いかにして検索を意識したデータとして蓄積していくかを、具体的な事例の提示と分析を交えながら考察する。扱う典籍は、日用百科型類書・辞書・注釈書などの古典的類聚編纂物群の中で、文化の継承・普及の営みの中で重要な役割を果たしたものを主に採りあげるが、上古から近代にかけての国書および、日本で幅広く享受された漢籍について、その意義や諸本にふれつつ読み解いて行く。			
成績評価の基準と方法	プレゼンテーション・成果物・授業時の提言や質問の有益性を勘案して評価する。評価の基準には相互批評も考慮する。			
履修条件	積極的な授業参加を望みます。多様なリファレンスブックを使用しますので、履修者同士の情報交換を密にすること。			
教科書	特に指定しない			
参考文献・資料等	国文学論文目録データベース（http://www.nijl.ac.jp）			
授業計画 （授業の内容等）	1. 書物の形態・分類について［1］ 2. 書物の形態・分類について［2］ 3. 類書を読む 4. 注釈を読む 5. -10. 仮名影印に慣れる 11-15. 日用百科型類書の世界にふれる 16-20. 書物の情報を記録する 21-30. データベースにふれる・つくる			

授業科目	日本語研究基礎実習Ⅰ	2単位	担当者名	木村　義之
授業の概要	日本語の表現について多様な姿を知ることを目的とする。取り上げるトピックとしては、命名・造語／オノマトペ／位相語／語感／皮肉表現／あいまい表現／待遇表現／比喩表現／慣用句／視点／／話し言葉と書き言葉の文体差などである。これら日本語表現関する概括的な知識を得た後、与えられた課題を解決できるようにする。			
成績評価の基準と方法	出席状況、授業中の発表・発言およびレポートと、参加意欲などを考慮しながら、総合的に判断する。			
履修条件	特になし。			
教科書	多門靖容・半沢幹一編『ケーススタディ日本語の表現』（おうふう） その他、プリントを配布する。			
参考文献・資料等	授業中に適宜紹介する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. オリエンテーション：語彙と表現について 2. 日本語の語種（1）：和語・漢語 3. 日本語の語種（2）：外来語 4. 命名・造語法（1） 5. 命名・造語法（2） 6. オノマトペ（1） 7. オノマトペ（2） 8. 位相語（1） 9. 位相語（2） 10. 類義語と語感（1） 11. 類義語と語感（2） 12. 類義語と意味（1） 13. 類義語と意味（2） 14. 対義語 15. 前期のまとめ	16. 日本語の文体について 17. 話し言葉と書き言葉（1） 18. 話し言葉と書き言葉（2） 19. 皮肉表現 20. あいまい表現 21. 待遇表現（1） 22. 待遇表現（2） 23. 待遇表現（3） 24. 比喩表現（1） 25. 比喩表現（2） 26. 比喩表現（3） 27. 慣用句（1） 28. 慣用句（2） 29. ジャンルによる文体 30. 後期のまとめ		

授業科目	日本語研究基礎実習Ⅱ	2単位	担当者名	濱田　寛
授業の概要	『箋注倭名類聚抄』の演習を通して、中国古典文献を扱う上での基礎的な技術の習得を目指す。発表担当者は指定箇所についての釈文を作成し、引用箇所については原典との比較対照を行い、通釈を施すことが求められる。分担箇所の分量は少ないが、発表の準備作業を通して、問題点を指摘するとともに、暫定的な結論を提示するための方法論の検証に及びたい。本授業は演習形式にて進めるが、登録者数の状況に応じて、グループ発表・個人発表を効果的に配置する予定である。			
成績評価の基準と方法	演習発表による。			
履修条件	粘り強く努力を続けて欲しい。			
教科書	教場にて配布するプリントを使用する。			
参考文献・資料等	京都大学文学部 国語学国文学研究室 編『諸本集成 倭名類聚抄 本文篇』臨川書店			
授業計画 (授業の内容等)	1. ガイダンス 2.『倭名類聚抄』概論① 3.『倭名類聚抄』概論② 4.『箋注倭名類聚抄』演習サンプル① 5.『箋注倭名類聚抄』演習サンプル② 6.『箋注倭名類聚抄』演習 7.『箋注倭名類聚抄』演習 8.『箋注倭名類聚抄』演習 9.『箋注倭名類聚抄』演習 10.『箋注倭名類聚抄』演習 11.『箋注倭名類聚抄』演習 12.『箋注倭名類聚抄』演習 13.『箋注倭名類聚抄』演習 14.『箋注倭名類聚抄』演習 15.『箋注倭名類聚抄』演習	16.『箋注倭名類聚抄』演習 17.『箋注倭名類聚抄』演習 18.『箋注倭名類聚抄』演習 19.『箋注倭名類聚抄』演習 20.『箋注倭名類聚抄』演習 21.『箋注倭名類聚抄』演習 22.『箋注倭名類聚抄』演習 23.『箋注倭名類聚抄』演習 24.『箋注倭名類聚抄』演習 25.『箋注倭名類聚抄』演習 26.『箋注倭名類聚抄』演習 27.『箋注倭名類聚抄』演習 28.『箋注倭名類聚抄』演習 29.『箋注倭名類聚抄』演習 30. 総括		

授業科目	日本語研究基礎実習Ⅲ	2単位	担当者名	相田　満
授業の概要	中国人物故事集を通して日本文学を横断的に通観・分析する。日中比較の基礎的な方法論を習得するため、人物に関わる言説・故事が、日中の様々文献でどのように享受されてきたか。あるいは、注釈・写本など様々な書記形態に見える多様な表現形態のほか、文学作品に表現される様々な言説など、横断的な分析を試みることで、多くの文献にふれ、諸典籍の特徴を把握し、その記述・表現・文化的背景を理解しつつ漢文訓読力を養う。			
成績評価の基準と方法	プレゼンテーション・成果物・授業時の提言や質問の有益性を勘案して評価する。評価の基準には相互批評も考慮する。			
履修条件	積極的な授業参加を望みます。多様なリファレンスブックを使用しますので、履修者同士の情報交換を密にすること。			
教科書	岡白駒箋註　箋註蒙求校本　京都：中文出版社、1984. 2 その他はコピーを配布する			
参考文献・資料等	池田利夫編　蒙求古註集成（全4冊）　汲古書院 四庫全書伝記資料索引〔四庫全書索引叢刊〕全3冊 台湾商務印書館、中華民国79.5 その他 Web 公開資源			
授業計画 (授業の内容等)	1. 訓読漢文の世界（漢文読解規則の再確認） 2. 書き下し文規則の設計（漢文読解規則の再確認） 3. ヲコト点にふれる（漢文読解規則の再確認） 4～15. 日本文学の各時代に関わる本文・諸本・諸注釈の横断的読解 〔使用原本〕 岡白駒箋注『箋註蒙求校本』（江戸期の版本影印） 毛利貞齋『蒙求俚諺抄』 清原宣賢・注『蒙求抄』（室町期の注釈書） 清家文庫本（ヲコト点・書込注の分析と『蒙求抄』との照らし合わせ読み） 国会図書館大永年間写本（書込注の読解） 故宮博物院蔵平安末写本（ヲコト点に準拠した読解） 16-30. 類話・関連故事の収載話の横断的読解（およそ10～20作品） 出典となった作品や中国における他の作品で扱われる故事、さらには日本文学における影響作品（たとえば詩文・説話・軍記・和歌・俳諧・詩歌・随筆など）の集成・分析・読解を行う。 授業はレポーターにより作成された資料をもとに分析・読解を進めるが、作成された資料をさらに高次に発展させることに取り組む。			

平成 21 年度　日本言語文化学専攻　博士課程後期課程　科目編成表

○専任、△非常勤

授業科目	単位数 必修	単位数 選択	配当年次	開講コマ数	専・非	担当者名	備考	ページ
日本言語文化学特別演習	12		1〜3	1	○	藏中しのぶ	オムニバス形式	59
					○	福田　俊昭		
					○	寺村　政男		
日本言語文化学特論Ⅰ		4	1・2・3	1	○	藏中しのぶ		59
日本言語文化学特論Ⅱ		4	1・2・3	1	○	福田　俊昭		60
日本言語文化学特論Ⅲ		4	1・2・3	1	○	寺村　政男		60
日本言語文化学特論Ⅳ		4	1・2・3	1	○	西川　栄紀		61
応用日本語学特別演習	12		1〜3	1	○	田中　寛	オムニバス形式	61
						長谷川恒雄		
応用日本語学特論Ⅰ		4	1・2・3	1	○	田中　寛		62
応用日本語学特論Ⅱ		4	1・2・3	1	○	長谷川恒雄		62

履修方法

(1) 特別演習 12 単位および特論 4 単位、計 16 単位以上を取得しなければならない。

(2) 研究指導教員が必要と認めた場合に限り、他の専攻または他の研究科の授業科目について取得した単位は、所定の単位数に充当することができる。

授業科目	日本言語文化学特別演習	4単位	担当者名	藏中しのぶ・福田　俊昭 ・寺村　政男
授業の概要	建学の精神「東西文化の融合」と本学の学問的伝統の発展をめざして、東アジア世界に視座をおいた比較研究を核とし、異文化接触・異文化コミュニケーション論を文献学的・実証的に究明し、国際社会にひらかれた新たな「日本言語文化学」の構築をめざす。日本の漢語受容史を中心に、東アジア漢字・仏教文化圏における言語文化の形成基盤とその展開を、文献学・日中比較の立場から総合的に検証する。語彙・表現、思想・言語に内在する文化的発想様式等の面から、東アジア世界に介在した異文化理解の交差する言語文化的環境・影響の諸条件をあきらかにしつつ、日本の言語文化の内包する諸問題を実証的に解明する。受講生の研究テーマに即して、日本文学（藏中）・中国文学（福田）・東アジア言語文化学（寺村）の立場から、出典論・漢語と和語との関係論・対照研究の方法を指導し、日中言語文化の諸問題、異文化接触の際に生じる思惟の問題を総合的に探究する。			
成績評価の基準と方法	発表・レポート・出席状況・受講態度を総合的に評価する。			
履修条件	日本言語文化学特殊講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、いずれかの履修を義務づける。 講義時間外にも研究指導が及ぶことがあるので、研究を優先すること。			
教科書	受講生の研究テーマにかかわる先行論文。			
参考文献・資料等	各自の研究テーマに沿って、具体的に指導する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. オリエンテーション 2. 受講者による問題関心のプレゼンテーション、ディスカッション 3. 研究対象へのアプローチ①（先行研究の掌握） 4. 研究対象へのアプローチ②（問題点の抽出とこれを解決するための方法論の検討） 5. 研究対象へのアプローチ③（問題点に即した研究課題の設定と仮説・立論の構成） 6. 受講者による発表と討議① 7. 受講者による発表と討議② 8. 受講者による発表と討議③ 9. 受講者による発表と討議④ 10. 受講者による発表と討議⑤ 11. 受講者による発表と討議⑥ 12. 受講者による発表と討議⑦ 13. 受講者による発表と討議⑧ 14. 受講者による発表と討議⑨ 15. 本講義のまとめ―成果と今後の課題の確認		16. 前期の総括と後期のオリエンテーション 17. 前期を踏まえての受講者による問題関心のプレゼンテーション、ディスカッション 18. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ①（先行研究の掌握） 19. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ②（問題点の抽出と解決のための方法論の検討） 20. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ③（研究課題の再検討と仮説・立論の構成） 21. 受講者による発表と討議① 22. 受講者による発表と討議② 23. 受講者による発表と討議③ 24. 受講者による発表と討議④ 25. 受講者による発表と討議⑤ 26. 受講者による発表と討議⑥ 27. 受講者による発表と討議⑦ 28. 受講者による発表と討議⑧ 29. 受講者による発表と討議⑨ 30. 本講義のまとめ―成果と今後の課題の確認	

授業科目	日本言語文化学特論Ⅰ	4単位	担当者名	藏中　しのぶ
授業の概要	日中比較文学・日本文学 日本文学の立場からの日中比較文学として、資料間の出典関係に着目し、主として古代（上代～中古）における日本文学と仏教にかかわる言語文化の諸問題について考究する。 上代の漢詩文について、『南天竺婆羅門僧正碑并序』『唐大和上東征伝』『延暦僧録』等の僧伝文学や金石文を軸とし、『万葉集』『日本霊異記』『懐風藻』を視野に入れて、東アジア漢字・仏教文化圏における言語文化の形成基盤とその展開を、文献学・出典論の立場から総合的に検証する。			
成績評価の基準と方法	発表・レポート・出席状況・受講態度を総合的に評価する。			
履修条件	講義時間外にも研究指導が及ぶことがあるので、研究を優先すること。			
教科書	藏中しのぶ「『南天竺婆羅門僧正碑并序』と高僧伝―仏教的漢文伝の文学史的意義―」（『水門―言葉と歴史―』15、1986年11月、水門の会。『奈良朝漢詩文の比較文学的研究』所収） 藏中進「校本『唐大和上東征伝』」（『唐大和上東征伝の研究』所収） 藏中しのぶ「『延暦僧録』注釈（一）影印・校本篇」（『大東文化大学紀要』1990年3月、大東文化大学）			
参考文献・資料等	小島憲之『上代日本文学と中国文学』 藏中進『唐大和上東征伝の研究』 堀池春峰『南都仏教史の研究』 藏中しのぶ『奈良朝漢詩文の比較文学的研究』			
授業計画 (授業の内容等)	1. オリエンテーション 2. 受講者による問題関心のプレゼンテーション、ディスカッション 3. 研究対象へのアプローチ①（先行研究の掌握） 4. 研究対象へのアプローチ②（問題点の抽出とこれを解決するための方法論の検討） 5. 研究対象へのアプローチ③（問題点に即した研究課題の設定と仮説・立論の構成） 6. 受講者による発表と討議① 7. 受講者による発表と討議② 8. 受講者による発表と討議③ 9. 受講者による発表と討議④ 10. 受講者による発表と討議⑤ 11. 受講者による発表と討議⑥ 12. 受講者による発表と討議⑦ 13. 受講者による発表と討議⑧ 14. 受講者による発表と討議⑨ 15. 本講義のまとめ―成果と今後の課題の確認		16. 前期の総括と後期のオリエンテーション 17. 前期を踏まえての受講者による問題関心のプレゼンテーション、ディスカッション 18. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ①（先行研究の掌握） 19. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ②（問題点の抽出と解決のための方法論の検討） 20. 前期を踏まえての研究対象へのアプローチ③（研究課題の再検討と仮説・立論の構成） 21. 受講者による発表と討議① 22. 受講者による発表と討議② 23. 受講者による発表と討議③ 24. 受講者による発表と討議④ 25. 受講者による発表と討議⑤ 26. 受講者による発表と討議⑥ 27. 受講者による発表と討議⑦ 28. 受講者による発表と討議⑧ 29. 受講者による発表と討議⑨ 30. 本講義のまとめ―成果と今後の課題の確認	

授業科目	日本言語文化特論Ⅱ	4単位	担当者名	福田　俊昭
授業の概要	日中比較文学・中国文学 中国文学に立脚し、日中比較文学を検証する。主として中国古典文学における言語文化の諸問題について考究する。特に中国の古代・中古において辞書的性格を発揮した「類書」を中心に日本文学とのかかわりを講義する。 　そのほか、日本に多大な影響を及ぼした『文選』『白氏文集』などを通して、日本言語文化の展開を出典論を中心に考察する。			
成績評価の基準と方法	出席状況・レポートを中心に、発表・受講態度などを総合的に勘案して評価する。			
履修条件	多少、漢文訓読ができること。			
教科書	開講時間にプリントを配布する。			
参考文献・資料等	日中比較文学に関するものならば何でもよい			
授業計画 (授業の内容等)	1. 自己紹介、オリエンテーション 2. 日本文学における『文選』の受容 3. 日本文学における『文選』の受容 4. 日本文学における『文選』の受容 5. 日本文学における『文選』の受容 6. 日本文学における『白氏文集』の受容 7. 日本文学における『白氏文集』の受容 8. 日本文学における『白氏文集』の受容 9. 日本文学における『白氏文集』の受容 10. 日本文学における『白氏文集』の受容 11. 日本文学における『蒙求』の受容 12. 日本文学における『蒙求』の受容 13. 日本文学における『蒙求』の受容 14. 日本文学における『蒙求』の受容 15. 日本文学における『蒙求』の受容		16.『初学記』にみえる漢語と和語の関係 17.『初学記』にみえる漢語と和語の関係 18.『初学記』にみえる漢語と和語の関係 19.『初学記』にみえる漢語と和語の関係 20.『初学記』にみえる漢語と和語の関係 21.『藝分類聚』にみえる漢語と和語の関係 22.『藝分類聚』にみえる漢語と和語の関係 23.『藝分類聚』にみえる漢語と和語の関係 24.『藝分類聚』にみえる漢語と和語の関係 25.『藝分類聚』にみえる漢語と和語の関係 26. 敦煌類書と日本文学 27. 敦煌類書と日本文学 28. 敦煌類書と日本文学 29. 敦煌類書と日本文学 30. 敦煌類書と日本文学	

授業科目	日本言語文化学特論Ⅲ	4単位	担当者名	寺村　政男
授業の概要	博士論文執筆について各種の資料を紹介して、その解読を指導する。共通テーマとして満洲語の文献購読を行う。今年は『庸言知旨』を教材として輪読形式で進めていく。			
成績評価の基準と方法	発表、レポート、出席状況、受講態度などなどを勘案して総合的に評価をくだす。			
履修条件	日本言語文化学特殊講義Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかの履修を義務とする。 講義時間外にも研究指導が及ぶことがあるので、研究を優先させること。			
教科書	受講生の研究テーマに関わる先行論文。			
参考文献・資料等	各自の研究テーマに沿って、具体的に指導する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. はじめに 2. 満洲語の解説 1（その歴史） 3. 満洲語の解説 2（満洲文字解説 1 母音） 4. 満洲語の解説 3（満洲文字解説 2 子音 1） 5. 満洲語の解説 4（満洲文字解説 3 子音 2） 6. 満洲語の解説 5（満洲文字解説 4 特殊文字） 7. 満洲語の解説 6（語法解説 1） 8. 満洲語の解説 7（語法解説 2） 9. 満洲語の解説 8（語法解説 3） 10. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 1（第 1 巻） 11. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 2（第 1 巻） 12. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 3（第 1 巻） 13. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 4（第 1 巻） 14. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 5（第 1 巻） 15. 第 1 巻まとめ（漢語、満洲語のまとめ）		16. 秋期のはじめに. 17. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 6（第 2 巻） 18. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 7（第 2 巻） 19. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 8（第 2 巻） 20. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 9（第 2 巻） 21. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 10（第 2 巻） 22. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 11（第 2 巻） 23. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 12（第 2 巻） 24. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 13（第 2 巻） 25. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 14（第 2 巻） 26. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 15（第 2 巻） 27. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 16（第 2 巻） 28. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 17（第 2 巻） 29. 満漢合璧『庸言知旨』 解読 18（第 2 巻） 30. 第 2 巻まとめ（漢語、満洲語のまとめ）	

授業科目	日本言語文化学特論Ⅳ	4単位	担当者名	西川　栄紀
授業の概要	文化的・社会的背景を異にする土地柄では（ここでは英語圏の）、ことばはどのように文化を映し出し、かつカテゴリー化するのか、また文化はどのようにことばを創り出し、かつ変容するかについて、具体的な事例に基づき、英日比較の視点を交えて論じる。			
成績評価の基準と方法	課題レポートの成果、授業中の研究討議やワークショップへの参加状況、出席状況により総合的に評価する。			
履修条件	英和、和英、英英の三種類の英語辞書を必携とする。			
教科書	赤祖父哲二他編『日・中・英言語文化辞典』マクミランランゲージハウスグ 2000			
参考文献・資料等	日英言語文化研究会編『日英語の比較－発想・背景・文化』三修社 2006 映像資料（映画、テレビ録画、マンガ、写真など）を用意する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. 日英言語文化比較の諸問題 2. 日英語彙と背景文化 3. 同上 4. 日英談話と背景文化 5. 同上 6. 英語冠詞と日本語的冠詞：潜在意識 7. 同上 8. 英語前置詞と日本語後置詞 9. 同上 10. 統語構造と情報構造の日英語比較 11. 同上 12. 時制交替の日英語比較 13. 同上 14. 翻訳における文化的要因比較 15. 同上	16. 脳科学の知見と日英語教育 17. 同上 18. 同上 19. マンガにおける日英語比較 20. 同上 21. 同上 22. 映像を通してみる日英言語文化比較 23. 映画（アメリカ） 24. 同上 25. 映画（イギリス） 26. 同上 27. 身体語彙使用の慣用句の計量的比較 28. 同上 29. 脳科学の知見援用の教育文法 30. 同上		

授業科目	応用日本語学特別演習	4単位	担当者名	田中　寛・長谷川恒雄
授業の概要	本演習はオムニバス形式により、同一の授業を２名の教員が共同で担当する。 【前期前半・後期前半】は日本語学・日本語教育文法の諸問題を担当する。現代日本語の構造を文法の面から詳細に分析・検討し、日本語教育の現場に役立つ教育文法の構築条件を考察する。他言語との対照比較研究も視野に入れる。 【前期後半・後期後半】 日本語教育学、教授活動の諸問題を担当。言語習得理論、年少者教育など今日の日本語教育学の内包する諸問題、ならびに教科書比較、教材研究、日本事情研究を扱う。多元言語、多元文化社会における共生をもとめて日本語教育学の果たすべき役割を通時的、共時的観点から研究していく。			
成績評価の基準と方法	出席状況、提出物、発表など、総合的判定にもとづく。			
履修条件	応用日本語学特論Ⅰ、Ⅱのいずれかの履修が義務付けられる。 オムニバス形式なので、前期、後期のみの受講は認められない。			
教科書	受講生の研究テーマにかかわる先行研究文献。 プリント配布、また適宜、教室で指示する。			
参考文献・資料等	各自の研究テーマにそって、具体的に指導する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 2. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 3. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 4. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 5. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 6. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 7. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 8.【前期後半】 言語・コミュニケーション 9. 文字言語・音声言語 10. SLA　自然習得と教室環境 11. 異文化移動と社会化 12. コミュニケーション能力育成・習得 13. 音声言語の教材化 14. タキソノミー SLA における情意的要因 15. 日本語教育学、日本語教育の諸問題	16. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 17. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 18. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 19. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 20. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 21. 日本語学、日本語教育文法の諸問題 22.【後期後半】 学習ストラテジー 23. 脳科学と SLA 24. 言語処理プロセスと諸教授法 25. SLA における学習者の認知的要因 26. SLA と社会文化的背景 27. SLA の阻害条件としての 第１言語社会文化的知識 28. 多言語・多文化共生社会化 29. 日本語教育学、日本語教育の諸問題 30. 日本語教育学、日本語教育の諸問題		

授業科目	応用日本語学特論Ⅰ	4単位	担当者名	田中　寛
授業の概要	①現代日本語の基層構造をなす文法カテゴリー、文法化の過程を再検討する。コミュニケーション活動、言語行動、発話行為からみた文法研究の可能性を探る。特に日本語的表現の基軸をなす「情意」の構造について多角的に検討する。 ②他言語との比較対照の観点から、日本語の諸特徴を明らかにする。さらに日本語教育に寄与する文法研究を模索する。なお、語彙と文章、談話の諸問題も適宜あつかう。 ③年間、少なくとも２回の研究会での研究発表、３本の学術論文の作成が義務付けられる。このノルマを達成しなければ博士論文の完成は非常に厳しいことをあらためて認識してほしい。 そのためには研究時間、研究環境の確保をまず最優先すべきである。			
成績評価の基準と方法	出席、提出物、発表態度、研究会・学会活動など総合的に判定。			
履修条件	応用日本語学特別演習とタイアップした講義なので、相補的に教授する。			
教科書	受講生の研究テーマにかかわる文献を選読。 とくに指示しない。			
参考文献・資料等	その都度、指示する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. 主として取り立ての構造 2. 同上 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 主としてヴォイスの構造 7. 同上 8. 同上 9. 同上 10. 同上 11. 主としてモダリティの構造 12. 同上 13. 同上 14. 同上 15. 同上	16. 主として接続の構造について 17. 同上 18. 同上 19. 同上 20. 同上 21. 主として文末の構造について 22. 同上 23. 同上 24. 同上 25. 同上 26. 主として談話・文章論の観点から 27. 同上 28. 同上 29. 同上 30. 同上		

授業科目	応用日本語学特論Ⅱ	4単位	担当者名	長谷川　恒雄
授業の概要	①　日本語教育における教室内外の活動を、規範的な言語知識を有する側（教師）が効率のよい教え方（教授法）を実践する行為と考えるのではなく、日本語を非母語とする学習者が日本語を習得していく過程として意識しなおし、活動としても学習者と日本語母語話者との接触場面を多角的かつ多層的に利用し、教室においてはそれら接触場面で得たものをどのように competence に高めていくかという教師－学習者間の interaction のあり方と捉え直して考察を進める。 ②　日本語教育における＜日本側＞の言語管理（Language Management）がどのように立案され、現場に展開していったかを、戦前、戦中、戦後にわたり諸地域の日本語教育史のありかたを比較検証しながら考察を加える。同時に、言語政策、日本語教育施策のあるべき姿について問題を整理していく。			
成績評価の基準と方法	出席、レポート提出物、発表などにより総合的に評価する			
履修条件	日本語学特別演習を同時に履修するものとする			
教科書	受講生の研究テーマにかかわる先行文献			
参考文献・資料等	教室でその都度、指摘する			
授業計画 (授業の内容等)	1. 近代パラダイムと外国語教授法 2. 外国語教育の対象としての言語 1 3. 外国語教育の対象としての言語 2 4. 外国語教育の対象としての言語 3 5. 外国語学習 needs としての communication 能力 1 6. 外国語学習 needs としての communication 能力 2 7. POST MODERN パラダイムとしての SLA 8. 自然習得と教室環下での学習 9. 国際間の人の移動 1 communication の問題 10. 国際間の人の移動 2 communication の問題 11. 国際間の人の移動 3 communication の問題 12. 国際間の人の移動 4 identity の問題（「国民」概念との葛藤） 13. 国際間の人の移動 5 不適応の問題 14. 適応訓練の問題と communication 教育 1 15. 適応訓練の問題と communication 教育 2	16. 自然習得と教室環境下（文法中心）の習得の差異（桃山期宣教師、シーボルト II） 17. 日常的接触による音声言語習得と文字言語の習得（鎖国期マカオの日本語教育） 18. 文明学をめざした日本語教育（鎖国期欧州の日本語教育） 19. 近代化活動支援にともなう日本語学習（明治期の西欧人） 20. 明治期留学生（朝鮮・中国）の日本語教育 21. 植民地（台湾・朝鮮）における直説法による日本語教育の展開 22. 中国の洋務運動と日本語教育 23. 日本語教育国策化 1（『対外文化事業政策について』1931、外務省） 24. 日本語教育国策化 2（興亜院） 25. 日本語教育国策化 3（日本語教育振興会） 26. 日本語教育国策化 4（日本語教育振興会） 27. 戦後の日本語教育施策 1 28. 戦後の日本語教育施策 2（留学生 10 万人計画） 29. 戦後の日本語教育施策 3（地域の日本語教育） 30. 多文化・多言語共生社会をめざした日本語教育施策		

授業科目	言語学特殊講義Ⅰ	4単位	担当者名	平林　幹郎
授業の概要	言語学を学ぶには日本語と英語を知っているだけでは不十分です。ドイツ語、フランス語は言語研究にとって必要です。特に西洋学では重要です。昭和9年の小倉進平の粗末なガリ版刷りの言語学概論のテキスト（上巻と下巻。全274頁。啓明社）を見ると、全頁に亘ってドイツ語が溢れています。19世紀のドイツの言語学はとても優れています。L. Bloomfield はドイツの Leipzig で学び、世界の多くの言語学者と交わりました。ドイツ語の文献、特に辞典は詳しく、正確で、まさに言語学の宝庫です。 講義では、特に音声学、意味論、歴史・比較言語学を重視します。			
成績評価の基準と方法	主にレポートと出席状況			
履修条件	外国語学研究科共通科目			
教科書	田中他著　『言語学入門』2003. 第35版大修館　￥1,730円（全262頁） （学内の池上書店で購入すること）			
参考文献・資料等	平林　幹郎著　『サピアの言語論』（勁草書房）1998. 改訂版 平林　幹郎著　『英語の起源と古低地ドイツ語』（現代図書）　2009 金田一京助編　『国語学大辞典』1982.　東京堂 『音声学大辞典』1976. 三修社 その他授業で指示します。			
計画 （授業の内容等）	1. 講義の説明 2. 序論 3. 同上 4. 同上 5. 同上 6. 音論 7. 同上 8. 同上 9. 同化と異化（p.52） 10. 統語論 11. 同上 12. 同上 13. 同上 14. 文の生成 15. 同上	16. 文の生成 17. 同上 18. 意味論 19. 同上 20. 同上 21. 歴史・比較言語学 22. 同上 23. 古音推定の方法（p.189） 24. A. シュライヒャー「羊と馬の寓話」 25. 日本語の系統（p.212～） 26. 同上 27. 言語地理学 28. 同上 29. 同音異義と同音衝突（p.224） 30. 方言（沖縄、宮崎、山形、イギリス、ドイツなど）		

授業科目	言語学特殊講義Ⅱ	4単位	担当者名	福盛　貴弘
授業の概要	アルタイ言語学入門 本年度は主にトルコ諸語の音声・音韻・形態論について概説を行なう。 特にアクセントと母音調和については手厚く扱う予定である。			
成績評価の基準と方法	年度末のレポートによって評価する。			
履修条件	音声学および一般言語学的な知識を有し、アルタイ諸語に興味を持つものであれば、特に制限しない。			
教科書	福盛・デニズ共著『今すぐ使えるトルコ語入門』勉誠出版			
参考文献・資料等	『言語学大辞典』三省堂			
授業計画 （授業の内容等）	1. オリエンテーション 2. アルタイ諸語概説1 3. アルタイ諸語概説2 4. アルタイ諸語概説3 5. トルコ語の音声1 6. トルコ語の音声2 7. トルコ語の音声3 8. トルコ語の音素 9. トルコ語の音節 10. トルコ語のアクセント1 11. トルコ語のアクセント2 12. トルコ語のアクセント3 13. トルコ語のアクセント4 14. トルコ語のアクセント5 15. トルコ語のアクセント6	16. トルコ語の母音調和1 17. トルコ語の母音調和2 18. トルコ語の母音調和3 19. トルコ語の母音調和4 20. トルコ語の母音調和5 21. トルコ語の母音調和6 22. トルコ語のイントネーション1 23. トルコ語のイントネーション2 24. トルコ語の基本文法1 25. トルコ語の基本文法2 26. トルコ語の基本文法3 27. トルコ語の基本文法4 28. その他のトルコ諸語1 29. その他のトルコ諸語2 30. その他のトルコ諸語3		

授業科目	外国語教授法特殊講義	4単位	担当者名	田口　悦男
授業の概要	効果的な外国語教育の実践には言語習得のプロセスを理解することが重要である。言語習得に関わる諸問題、及びスキル習得に関わる諸問題について学び、その知見に基づき、効果的な指導法を考える。理論に基づいた効果的で実践的な指導法を考え、また、実際に効果的とされる指導法を考え、また、実際に効果的とされる指導法を考え、また、実際に効果的とされる指導法をグループ・ワークやペア・ワークにより体験してもらう。			
成績評価の基準と方法	1. 授業貢献（10%）出席、及び授業内容に関する質問、発言など 2. 課題（50%）発表、論文　　3. 期末試験（40%）			
履修条件	出席、発表、課題提出、及び積極的な議論への参加など			
教科書	『日本語教育に生かす第二言語習得研究』迫田久美子　アルク 適宜、必要に応じてハンドアウトを配布する。			
参考文献・資料等	小柳かおる（2004）『日本語教師のための新しい言語習得概論』スリーエーネットワーク 白井恭弘（2004）『外国語学習に成功する人、しない人－第二言語習得論への招待』岩波書店 白畑知彦・編著　若林茂則／須田孝司（2004）『英語習得の「常識」－第二言語習得研究からの検証』大修館書店 Patsy M. Lightbown & Nina Spada（2007）How Language Are Learned（3rd edition）Oxford University Press.			
授業計画 (授業の内容等)	1. 1章（8－11）1.1 2. 1章（11－18）1.2－1.3 3. 2章（19－27）2.1－2.2 4. 2章（19－27）2.1－2.2 5. 授業のまとめ1 6. 3章（35－47）3.1－3.3.3 7. 3章（45－57）3.4－3.6.3 8. 4章（58－69）4.1－4.2 9. 4章（69－81）4.3－4.3.3 10. 4章（81－93）4.4－4.4.5 11. 4章（93－107）4.5－4.6.5 12. 4章（107－122）4.7－4.7.3 13. 図書館利用オリエンテーション1 14. 図書館利用オリエンテーション2 15. 授業のまとめ3		16. 5章（123－131）5.1－5.3.3 17. 5章（131－141）5.4－5.5.3 18. 6章（142－152）6.1－6.2 19. 6章（153－156）6.3 20. 7章（165－176）7.1－7.2.6 21. 7章（176－180）7.1－7.1－7.2.1 22. 8章（181－193）8.1－8.3 23. 論文発表準備1 24. 論文発表準備2 25. 論文発表第1回 26. 論文発表第2回 27. 論文発表第3回 28. 論文発表第4回 29. 授業のまとめ4 30. 授業のまとめ5	

授業科目	社会言語学特殊講義	4単位	担当者名	朝日　祥之
授業の概要	本講義では、私たちが日常生活で使う言葉に潜む規則性を明らかにする社会言語学を取り上げ、社会言語学の諸問題について理解を深めてもらうことを目的とする。社会言語学における諸分野における日本・欧米の研究動向を踏まえ、ことばが、話者の属性や場面、話し相手とどのようにかかわっているのかを考察する。受講生の研究テーマとの関係性についても話し合う。			
成績評価の基準と方法	出席、発表・受講態度、その他によって総合的に評価する。			
履修条件	特になし			
教科書	真田信治（編）『社会言語学の展望』くろしお出版			
参考文献・資料等	特になし			
授業計画 (授業の内容等)	1. 社会言語学とは 2. 社会言語学の方法論 3. 属性と言葉 4. 言語行動 5. 言語生活 6. 言語接触 7. 方言接触 8. 言語意識 9. 第一言語習得 10. 第二言語習得 11. 言語計画 12. 国語施策 13. 国語教育のこれから 14. 敬語と敬語意識 15. 社会集団の言語行動		16. 関係と関係作り 17. ポライトネスと関係作り 18. 手話と関係作り 19. 外国語と関係作り 20. ドメイン 21. ダイグロッシア 22. コード切り替え 23. スタイル切り替え 24. ピジン 25. クレオール 26. コイネ 27. 言語の死 28. 言語復興 29. 多言語化現象 30. エスニックメディア	

授業科目	対照言語学Ⅱ（日中）	4単位	担当者名	高橋　弥守彦
授業の概要	本講義は、文法を中心に日中両言語の対照を行う。特に日中両言語の相違点について取りあげる。授業中に日中両言語の相違に関する著書や論文を紹介し、その理論や問題の促え方を整理し研究手法を検討する。また、討論形式によって授業を進めることや、各自の研究テーマを発表してもらうこともある。			
成績評価の基準と方法	普段の勉強や研究姿勢および研究発表の内容に基づいて総合的に評価する。			
履修条件	言語の学習や研究に興味を持ち、日中両言語の比較対照に感心があること。			
教科書	授業中に配布（論文など）			
参考文献・資料等	実用詳解中国語文法（郁文堂）、中国語談話言語学概論（白帝社）			
授業計画 (授業の内容等)	1. 日中両言語の語音・語彙・語法 2. 日中対照研究方法論（1） 3. 日中対照研究方法論（2） 4. 日中対照研究方法論（3） 5.「SPO」（中国語）と「SOP」（日本語）の語順 6. 時間詞の語順 7. 空間詞の語順 8. 限定語と連体修飾語の語順 9. 状況語と連用修飾語の語順 10. 二重客語文とやりもらい文との語順（1） 11. 二重客語文とやりもらい文との語順（2） 12. ＜ひと＞の移動と空間詞との関係（1） 13. ＜ひと＞の移動と空間詞との関係（2） 14. ＜ひと＞のありかと空間詞との関係（1） 15. ＜ひと＞のありかと空間詞との関係（2）	16. 日中両言語のテンスとアスペクト（1） 17. 日中両言語のテンスとアスペクト（2） 18. 日中両言語のボイス（1） 19. 日中両言語のボイス（2） 20. 日中両言語のムードとモダリティ（1） 21. 日中両言語のムードとモダリティ（2） 22. 研究発表（1） 23. 研究発表（2） 24. 研究発表（3） 25. 研究発表（4） 28. 研究発表（5） 27. 意味変化の過程（1）－移行－ 28. 意味変化の過程（2）－類縁－ 29. 品詞、転成 30. 領域転換		

授業科目	対照言語学Ⅲ（日韓）	4単位	担当者名	森山　新
授業の概要	日韓対照言語学の概要を学ぶ。 日韓対照言語学に関する論文を読む。 日韓対照言語学を教育に応用する。 日韓対照言語学を自身の研究に生かす。			
成績評価の基準と方法	授業参加・態度、発表、レポート			
履修条件	ハングルが読み書きでき、初級以上の知識を有する者に限る			
教科書	日韓対照言語学入門（白帝社）			
参考文献・資料等	対照研究と日本語教育（国立国語研究所）			
授業計画 (授業の内容等)	1. 音声と音素 2. 音声と音素 3. 漢字音 4. 漢字音 5. 語種 6. 語種 7. 品詞 8. 品詞 9. 助詞 10. 助詞 11. 語彙 12. 語彙 13. 待遇法 14. 待遇法 15. まとめ	16. 対照言語学と日本語教育 17. 対照言語学と日本語教育 18. 対照言語学と日本語教育 19. 音声学に関する論文購読 20. 文字・表記に関する論文購読 21. 語彙に関する論文購読 22. 文法（形態論）に関する論文購読 23. 文法（形態論）に関する論文購読 24. 統語論に関する論文購読 25. 統語論に関する論文購読 26. 待遇法に関する論文購読 27. 論文指導 28. 論文指導 29. 論文指導 30. まとめ		

授業科目	映像メディア文化論	4 単位	担当者名	西川　栄紀
授業の概要	音声・文字・映像メディアの特性を理解し、これら多メディアを応用・融合したシステムの使用を通して、映像（動画と静止画）情報と文字情報、映像情報と音声情報それぞれの併用のメリットとデメリットを考える。授業の前半は加工作品の検証を中心とし、後半ではメディア変換作業を体験する。			
成績評価の基準と方法	課題レポートの成果、授業中の研究討議やワークショップへの参加状況、出席状況により総合的に評価する。			
履修条件	コンピュータなど情報機器の使用に意欲的な人			
教科書	Kishigami, H and Nishikawa, E.（2008）. *Familiar Things: Japanese Culture in English.* Tokyo: Nan'un do.			
参考文献・資料等	映像資料（映画、テレビ録画、マンガ、写真など）を用意する。			
授業計画（授業の内容等）	1. 静止画のメリットとデメリット 2. 同上 3. 動画のメリットとデメリット 4. 同上 5. マンガ・挿絵・写真の有効利用 6. 同上 7. 映画・ビデオの有効利用 8. 同上 9. 映像情報と文字情報の併用： メリットとデメリット 10. 同上 11. 同上 12. 映像情報と音声情報の併用： メリットとデメリット 13. 同上 14. 同上 15. 同上		16. 映像情報と音声認識システムの併用 17. 同上 18. 同上. 19. 映像メディア併用効果に関する理論 20. 同上 21. 映像メディア利用の教科書教材 22. 同上 23. タスクの種類・内容と有効性 24. 同上 25. 映像・文字・音声併用のタスクの作成 1 26. 同上 27. 映像・文字・音声併用のタスクの作成 2 28. 同上 29. 映像・文字・音声併用のタスクの作成 3 30. 同上	

授業科目	情報文化論	4 単位	担当者名	今　防人
授業の概要	情報の重要なメディアである映像に焦点を絞り考える。本授業では歴史認識と映像の関係を考察する。具体的には昭和 30 年から 64 年までのニュース映画を鑑賞し映像による歴史表現を考える。			
成績評価の基準と方法	出席と普段のレポートをもとに評価する。			
履修条件	映像による歴史叙述が全てでないことは言うまでもない。現今でも文字による歴史も依然として主流といえる。歴史研究も十分参照して欲しい。			
教科書	毎日新聞社発行の DVD『なつかしの昭和』全 15 巻を使用する。			
参考文献・資料等	授業中に紹介する。			
授業計画（授業の内容等）	1.「昭和 30－31 年戦後は終わったが激化する基地問題」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 2. レポートを発表し討論する。 3.「昭和 32－33 年鍋底不況にあえぐもロカビリーが人気」を鑑賞し討論する。課題を発見する。 4. レポートを発表し討論する。 5.「昭和 34 ⇒ 35 年皇太子ご成婚そして 60 年安保」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 6. レポートを発表し討論する。 7.「昭和 36 ⇒ 37 年所得倍増、池田はウソを申しません」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 8.「昭和 38 ⇒ 39 年高度成長そして東京オリンピック」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 9. レポートを発表し討論する。 10.「昭和 40 ⇒ 41 年史上空前相次いだ航空機事故」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 11. レポートを発表し討論する。 12.「昭和 42 ⇒ 43 年 GNP 第 2 位そして学生運動」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 13. レポートを発表し討論する。 14.「昭和 44 ⇒ 45 年大阪万博は華やかに」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 15. レポートを発表し討論する。		16.「昭和 46 ⇒ 46 年日中旧に復す　戦慄の浅間山荘事件」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 17. レポートを発表し討論する。 18.「昭和 47 ⇒ 48 年石油危機に狂乱物価三菱重工ビル爆破」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 19. レポートを発表し討論する。 20.「昭和 50 ⇒ 52 年高度成長の終焉そして、ロッキード事件」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 21.「昭和 53 ⇒ 55 年大平総理が残した自民圧勝」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 22. レポートを発表し討論する。 23.「昭和 56 ⇒ 58 年「不確実性の時代」の中の改革」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 24. レポートを発表し討論する。 25.「昭和 59 ⇒ 61 年日航ジャンボ機墜落　日本を魅了したダイアナ妃」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 28. レポートを発表し討論する。 27.「昭和 62 ⇒ 64 年在位期間 62 年と 14 日昭和天皇、逝く」を鑑賞し討論する。課題を発見する。各自レポートを準備する。 28. レポートを発表し討論する。 29. まとめ（1） 30. まとめ（2）	

授業科目	言語情報処理論	4 単位	担当者名	米山　聖子
授業の概要	本講義では、PC の基本ソフトや PC 関連機器の方法について学び、PC を用いてコーパス（言語情報）を分析する。前期は主に将来教壇に立った際に必要と考えられる PC 基本ソフト（エクセル・ワード・パワーポイントその他）や PC 周辺機器の使用方法を学ぶ。クラス運営（課題の作成から返却、成績管理など）を円滑に行うための PC リテラシーを獲得するとともに、学会発表への準備も行う。後期は既成の言語分析ソフトを利用して、言語分析を行う方法論を学ぶ。学生は実際にテーマを決めて、各自が言語分析の研究を遂行し、学期末に課題として発表するとともにリサーチペーパーとしてまとめる。			
成績評価の基準と方法	出席状況、前期・後期の課題、宿題提出によって総合的に判断する。			
履修条件	学園情報センターで学内ネットワークのアカウントを取得すること。 パソコンの基本動作が出来ること			
教科書	プリント配布			
参考文献・資料等	SCN コーパス（http://www.corpora.jp/） 日本語データベースとソフトウェア（http://www.kokken.go.jp/lrc/）			
授業計画 (授業の内容等)	1. 前期ガイダンス 2. エクセル・ワードを使った授業演習（1） 3. エクセル・ワードを使った授業演習（2） 4. エクセル・ワードを使った授業演習（3） 5. エクセル・ワードを使った授業演習（4） 6. エクセル・ワードを使った授業演習（5） 7. 発表演習（パワーポイント） 8. 発表演習（パワーポイント） 9. 発表演習（パワーポイント） 10. 発表演習（画像処理） 11. 発表演習（音声処理） 12. 発表演習（図・表作成） 13. 総合問題演習 14. 総合問題演習 15. まとめ	16. 後期ガイダンス 17. 言語分析ソフトウェア（えだまめ・ひまわり） 18. コーパス分析（日本語文学作品） 19. コーパス分析（日本語文学作品） 20. コーパス分析（日本語文学作品） 21. BNC コーパスの使い方 22. コーパス分析（BNC コーパス） 23. コーパス分析（BNC コーパス） 24. コーパス分析（BNC コーパス） 25. 発表準備 26. 発表準備 27. 発表 28. 発表 29. 発表 30. まとめ		

授業科目	マルチメディア教育論	4 単位	担当者名	石毛　文茂
授業の概要	マルチメディアを用いた語学教育法基礎理論を解説し、さらに具体的な操作を実践的に行う。音声と動画の取り扱い、ネットワークによる情報の交換、情報処理機器による採点や学習効果の評価など、マルチメディア技術を語学教育・研究の実例をあげて解説する。外国語の特殊性（たとえば多国語の表示、音声の加工）の処理を含めコンピューターによるマルチメディアデータの総合的な処理技能を培うことを目標とする。			
成績評価の基準と方法	出席率（30%）と最終作品発表の評価（70%）			
履修条件	基本からの解説を理解し、実際の作業を積極的に参加しましょう。			
教科書	プリントを配付する。			
参考文献・資料等	開講時に支持する。			
授業計画 (授業の内容等)	1. オリエンテーション 2. パソコンの文字表示法（文字コードセット） 3. 外国語文字（中国語）の表示法 4. 日本語漢字を利用する方法 5. 擬似コードの使用方法 6. 外国語コード（中国語）の表示法 7. 日本語と外国語混在の方法 8. 外国語の発信（電子メール・ホームページ） 9. UNICODE の利用法 10. 文字画像データの利用法 11. パソコンの音声処理について 12. AD・DA 変換（音質・ノイズ） 13. 図書館利用オリエンテーション 1 14. 図書館利用オリエンテーション 2 15. 音声の加工と形式変換	16. 音声データの公開 17. 授業で呈示用の基本方法 18. インターネットでの公開方法 19. 静止画像の処理と表示 20. ビデオの処理と表示 21. コンテンツ脚本の作成 22. 素材採集（1） 23. 素材採集（1） 24. 素材採集（1） 25. キャプチャー 26. ビデオに文字画面とイラストの挿入及び編集 27. ビデオに音声の追加や編集 28. コンテンツ公開の方法 29. DVD・CD による配付 30. インターネットでの公開発表		

MEMO

MEMO

MEMO

大学院外国語学研究科シラバス

発行者　**大東文化大学大学院事務室**

〒175-8571 東京都板橋区高島平１丁目９番１号

電話 03(5399)7344

発　行　平成 21 年 3 月 26 日

印刷所　倉敷印刷株式会社